
ギャグNOVEL大戦SUMMER 21の主演とコアメダル

ハルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャグNOVEL大戦SUMMER 21の主演とコアメダル

【Nコード】

N8299U

【作者名】

ハルル

【あらすじ】

【ライダータウン×オーズ兄弟×ディケブラ Feat・リマジ
OOO ギャグNOVEL大戦SUMMER】に登場する21人の
キャラクターが織り成す、爆笑・陳情・激情・友情の物語！
タジャドルがあんな職業に挑戦？

グリードの一人が経営するカフェ？

辰巳シンジVS辰巳シンジ！？

ブラカワニのパパンらしい部分はあるのか？

21人のストーリーに加えて、オマケ3話を含めた全24話で構成

∴ カオスであること間違いなし！

Fileタカ：タトバキックよ永遠に

士「ふんふん…成程」

海東「どうしたんだい士、難しい顔をして」

士「いや、実はな…ちょっとオース本編やコア大戦を見直して、考えてみたんだ」

映司「へえ…それで？」

士「実はな…ジャリ剣・プトティラ以外のメダガブリューを除く各コンボの必殺技の統計が以下になった」

【本編】

タトバキック…2回（ただし、不発とバースとの同時打ち）

ガタキリバキック…3回（映画1）

ラトラーターSC…2回（名称は未だに不明）

サゴーゾインパクト…2回（映画1）

プロミネンスドロップ…2回（映画でのダブルとの同時キックは除外）

マグナブレイズ…2回

セルのみGS…1回

オクトバニッシュ…3回

プトティラSC…1回

ストレインドウム…5回

【コア大戦】

タトバキック↓2回（1回はツイハーク）

ガタキリバキック↓1回

ラトラーターSC↓2回（1回はタクミ）

サゴゾインパクト↓1回（シンジしかない）

オクトバニッシュ↓3回（映司・ショウイチ・エイジス）

プロミネンスドロップ↓3回（1回はファルコ・1回は士）

マグナブレイズ↓1回（ソウジのみ）

ストレインドウム↓2回

【オマケ】

スマブラの世界を含めるとリンクが107話でタトバキック+1

コア大戦スピンオフを含めると以下の通り

・マグナブレイズ+3（File10、23×2） File32

は除外

・オクトバニッシュ+3（File19、21×2）

・ストレインドウム+3（File21、23×2） File

23でのツイハークプティラの流星による連続攻撃はノーカンのため1回扱い

これに加え、リイマジオーズを含めると、オクトバニッシュ+1

エイジ「それがどうしたんだ？」

士「まだ気付かないか？……総てを合計すると、プティラ>シャ
ウタ>タジャドルMB>タジャドルPD＝タトバ>ガタキリバ＝ラ
トラーター>サゴゾ……」

ブラカワニ「うわ、パパンはしょうがないけどサゴゾ……」

サゴゾ「言うなあああ！」

士「そう、普通だったらサゴーズの少なさに目が行くだろう。だが！問題はそこじゃない…」

全「「え？」」

士「タトバキックは、オーズ本編で不発と同時打ち…不発は勿論相手に当たっていないので0として、同時打ちはどちらが先に仕留めたか分からないので0.5扱い…つまりタトバキックは、3.5回と言うことになるんだ！」

ピット「仕留められなかったぐらいでそんな論理通用しますか？」
タジャドル「つてか、3.5もあれば充分…」

士「甘いな。その3.5を稼いでいるツイハークの1発は作者にすら忘れられ最近訂正されたレベル…リンクの1発に至っては『タトバキック』という名前すらない！」

カズマ「あ、」

海東「成程！そうなってくると、-2で1.5回ということに」

タトバ「……タトバキック…タトバ、キック……orz」

カズマ「…タトバが…」

リンク「大丈夫？」

シャウタ「……ライ」

タジャドル「うちの弟が気にしていることを、よくもまあ抜け抜けと…」

士「げっ…」

海東「え、ちよつと、何で僕まで狙おうとしているんだい！？つてか、何か既に重力操作で引き寄せられ…」

馬鹿二人はオーズ兄弟によって制裁を食らいました

くくく

タトバ「…うわあああーん！そりゃあ、確かに、タトバキックは…外したり一人で決められなかったりしてるけど…そんな言い方あああ！！」

リンク「よしよし」

ピット「あんたにも懲りないですよねえ」

シンジ「最低」

士「ごめんなさい…」

海東「……うつ」

???「——君の悩みは理解した。ならば、確実に必殺技を決める為のレクチャーをしよう！」

ピット「あ、あなたは…最後の切札が轢き逃げと名高い…」

リンク「キャプテン・ファルコン！」

C・F「はっはっは」

エイジス「……俺の記憶だと、あんたの切札は特殊な軌道を描くから若干当てにくいはずなんだが」

C・F「そこは気にしないでくれ、レーヴァティン当主」

エイジス「…あと、ファルコンパンチは無駄に当てにくい（それで

もガノンよりはマシ」よな」

C・F「それも言わないでくれ」

リンク「Bで強力な技出せる人はその傾向強いよね」

ピット「いや、Bで飛び道具使う人も…一直線にしか撃てないんで
すから、大抵は不便ですよ。特にあんたが」ピットは軌道を変え
られます

エイジス「——つか、そもそも、あんた出番…」

C・F「それこそ言わないでくれ！」

シヨウイチ「で、そんなロマン型男が何の用だ？」

C・F「タトバキックの不遇解消の為、スマブラファイターとして
の視点からレクチャーをしようと思ってな」

ピット「要するに【出番欲しい】」

アंक「…まあ、スマブラファイターの登場は…リンクや鉄拳天使
以外は絶滅危惧種並みだからな」

ソウジ「うん…二人とも、少し黙っていようか…」

マリオ「だったら、俺達にも！」↑ 広範囲だが一直線でかわされ
やすい

ピーチ「レクチャーする、」↑ 空中にいれば眠らない

ゼルダ「権利は！」↑ 一直線上に有効だがタイミングさえ読めば
かわせる

クッパ「あるのだ！」↑ 大振り

フォックス「だな！」↑ ランドマスター？論外

エイジス「…もう、好きにしろ」

シャウタ「あんたも大変なんだな…」

リンク「どんまい」↑ 一直線上の限られた範囲、しかも障害物が
あると不発に終わる

ピット「っていうか、一番講師としていい例題のサムスさんが来て

いない…」↑ 簡単にガードされるほど脆い

面倒なのでファルコン意外は割愛しました

C・F「まずは、【確実に必殺技を当てられる状況を作り出す】
とだ！」

タトバ「はい！先生！！」

士「というと、…いい例題はサゴーズインパクトか？」

C・F「いや、…重力を使って引き寄せる系はチートなので除外」
サゴーズ「オウノーツ！」

海東「束縛機能付きの必殺技だね！」

C・F「そんなリンクのトライフォースみたいなものも除外」

ガタキリバ「じゃあ、分身で囲んでリンチ…」

C・F「君しかできないので論外！」

ピット「スマブラ上での基本は、弱っている相手に確実に叩き込む
ことですな」

リンク「まあ、運がよければ壁にぶつかるなりで生き残れるよ」

C・F「よしリンクは黙ってくれ。…そして、時には相手の打って
きた手を利用するのも方法の一つだ」

タトバ「ふむふむ…」

C・F「例えばピットの場合、【パルテナ親衛隊】は相手にガード
されてしまえば意味はない。だが、そこに掴みを加えることで相手
のガードを崩し、尚且つ親衛隊の一発を確実に決められるのだ！」
ピット「あと、吹っ飛んで場外になりかけた相手に追撃一発与えて
場外にするのも手ですよ」

リンク「うん。それ、ピットでの戦い方になってるね」

C・F「それから、自分の攻撃特性を活かすのも手だな。リンクの場合は、疾風のブーメランは戻ってくる際に風を纏って相手を引き寄せる…それを利用して自分の射程圏内に引き寄せるのもまた、戦略だ」

リンク「間違えてBだけ押したら悲惨だけだね」

タトバ「つまり…ウナギで相手を引き寄せ、痺れさせ、そこからタトバにコンボチェンジしてタトバキック…！」

シンジ（それだと、ウナギの功績になりそうな気がするのは気のせい？）

ピーチ「……でも、確実に当てるなら眠らせる必要があるわね」

ショウイチ「まだ帰ってなかったのかブルンゲル！」

エイジ「ブル…？」

ヒナ「何それ…」

ユウスケ「こつちの話だから気にしないで…」

ピーチ「私の最後の切札【ピーチブラッサム】を、教えてあげてもいいのよ？」

タトバ「うーん…」

（妄想）

タトバ「タトバブラッサム！」↑踊り始めると画面から桜の花とタトバが描かれた枠が出現、画面はピンク色に

タトバ「お断りします」

映司「帰ってください」

エイジ「ごめん、無理」

ヒナ「すいません二度と来ないでください」

ピット「絵ヅラ考えて言ってくさいね」

リンク「ピーチ姫、…カオス極まりないのでやめてください」

ピーチ「ええっ、何で？」

ワタル「何でじゃないですよ！」

アスム「視聴者やライダーの黒歴史になるじゃないですか！」

タクミ「黒歴史はラララコンボだけでいいです！」

C・F「さて、続いては…【威力を高める】ことだな」

タトバ「うう、それはいつもやってます…」

タジャドル「ライアが作ってくれたサンドバッグで練習してるんだ、こいつ」

C・F「うむ、努力はいいことだ。だがしかし、ただ特訓するだけでは意味はない…工夫をするのだ！」

タトバ「工夫…？」

C・F「そう…どんな必殺技であったとしても、一工夫置くことで更に強くなれるのだ。例えば……ただの頭突きであつても回転を加えることによって、軌道を変えて相手の突進を回避し、より強い一撃を叩き込めることだつてある」

ガタキリバ「……それ、どこかで見たような」

C・F「更に、素早い移動を行いながら…相手に見切られない必中の技を使うことで、その絶対性は強まる」

エイジス「それもどこかで…」

C・F「それから、相手が接近するなら遠距離攻撃で牽制し…間合いを取って防御に徹するなら接近戦で叩き込む、ヒット&アウェイも有効だ」

ガタキリバ「あ、分かった、ポケモンアニメの…」

エイジス「……言っな！」

タトバ「工夫かあ…難しいなあ。回転しながらタトバキック……うーん、回転はシャウタがいるので除外」

シャウタ「除外してくれ、頼むから」

タトバ「素早い攻撃ならチーターだし、ヒット&アウェイをするならウナギかクジャクかクワガタ…」

カズマ「ガタジャーターでSC?」

タトバ「いや、それ、…“タトバキック”にならな〜いつ!?!」

シヨウイチ「待てよ、今、いい方法を考えたぞ」

タトバ「なんですか!?!」

シヨウイチ「まずはタカウバに変身し、ウナギムチで相手を捕縛したままバッタレックでジャンプ…そうすれば相手は自由に身動きの取れない空中に強制的に飛ばされる」

タトバ「ほうほう」

シヨウイチ「そして、そのままタトバにチェンジしてスキヤニングチャージ…超至近距離からのタトバキックだから、邪魔されることもなく必殺技を決められるぞ!」

タトバ「…おおおおーっ!?!」

シンジ「いや、だから、そうなるとウナギの功せ…むぐっ」

カズマ「お母さん、しー」

シャウタ「落ち込むんで、そういうのは言わない方向で…」

ソウジ（というか、ほぼシャウタのオクトバニッシュを参照してないか?シヨウイチ…）

C・F「さあ、それではこれから実証に入ろう!」

タトバ「はい!」

映司「でも、タトバってウナギのメダル持ってるの?」

タトバ「……orz」

映司「あ」

全「……バカーツ……!!」

エイジス「ウナギ!ウナギなら貸してやるから!!」

ヒナ「私のも(どうせ前にメズールから奪ったものだし)使っていないよ!？」

エイジ「それか、火野のところから奪うか」

シャウタ「トラと交換してあげるから使え!」

総責任で映司のコアメダルを借りました

タカウバ「よし、行くぞ!」

士「じゃあ、実験台は映司だな!」

映司「やだよ!？」

シヨウイチ「つか、嬉々として話していたな、今……」

アスム「自分が実験台になりたくないんでしょうね」

タクミ「多分ね」

リンク「これ使う?」

ワリオ「おい、ちよつと待て、俺様をどうする気だ!？」 ↑ コンク

リの詰められたドラム缶に入れられている

C・F「いや、ある程度自由が利かないと意味がないぞ」

ソウジ「ところで、何でそんなことに?」

リンク「…救援物資のネコババ」

エイジス「……おいリンクだけ、俺がそいつ殺す!!」

映司「待ってエイジス!…ここは王環さんに任せよう!!」

ヒナ「お兄ちゃんの一撃なら、骨が折れるどころじゃないわよ…顔が一生治らないレベルで、確実に変形する!」

ギル「スタンバイOKです」

(ギル懇親の一撃でワリオ残機 - 100)

C・F「くっ…せめて、せめて何かいないものか…」

ラトラーター「難しいんじゃない？」

サゴーズ「まあ、ねえ」

プトティラ「ねえねえ！これ食べていい！？」↑草むらにいたウルフを引き摺りながら

ピット「あ、前にエイジスさんが要求出しても手伝わずに仲間と一緒に好き勝手やってたオドネルなんとか」

ウルフ「おいつ、何なんだこいつ…」

エイジス「……タトバ、殺るからには容赦なく殺れよ？」

タトバ「ああ！」

プトティラ「えう、食べちゃ駄目なの？」

エイジ「向こうで皆とバケツプリン食べるか？」

夏海「凄く美味しいですよ」

プトティラ「バケツプリン…！そっちの方が食べたい…！」

ソウジ「よし、じゃあ、食べに行こうか」

全「…さんせい」

ウルフ「おい、ちょっと待て！？」

エイジ「それでは、スタート」

―ピリリリ―

タカウバ「…うおおおお！ウナギ捕縛…！」

ウルフ「げっ！？やばい、逃げ」↑足打たれる

Esシャウタ（スナイパーライフフル装備）「…よし、足潰した」

タカウバ「バツタジャンプ！」

ウルフ「ぎゃああああ！？くそ、こうなったらランドマスター改を

「y」↑メダガブリュー投擲

E「タジャドル」…よし」

E「i」プトティラ「あ、邪魔者発見」↑迎えに来たレオンとパンサーの戦闘機をストレインドウーム
タカウバ「…からのっ！」

「タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ、タトバ、タットツバ！！」

タトバ「——必殺技あ！」

「スキヤニングチャージ！」

タトバ「…セイヤアアアー！！！！」

ウルフ「ぎゃあああああーっ！？」

E「イジス」やったなタトバ！」

映司「おめでとう、タトバ！」

E「イジ」よくやったぞタトバ！」

タトバ「やったーっ！」

アंक「……ヒオウティンコンボのほうが凄くないか？」
ヒナ「今更？」

Fileタカ：タトバキックよ永遠に（後書き）

次回予告

プトティラ「おでん美味しい！」

シャウタ「確かに、俺の作るおでんより美味しいかも……」

エイジ「いいなあ……お前らは、美味しいもの食べれて」

プトティラ「エイジも食べる？」

エイジ「いや、俺はいいからいっぱい食べな」

伊達「いやいや、おでんと言えば竹輪や蒟蒻もなきや」

後藤「伊達さん！ちよっ……」

ソウジ「……ほう？」

シヨウイチ「……あっちゃあ」

バース・デイ「竹輪ああああ！」

カプトHF「天堂屋の味は、俺が守る……っおおおおおお！」

シヨウイチ「……やめんかあああ！」

Fileクジャク：カプトVSバース、NOVEL大戦ODEN

士「そういえば、この中で料理上手な奴は誰なんだろうな？」

ユウスケ「えっ、ソウジさんだろ！？」

リンク「カレーはユウスケだけだね」

ユウスケ「いやぁ…そんな褒めなくてもいいって」

ワタル（カレー軍曹のあだ名を貰いましたしね…）

シンジ「……ただ、シヨウイチさんは作り方の過程を覚えて練習すれば上手くなると分かった件について」↑シヨウイチのアップルパイ食べながら

カズマ「そもそも、余計なもの入れてないもんな…」

ピット「まあ確かに、毒物料理を作る何処かの姫よりいいですが」

ブラカワニ「えっ、そっちにも毒物いるの！？」↑ガチで毒

シンジ「まあ、ね…でもシヨウイチさんは講師が講師だし」

ユウスケ（そういえば、…フレンチトーストは作り方があれなクセに無駄に美味かった）

タジャドル「俺達兄弟の中では、シャウタなんだけだな」

シャウタ「…いつも作らされてるからな…」

ラトラーター「感謝してます、マジで」

リンク「スマブラメンバーは……本当に、一癖ありすぎるから……ま

ともなのはピットぐらいじゃない？」

ピット「和食専門ですけどね」

ファルコ「後はあいつだ、…エイジス」

映司「エイジスって料理得意なんだ」

エイジス「まあな」

ヒナ「私は人並み」

エイジ「…」

ソウジ「皆、おでんできたぞー」

全「…わーい！」

シャウタ「母さん以外で初めて人から作ってもらった料理だー！」
アスム「…頑張ってください、シャウタさん」

プトティラ「おでん美味しい！」

シャウタ「確かに、俺の作るおでんより美味しいかも…」

エイジ「いいなあ…お前らは、美味しいもの食べれて」↑食欲を失った人

プトティラ「エイジも食べる？」

エイジ「いや、俺はいいからいっぱい食べな」

映司「俺のもう少し食べる？」↑味覚が失われつつある人
プトティラ「???」

『かばーん』

ユウスケ「…ん？」

アंक「何だ、この音…」

サゴーズ「音は気にするな！」

タトバ（サゴーズとアंकが逆だったらよかったのに！）
映司「まさか…」

伊達バース「——よう！おでんと聞いて、俺参上！！」↑カッタ
ーウイング使用

後藤バース「…すまん、伊達さんが『おでん食べたい』と言って聞
かなくて…」↑上に同じく

エイジス「誰だ、こいつら？」

映司「伊達さんと後藤さん。……あー、変身解かないと見分けが
つかないなあ…あ、でも、変身解いて細長い方が後藤さんだから」

後藤バース「おい！」

エイジス「大体分かった、右の奴が510だな」

映司「いや、後藤…あーでも、あまり間違えてないや」

後藤バース「火野、お前後で覚えてろ」

伊達「いやあ、今日は知り合いの店が休みでさあ。つい世界の壁
を越えてやってきちゃったよ」

映司「えー…」

タトバ「そんな簡単に…」

後藤「これは…がんもと、卵と、大根だけ…？」

ソウジ「ああ、そうだ。これが天堂屋のスタイルだからな」

後藤「何故…具が少ないんですか？」

ソウジ「家族の象徴だからだ」

ショウイチ「あー、一応解説すると…【家族がいつも傍にいる、天
堂一家の絆の証】みたいなもんだ。作者脳内設定だと、ソウジが大
根好きで妹が卵好き、祖母ががんも」

プトティラ「おかわり！」

シャウタ「こらプトティラ、限度考えなさい！」

プトティラ「プーい…」

エイジス「いや、俺の食べるか？（特にがんも）」

プトティラ「いいの!？」

シャウタ「エイジス、無理にあげなくても」

エイジス「…俺がんも苦手なんだよ（ボソッ）」

シャウタ「…好き嫌いするなと言いたい所だが、プトティラがもう食べちゃったので今日は許す」

プトティラ「ありがと!」

エイジス「汁も少し飲むか？」

プトティラ「う!」

エイジス「…ん？お前ら、何でそんな顔してるんだ」

エイジ「…レヴァ、お前…」

映司「まさか、グリードに!？」

ヒナ「ちよつと…ガンバライドで使われる奴と同類のメダルなんですよ?…それでどうしてグリードに…」

アंक「くそっ、何のメダルだ!紫か、それとも青か!」

士「…まさか、【本編で暗殺者から重傷を受け死亡寸前、しかしその時、シスがやってきてメダルを体内に入れグリードとして蘇生】という王環エイジルートが!？」

後藤「それとも、【何処からともなくやってきたシスが『人をグリードにする、手伝え』と言って無理矢理コアメダルを入れる】… 8
割ドクター2割火野ルートか!？」

エイジス「——なわけあるか!っ!？」

エイジスは普通に人間です、今のところは

伊達「いやいや、おでんと言えば竹輪や蒟蒻もなきや」

後藤「伊達さん！ちよっ…」

ソウジ「……ほう？」

シヨウイチ「…あっちゃあ」

伊達「だって、おでんは具が多くてナンボだろ。こんなこともあるうかと、竹輪やはんぺんを持ってきておいてよかったぜ」

タクミ「替え玉持参ですか！？」

シヨウイチ「待て、それを絶対入れたりするなよ！？入れたら土以上の惨劇が…」

土「いや、俺も惨劇は（直接）受けてないぞ！……ただ、おでんを作った鍋を捨てられたただだ（祖母に）」

伊達「くっ」↑具材ドボン

ソウジ「…」↑背後に千手観音タジャドルオーラ

タジャドル「Σなんだあの絶対神！？」

ガタキリバ「うわっ、あっちのタジャドルの方が強そう…」

ラトラーター「ライオディアスなんて目じゃないほど眩しいし熱い！？」

ブラカワニ「……シャウタ、プトティラ！お前達は外出なさい！！」

シャウプト「「あきゆう」」

ブラカワニ「手遅れでした！」

エイジ「俺が連れて行く…俺も少し限界」

ソウジ「……うちのおでんはな…がんも、卵、大根の織り成す完全^{パーフェクト}調和のおでんなんだ。他の具材を入れたら、味が壊れてしまうほどにな」

伊達「ん？そうか？？」↑竹輪もぐもぐ

後藤「伊達さん！流石に、今回ばかりは謝った方が…」

シヨウイチ「いや、もう手遅れだ…俺の危機管理能力センサーが警

報を派手に上げている！」

シンカズ「ソウジリーダーですね分かりました」

ユウスケ「これは、死ぬ覚悟のある人間以外逃げたほうがいい！皆、海東を残して逃げよう！」

士「被害者代表として、スマブラファイター何人が召喚するか！」

夏海「では、ワリオさんを！」

ワタル「あの狼を！」

アスム「じゃあ……なんとなく、マリオさんを」

リンク「えーっと……面白そうなことになりそうだから、メタナイトも！」

つまみ食いしようとしていたワリオ以外、徴集に応じてくれませんでした

海東「嫌ああ！何でこんなことに！！？」↑縄で縛り付けられ中
ワリオ「つまみ食いしたただけだろー！？」↑シンジサゴーズによる重力操作で動けない

Sサゴーズ「ショウイチさん、身の危険を感じたらバーニングフォームでお願いしますよ！」

ブレイド「俺、トリロバイトメタルでシンジの盾にしかないからね！」

ショウイチ「ちょっと待てい！俺は居残り強制か！？いや残るけどさー！」

伊達「悪いけど、これだけは譲れないんだわ」

『カポーン』

ソウジ「そうか。——俺もだ」

『Henshin Cast Off: Change Beetl

e

バース「…うおおおおおおおおおー！！」
カブト「はあああああああああ！」

Sサゴーズ「さあ、遂に始めました！『カブトVSバース NO
VEL大戦ODEN』！解説のカズマさん、一言お願いします！！」
ブレイド「そうですね…カブトには“クロックアップ”があるの
で、スピードを活かせば或いは…しかしバースの武装状態バース・デイズでの守備
力は恐らく高いでしょう」

シヨウイチ「いや、楽しそうだなお前ら！？」

Sサゴーズ「うん」

ブレイド「楽しいよ？」

シヨウイチ「…お前らライ街出身だろ、そうだろ」

Sサゴブレ「…いいえディケブラです」

本編はライ街基準ですが、この作品は特例がない限りDCDチー
ム&OOO組はディケブラ基準です

Sサゴーズ「おおっと！？先手に出たのは、バースだ！」
バース「行くぜッ！」

『ドリルアーム』

ブレイド「ドリルアーム装着！さて、それをどうする！？」

バース「おりゃあああ！」

カブト「ふっ…甘い！」↑ワリオを盾にする

ワリオ「ぎゃふーっ！？」

Sサゴーズ「何と！えーっと…Wという略だと翔太郎さん達に悪い
ので、“ワ”でいいや。ワを盾に、見事な防御！」

ブレイド「これがホントの、身代わり防御！」

シヨウイチ「上手いこと言っ たつもりか!？」

カブト「クロックアップ!」

『Clock Up』

Sサゴーズ「カブトがクロックアップを開始しました!」

ブレイド「バースはどう対処する!？」

バース「なんなら、こっちも!」↑ワリオを盾にする

ワリオ「↑ドリルで抉られた痕つき

Sサゴーズ「これは!」

ワリオ「ゲゲボゴフゲボアツ!？」

Sサゴーズ「——カブト、ワリオに集中攻撃だー!これは明らかに、コア大戦での憂さ晴らしです!」

ブレイド「ソウジさんの料理に対して、『ウ。コ』って言ったもんね!」

シヨウイチ「正直、アレはないと思った!」

プトティラ「!」↑ほふく前進

シヨウイチ「ん、どうした?お前避難していたんじゃない」

プトティラ「——ソウジのご飯美味しいもん!」↑尻尾ビンタ

ワリオ「ゴボギャツ!？」

Sサゴーズ「まさかのプトティラからのツツコミだー!」

ブレイド「美味しいご飯をくれる人には懐くんだな、プトティラ!」

シヨウイチ「いや、もう、そのままスキヤニングチャージしてくれよ」

『Clock Over』

カブト「……なかなかやるな、伊達」↑ワリオ足蹴にしながら

バース「あんたほどじゃないさ」↑キヤタピラレグでワリオ足蹴にしながら

プトティラ「ぷ！ぷ！！」↑ワリオをローキック
Sサゴーズ「いいぞもつとやれ！」
ブレイド「むしろ殺っちゃってください」
シヨウイチ「焼却処分は任せろ」

ワリオ「」↑灰

プトティラ「じゃあねー」↑おでんの鍋持ちながら

バース「おい、鍋持って行ったんだけど」

カブト「まあ…アレは許す。それよりも…どうやら、本気で相手をしなければならぬようだね」↑ゼクちゃん（ハイパーゼクター）
構えながら

バース「そりゃあいい。そろそろ俺も、行かせてもらうぜ！」

『クレインアーム、シヨベルアーム、カッターウィング、ブレスト
キャノン』

カブト「…ハイパーキャストオフ！」

『Hyper Cast Off』

（外では…）

プトティラ「おでん貰って来た！」

シャウタ「こーらっ！プトティラー！」

プトティラ「あきゆうっつ」

ブラカワニ「まあまあ。美味しいおでんが被害に遭わないよう、持
ってきてくれたんだよねー？」

プトティラ「あい！」

シャウタ「…まあ、それならいいか」

夏海「って言うか、写真館大丈夫でしょうか…」

士「こうなるとは思っていなかったからな。この展開を予想できなかったら、外口ケにしたのに…」

基本的には写真館ロケがスピノフの基本

——ドカーン！！↑光写真館の屋根消失

夏海「きゃあああああああ！？写真館があああああ！？」

ワタル「まさかとは思いますが…最強形態対決でもしたんじゃ…」
アスム「うわぁ…」

士「安心しろナツミカン、…シンジじゃないだけマシだ」

ユウスケ「正直、異世界一家が喧嘩したら…写真館なんて通常フォーム×4だけで滅びると思うんだ（主にシンジさんとショウイチさんが原因で）」

カブトHF「はあっ！」

バース・デイ「なんの！」

Sサゴーズ「さぁ…カブトハイパーフォームと、バース・デイの夢の対決！……これは凄すぎるぞ！！」

ブレイド「おでんの具の論争が、大惨事です！」

ショウイチ「分かってていつてるのか！？分かってて止めないのか！！？」

Sサゴブレ「うん！」

ショウイチ「いや、これ、明らかに写真館にトドメ入るだろ！？」

バース・デイ「竹輪あああああ！」

カブトHF「天堂屋の味は、俺が守る…っおおおおおおお！」
ショウイチ「…やめんかあああ！」

Sサゴーゾ「おっと、ここで遂にシヨウイチさんが変身です！」

ブレイド「変身したのは…あれ？何あの青メダル」

「^ロシャチ！ ウナギ！ タコ！ … シャシャシャウタ、 シャシャシャウタ

S
シャウタ「——ええ加減にせんかあああああ！！！」

(外では…)

エイジス「あ、」

映司「どうしたの？」

エイジス「青メダル忘れた」

エイジ「器用な忘れ方だな……お前、青メダルで何をする気だったんだ？」

エイジス「なんとなく」

映司「ははは……あれ、……ねえエイジス、シスのコアメダルって本家オーズドライバーで使って大丈夫なの？」

エイジス「だと聞いているぞ。逆だと、ドライバーが耐えきれずに壊れるらしいが」

映司「いや、実は俺もドライバー置き」

——ズガアアアア… ↑ 写真館崩壊

映司「…忘れ、ちゃっ…て…」

夏海「イヤアアアアアアアアアアアアアアアアアアアツ
ツツ！？」

士「何だ今の……っていうか！写真館が捻れたように倒れたぞ！」
アスム「明らかにシヨウイチさんが超能力で何か仕出かしましたよ」

！あの破壊の仕方！！」

エイジ「……銃火器シャウタに、あばばシャウタに、マッドサイエンティストシャウタに、超能力シャウタか…怖ッ」

シャウタ「Σ何それ怖い！？」

映司「ちよつと待って王環さん、俺入れないで…シスさんはどうでもいいけど…！」

エイジ「つか、それを言ったら怪力シャウタも入れる」

エイジ「レヴァ…俺のことだろ、それ。言っておくが、俺の変身するオーズは全部パンチ+20t・キック+30tだぞ？」

映レヴァ「…充分怪力だ！？」

シスは一色適合ではないですがシャウタになれます

ショウイチ「…もうシャウタ封印しますorz」

シンジ「バーニングにしておけばこんなことには……なったか。大炎上」

カズマ「シャイニングにしておけば……それでも破壊だね、うん」

ソウジ「…」↑殴られて気絶

伊達「……」↑殴られたけどソウジ以上の力で殺られた

ユウスケ「あつちは終わったみたいだな」

海東「……奇跡的に生還できたよ」

ユウスケ「まあ、ワリオもいたらそっちに被害が集中するよな。…

…でも」

映司「っていうか！あばばばって何ですか、そりゃあ確かにタコ足

キックとかサソリとかでやらかしましたけど!!」

エイジス「むしろ、何で俺はいつも銃を常備していつそうな物騒キャラになっていったんだ!？」

エイジ「俺が知るか!？そもそも、俺だって何で馬鹿力が…」

ラトラーター「アレは、終わりそうにないな」

ガタキリバ「まあ、不利なのはドライバーのない火野だけだな？」

プトティラ「おでん食べていい!？」

タジャドル「もう好きにしろ…」

サゴーズ「食べてもいいけど、本格的に争いが激しくなったら止めてあげなよ？」

シャウタ「正直、……お前以外アレ止められない」

プトティラ「う!」

Fileクジャク：カプトVSバース、NOVEL大戦ODEN（後書き）

次回予告

タジャドル「——なんで俺がこんな目にいいい！？」

映司「そういえば、作者は『リイマジに一人ぐらいメイドさんがいてくれたっていいじゃない』って言ってたよ」

タジャドル「理由になつてないッ！？」

タジャドル「え、えつと、……も、【もえもえ♪オムライス】の…
うわあああん！無理だああ！！！」

エイジス「馬鹿！あそこを見る！！！」

シャウタ「お待ちどうさまです、ご主人様！【ラブラブジュース】
ですにゃん♪」

エイジス「冗談で言っただけなのに、文句を内に秘めて頑張ってく
れているんだぞ！」

タジャドル「シャウタ帰ってきてエエエ！」

カズマ「ねえ、ところで、何で俺もメイド服なの？」

シンジ「似合ってるよカズマ！」

ユウスケ「お母さんは鼻血を拭きなさい！」

ショウイチ「親バカってこのことを言うんだな…」

ソウジ「ユウスケもやるか？」

ユウスケ「却下」

Fileコンドル：タジャドルの一日メイド

Fileコンドル：タジャドルの一日メイド

——スマツシユシティにある、【エクシスク】…

この店は“チヨ”という女性店長が経営している店で、【スマツシユシティ核命戦争】（誤字ではない）でのライダーの戦いに惚れ、設立した……

仮面ライダーカフェである。

士「そんな【エクシスク】で一日バイトをしてもらうのは、このお方です！」

タジャドル「——なんで俺がこんな目にいいい！？」↑メイド服着せられた

映司「そういえば、作者は『リイマジに一人ぐらいメイドさんがいてくれたっていいじゃない』って言ってたよ」

タジャドル「理由になっ…ないッ！？」

士「リイマジに…」

夏海「一人ぐらい…」

海東「…メイド、だって…？」

く以下、妄想く

ユウスケ「おかえりなさいませー!」

ワタル「別に、あなたの帰りを待っていたわけじゃないんですからねっ!」

シンジ「ご主人様、お風呂にしますか?それとも…」

カズマ「うえーいつ!?……ま、また転んだ…orz」

タクミ「ごっ、ご主人さ…、……や、やっぱり恥ずかしい…」

アスム「行つてらっしゃいませ、ご主人様!」

ショウイチ

ショウイチ「——タイム!タイム!……俺とソウジはアウト、確実にアウト!……!」

ソウジ「視覚的に虐めだぞ?」

士「…だな」

夏海「でも、ありだと思います!特に4番目!」

海東「僕は少年君もありだと思うけど、本命はキバの王子かな…」

シンジ「メイドのカズマの写真撮りたい服着なさいカズマ」

カズマ「Σうえーいつ!?」

ユウスケ「シンジさんは鼻血拭いて！親馬鹿誤作動しないで！！」

ワタル「しかし、…カズマに違和感がないのは何故！？」

アスム「た、確かに…」

タクミ「——ドジっ子属性が【ブレイドの世界】の時から発揮されていたから？」

タジャドル「い、嫌だ…嫌過ぎる……」

エイジス「仕方ない奴だな。だったら、猫耳&フリルエプロンを装備したシャウタも接客に…」

タジャドル「それはもつとやめてくれえええ！？」

プトティラ「ねこみみ？」

ブラカワニ「萌えの象徴の一つだ。なんだろうな…獣耳萌えってやつ？」

ガタキリバ「何教えてんだよ！」

プトティラ「ねこみみかわいいの？」

ブラカワニ「うん、ほれ」↑プトティラに猫耳装備

ガタキリバ「…やるならこれもつけさせろ、尻尾は持参のものだ」

↑プトティラに肉球ミトン装備

プトティラ「…にゃん！」

シャウタ「」↑鼻血の噴水

エイジ「」↑鼻血出ないので鼻からセルメダル大量噴出

映司「うわああああ！なんか大惨劇だああ！？」

ヒナ「お兄ちゃん何してんの！？」

ショウイチ「誰かバスタオル持って来い！」

エイジス「王環にセルメダル入れるのも忘れるなよ！」

士「えー、想定外の出来事が起こりましたが…タジャドルにはメイドを頑張っていただきましよう」
タジャドル「嫌あああ!？」
士「安心しろ。そんな意気地なしのお前のために…」

——海東・夏海・ワタル・ソウジ・シヨウイチも犠牲になってくれたぞ（あみだのせいで）」

アंक「他はいいけど三十路はやめるおおおお!!!」

ソウジ「大丈夫、俺達は執事だった!」

シヨウイチ「いや、執事服じゃないと死ぬってレベルじゃない!」

ワタル「ず、ずるい、…三十路ずるい!!」↑メイド服

海東「士…この借りは必ず返すよ」↑上に同じく

夏海「って、何ですかこの【みかん】って!色もオレンジですし!？」↑イジメ的なメイド服

士「さ、接客開始」

ワタ海「「ひどっ!？」」

タジャ夏「「やめてえええええ」」

——カランカラン♪

ソウジ「おかえりなさいませ、お嬢様」

シヨウイチ「本日のお勧めは【ゲドンの火山ハンバーグ】と【アイス映司トリプルコンボアイス】となっております」

ガタキリバ「…あんたらの適応スキル高けええええッ!？」
タクミ「って言うか、シヨウイチさんが仕事できることに違和感」
エイジス「いや、あいつ国家公務員だろ…?」

士「ほらタジャドル、これ持っていけ!」

タジャドル「何だこれ、メニューにこんなの…」

士「付け足した」

タジャドル「はあ!？」

士「本日限りのスペシャルメニューだ。500円プラスで握手、更に200円上乗せで写真撮影だぞ!」

タジャドル「いや、…本格的にメイド喫茶だろそれええ!？」

タジャドル「え、えっと、……も、【もえもえ♪オムライス】の…

うわあああん!無理だああ!」

エイジス「馬鹿!あそこを見る!」

シャウタ「お待ちどうさまで、ご主人様!【ラブラブジュース】

ですにゃん♪」↑猫耳装備

エイジス「冗談で言っただけなのに、文句を内に秘めて頑張ってくれているんだぞ!」

タジャドル「シャウタ帰ってきてエエエ!」

ワタル「それにしても、ノリノリですけどね」

映司「鼻血のせいかな…」

タジャドル「ええい、こうなればヤケだ!……いらっしやいませ、ご主人様!」

ツイハーク「あれ、ここ、いつからメイド喫茶に?」

アイク「あ、本当だな…」

タジャドル「誰!?!？」

ユウスケ「いや、お客さん相手に『誰』は駄目だって…って言うか、

まあ、反応としては間違えてないからいいや」
ワタル「僕達の知り合いです」

タジャドル「め、メニューはこちらでございます」

アイク「…なあ、何であんたといいユウスケ達といい、女装を…」
タジャドル「——うわあああああ…！」↑大泣き

アイク「えっ！？ちょ、おい！」

ツイハーク「アイク団長、泣かせるのは反則じゃないかな。彼にも背に腹変えられない事情があるんだ」

アイク「そして何であんたは普通に流せる！？」

ツイハーク「じゃあ、俺は【二人で一人のWババロア ルナトリガ―味】を」

アイク「……なら俺は、【ゾルダの厚切りステーキ】」

タジャドル「畏まりました…Wババロア・ルナトリガー味一つと、ゾルダステーキ一つですね……」

ユウスケ「接客はしっかり出来るんだよな」

ラトラーター「バイトしてるしな」

サゴーズ「ただ、…あんな恥ずかしい格好での接客はないから、ねえ」

タトバ「っていうか、誰かシャウタ止めてよ！もやしが面白半分でメニューにつけた【シャウタの鞭責め言葉罵りオプシオン】を頼んだ人が！快樂の笑みを浮かべながら昇天しそうな勢いなんだけど！」

カズマ「ねえ、ところで、何で俺もメイド服なの？」↑着せられたシンジ「似合ってるよカズマ！」↑カメラマンの職権乱用

ユウスケ「お母さんは鼻血を拭きなさい！」

シヨウイチ「親バカってこのことを言うんだな……」

ソウジ「ユウスケもやるか？」
↑メイド服用意

ユウスケ「却下」

タジャドル「うっ…っ、屈辱的だこんなの…」

カズマ「頑張ってタジャドル、俺は頑張らないけど」

タジャドル「……こうなったら…もう視覚の問題とかそんなこと言
てられない、——年齢・性別関係なく…全員メイド服着て接客
しやがれええええ!!?」

全「ええっ!?」

ソウジ「よし逃げよう」

シヨウイチ「じゃあ、身代わりにナルト巻きと栄次郎さんを置いておくか」

土「待て、メイドであるお前にそんな権限はないぞ」

「タジャドル」だが、そもそもお前にこの経営方針を決める権限もないよなあ……！？ただ、今回は本来の店長が温泉旅行に行くって言ったから、借りれただけであって……」

夏海「そうだったんですか!？」

土「ああそうだ！だがな、ただ借りたわけじゃない…売り上げがこの店の一ヶ月間の平均売り上げの5%以上も上がらなければ、働き手としてワタルとアスムを提供することになってるんだ」

ワタアス「勝手に決めるなああああ！？」

土「——あと、ついでに……逆に平均の5%を下回れば、ユウスケとカズマの写真集を出すことになってる」

ユウカズ「やめろお前は俺達に何をさせたい！」

タジャドル「御託はいい…全員メイドだ！拒否したらその時点で、

剥ぐ!!」

全「「何を!?!」」

映司「ちよつと待って、自分で言うのもあれだけど、俺女装とかそういうの向かないんだって!アंकならともかく、俺ガタイが」

タジャドル「煩せえ!ガーターベルト付きのメイド服着せるぞ!!」

映司「それはもつと嫌だああああ!?!」

ちなみに、一ヶ月の売り上げ平均は20万円です

〃
〃
〃

結局タジャドルに負けました

士「…何の辱めだこれは…」

タクミ「自業自得って言うんですね分かりました」

アスム「…っていうか、僕のはなんでピカチュウの寝巻きに腰エプロンなんですか?」

タジャドル「在庫が足りなかった」

プトティラ「シャウタ!ねこみ貰った!!」

シャウタ「よかったな」

ガタキリバ「いや、でもさあ」

映司「…もう嫌だ旅に出たいorz」

エイジ「嫌だ山に籠るorz」

ガタキリバ「——グリード二名が死んだ魚のような目をしているんだけど」

タジャドル「心からどうでもいい」

エイジス「……どんまい」↑余ったのでブレザー

シンジ「ファイト！」↑ウィッグつけてまで参戦

カズマ「お母さんがノリノリすぎる件について……！」

——カラーン♪

地上げ屋A「——おらおら！誰に許可を取って経営してるんだあ、この店は？」

地上げ屋B「今すぐに、退去してもらいまひよか！」

地上げ屋C「それとも…今すぐ潰してもらいたいかあ？ああ！？」

アスム「見てくださいワタル！時代遅れの地上げ屋ですよ……！」

ワタル「あのカッコいいと思い込んで着ている服なんて、まさしく時代遅れ臭が漂う原因ですね！」

地上げ屋C「なんだあ？このガキは！」

地上げ屋A「まあいい、今すぐ経営をやめねえか！それか、みかじめ料として200万円今すぐ出してもらおうか！？」

タジャドル「うぜえ」↑B足蹴

地上げ屋B「ぎゃいん！？」

地上げ屋C「Bイイイ！」

タクミ「それ名前だったの!？」

地上げ屋A「クソッ、舐めた真似を…傷害罪で更に300万支払え！」

「その前に、お前達が営業妨害でお縄につくぞ」

ソウジ「なんだか大きな騒ぎになってるな」

カズマ「あ！栄次郎さんとタンポポを身代わりに逃げた三十路コンビだ！！」↑根に持つてる

地上げ屋で「なんだあ？お前らもこのコスプレカフェの店員か！？」

地上げ屋A「警官服のコスプレなんかしやがって…それでビビると思ったのか!？」

ソウジ「あ」

「——本職じゃボケエエエ！」
↑ 金的キック

全（（でもそうには見えません！））

地上げ屋A「ごぶつ!？」

地上げ屋C「Aエエエエー！」

タジャドル「オラ、お前一人でこの数相手にするのか……？ 言うておくが、今の俺は、……何やってもおかしくないぞ……！？」

タトバ「あながち本当だよ！」

「プティラ」

ユウスケ「ふ、つふふ……クウガの力が疼くぜ……！」

シンジ「退店願えませんかねえ……？」

[illegible]

エイジ「オンドウルオンドウルオンドウルオンドウルオ
ンドウル」

「地上げ屋」……

地上げ屋D「——何の騒ぎだ？」

地上げ屋C「D親分！……こいつら、みかじめ料を払わないんですよ！……」

地上げ屋B「それどころか、俺達に障害を加えたのに金を踏み倒そうとしてるんでさあ」

地上げ屋D「ほう？そいつはいけねえな……払う金は払ってもらわないと」

士「チッ、こうなったら変身か！」

ユウスケ「馬鹿、ここじゃお客さんの迷惑に……」

タジャドル「くうっつ……」

全「……？」「……」

タジャドル「抑えられないぜ……俺の中に秘められた、荒ぶる魂が……炎となって！湧き上がりそうな気分なんだああああ！」↑クジヤク光弾

地上げ屋A B C D「……ぎゃあああ！？」」「……」

ガタキリバ「出た厨二病……」

タジャドル「灼熱の業火よ！悪しき魂を灰燼に還し、無へと導け！……」

……マグナブレイズ……！！↑ただのマグナブレイズ

地上げ屋A B C D「……げええええっ！？」「……」

——ドツカアアアアン……

地上げ屋D「くっ、くそっ……」

エイジス「おい地上げ屋、——テメェらこそ誰のシマで勝手なことやってるんだ？あ？？」

タクミ「エイジス怖ッ！」

地上げ屋A「エ、エイジスって、まさか……」

地上げ屋C「レーヴァティン家当主の……」

エイジス「そのエイジス・レーヴァティンだ……この土地は50年以上前から前国王エレンバートン、そしてスマッシュシティに住まう民達の者だ……このカフェも、ここに建てることは俺が許可した」
地上げ屋B「うぐぐ……」

エイジス「——法外な金額をふっかけ、その家に住まう人間を追い出し、自分達を潤わせる為の手段は何でも選ばないゴミ以下が、汗水流して働いている人間の邪魔するんじゃないやねえっ……！」

ギル「そんなわけで、……4名様お帰りでーす」
プトティラ「ぷう！」

全「……よし、殺れ……」

地上げ屋A B C D「……はッ……!?!?……」

ギル「……吹っ飛ばえええ！」

地上げ屋A B C D + 鳴滝「……ぎゃああああああっ!?!?……」

——キラッ

カズマ「ナイスシュート！」

タトバ「あれ、……今なんか、罪もない人も巻き込んだような……」

士「いや、巻き込んでいい奴だ。あれは」

客「……おおおーっ!……」

客「「「いいぞー！」「」」

ユウスケ「うわっ、いつの間にかお客さんが並んでる！？」

海東「さっきのいい宣伝になっただねえ……」

タジャドル「よし、閉店時間ギリギリまでまだ時間はある……気合入れて働くぞおおお！」

全「「「おーっ！」「」」

（（（

士「というわけで、本日の売り上げは23万8200円……目標売り上げ20万円を上回ったので、残念ながら罰ゲームはナシです！！」
ワタアスユウカズ「「「おいつ！」「」」」
夏海「でも、よかったですね……」

エイジス「……ところで、その日の売り上げは復旧支援金として提供する約束でこのカフェの設立をOKしたんだが」

海東「え？」

エイジ「いくらぐらいだ？」

エイジス「10%」

映司「待てよ……じゃあ、その分のお金を最初から引いて計算しなおすと……」

(売り上げ) 23万8200円

* 売り上げ $\times 10\%$ = 支援金

238,200 $\times 0.1$ = 23,820

* 売り上げ - 支援金 = 事実上の売り上げ

238,200 - 23,820 = 214,380 ... ?

* $? \times 0.05$ (事実上の売り上げ $\times 5\%$)

214,380 $\times 0.05$ = 10,719 ... ?

* ? - ? (事実上の売り上げ -)

214,380 - 10,719 = 203,661 ... A

(店自体の平均売り上げ) 約20万

* 売り上げ $\times 0.05$

200,000 $\times 0.05$ = 10,000 ... ?

* 本来出さなければいけない売り上げの計算 (ワタルとアスムが罰ゲーム) $\downarrow$ 200,000 + ?

200,000 + 10,000 = 210,000 ... B

* ちなみにカズマとユウスケが罰ゲームを受けなくてはいけなくなる5%以下 $\downarrow$ 200,000 - ?

200,000 - 10,000 = 19,000 ... C

A・B・Cを比べた時、 $A > B$ または $A > C$ でなければいけないのが、 $B > A > C$ となっている
つまり…

映司「……ワタル君とアスム君…」

ワタアス「嫌ああああ！」

エイジス「…諦めてくれ」

タジャドル「さーて、帰るか」

プトティラ「う！」↑猫耳つけたまま

ラトラーター「すっかり気に入っちゃったんだなあ、それ…」

Fileコンドル：タジャドルの一日メイド（後書き）

次回予告

エイジ「……………あ」

ユウスケ「ただの平手で床に穴が開いたああーッ!？」

映司「カルタあああ!」

夏海「床あああ!？」

ヒナ「お兄ちゃん、コアメダルの適合が非常に強いらしくて…普通のグリードよりも力が強いみたいなの」

シンジ「つまり…ロスト？オリジナル・ギル？そんなの簡単に腕一本にできるだろ?？…レベル」

カズマ「もつといい例えは、終末サゴーズ」

シンジ「カズマ後で説教!」

ピット「……………ぬおりゃあああああああああああ!」

エイジ「うおおおおおおおおおおお!」

映司「ねえ、何でピット君王環さんと接戦なの!？ちょっと、誰か説明して!?!？」

Fileプテラ：エイジお兄さんと遊ぼう

Sサゴーゾ「…そおい!!」

エイジ「うおっ!？」

夏海「机ええええーツツツ!？」

……戦っても生き残れない! (写真館が)

File プテラ：エイジお兄さんと遊ぼう

ワタルとアスムは出稼ぎの為、暫く登場しません

夏海「見てください！こんな物見つけましたよ！！」

ユウスケ「ん？うわっ、カルタだ！」

プトティラ「かるた？」

シャウタ「札を読み上げて、それに対応した絵を取るやつ。ちなみに、【愛し狂う恋愛コンボ】なら【あ】の札を取るみたいな感じでブラカワニ「説明するより、遊んでみた方が早いかな」

エイジ「久々のカルタだ。張り切って遊ぶぞ！」

映司「なんだろう…俺、つい最近カルタで遊んだような記憶が…」
アंक「記憶は気にするな！」

ピット「日本古来の遊びと聞いて！」

リンク「遊びと聞いて」

シャウタ「多くなってきたな…」

海東「まあ、仕方がないんじゃないかな。それよりも、誰が読み手をするんだい？」

シヨウイチ「といつても、この大人数だ。そして全員が仮面ライダー……海東、お前が読んだほうが少ない犠牲で済むからお前読め」
海東「え、それ、一体どういう…」

ユウスケ「お前が流れ弾に当たるという意味」

士「それはつまらん。映司、読め」

映司「はいはい。じゃあ、机移動させてー。カルタ広げるよー」

ヒナ「準備は万端ね」

ソウジ「久し振りだなあ、カルタ」

映司「じゃあ、読みますよ！……【キ】ヤンペーンカード、当たらず出るのはダブルばかり」

士「切なッ！」

シンジ「ねえ皆、最初はプトティラに取らせてあげようよ（ボソッ）タクミ「流石お母さん……」

プトティラ「【き】、【き】……」

士「よし、貰った」↑横にいたエイジスに肘打ち食らう

エイジス「悪魔撲殺！」

映エィ「よしよくやった当主！……」

プトティラ「……うーっ！」↑尻尾で取る

タトバ「って、カラー！尻尾でやらなくていいのー！！」

夏海「ああ、床が！折角、対シヨウイチさん用に特殊コーティングしたフローリングの床に軽い傷が！？」

シヨウイチ「おおーいつ！？」

カズマ「……あー、おでん戦争で写真館壊れたんだっけ？」

ユウスケ「その経験を生かして、どんな攻撃にも耐えられるような素材を（鳴滝さん経由で）仕入れて再建したらしい……」

ソウジ「本当に壊れないのか？」↑試したそうな目

ガタキリバ「うーん、どうだろう……少なくとも、終末サゴーズだっ

け？……アレの伝説がマジなら、アレのファイナルベントだけで倒壊する可能性も……」

シンジ「ヨイ」

エイジ「さて、次から本気でやるか」

士「くっそ……わざと遅れて、エイジスの手を叩いてやるつか！」

映司「お前の横が俺ってこと忘れるなよ士」

士「……ふぁーいず……」

映司「……【シ】ヤウタのRオクトバニツシュを当てた後、次にその台でプレイした人がRシャウタオクトバニツシュだった件について」

シヨウイチ「なんだそのカルター！？」

ラトラーター「えーつと、シャウタシャウタ……」

カズマ「あっ！あったー！！」

エイジ「くそッ！」

ユウスケ「うおおお！」

タジャドル「くッ、間に合え！」

海東「僕が頂くよ！」

——ズバキイン！！↑エイジが平手で海東の手とタジャドルのタジャスピナーごと床を破壊した音

エイジ「………あ」

ユウスケ「ただの平手で床に穴が開いたぁぁーッ！？」

映司「カルタぁぁあ！」

夏海「床ぁぁあー！？」

海東「ば、僕達の心配も……ぐぁぁぁぁぁあぁあぁあ」

タジャドル「タジャスピナーアアアア！！」

シンジ「って言うか、本当にこれシヨウイチさんでも壊れないようにしたの！？根性ないよこの床！」

士「そこか！？」

サゴーズ「っていうか、何でこんなことに……」

ヒナ「お兄ちゃん、コアメダルの適合が非常に強いらしくて……普通のグリードよりも力が強いみたいなの」

シンジ「つまり……ロスト？オリジナル・ギル？そんなの簡単に腕一本にできるだろ？……レベル」

カズマ「もつといい例えは、終末サゴーズ」

シンジ「カズマ後で説教！」

エイジ「——やはり俺は、普通の人間の遊びすらできないのか……！」

映司「あ、あ……そんなに落ち込まないで」

プトティラ「エイジ、大丈夫？」

エイジ「……心が折れそう……」

エイジス「カルタはやめるぞ、王環が自分の馬鹿力を気にし出した……！」

士「ということ……」

ユウスケ「代わりにスマブラXをすることになりました！」

ピット「わー、じゃあ僕達見てますね。……僕使って負けたら首折られると思ってくださいよ？」

リンク「ピット、それ、脅しだよ」

ピット「脅しですから」

士「大体分かった、——ソウジ（骨太）とカズマ（GV）とユウス

ケ（アークル効果）とエイジス（死なない）以外はピットを使うな！草加雅人の悲劇が起こるぞー！」

エイジス「何で俺がそのラインナップに入ってるんだ！？」

エイジ「じゃあ俺は、ゼルダでも使うか」

カズマ「…俺、リンク」

シヨウイチ「え、お前使い手ピット…」

カズマ「負けて首折られたくない！」

シヨウイチ「お前は大丈夫だ！…あー、俺、フォックス」

ソウジ「…ところで、これ、GCコン3つしかないのか…？」

士「Wi iコンは海東の持参品だからな。前にそれで、圧倒的な強さを誇った四足動物サンダースがいたぞ」

ソウジ「…Wi iコンってどうやって動かすんだ？」

シヨウイチ「だーっ！俺の持つてるGCコン貸すから交換しろ！キヤラは変えるよー！」

ソウジ「じゃあゲームウォッチで、…どうやって切り替え…」

シヨウイチ「…もう俺がやる」

ソウジ「すまん」

カズマ「ステージは【戦場】ね！」

エイジ「よし、やるぞー！」

——バキィン！↑エイジのGCコンが粉碎された音

エイジ「orz」

士「俺のコントローラー！？」

映司「——スマブラ、って言うかゲームも禁止ーッ！」

エイジ「…俺、何で生きているんだろう」

シャウタ「き、気持ちを強く持つて……俺は人のこと言えないけど」
タトバ「そうだよ…シャウタでも16年間生きてこられたんだから

…」

シャウタ「タトバお前メシ抜き」

タトバ「アーツ！」

エイジ「そうだ、俺は怪物なんだ…怪物は怪物らしく、人を襲えばいい……俺はもう王環エイジじゃない、ギルだ。恐竜のグリード・ギルなんだ……」

ラトラーター「戻ってこい!？」

リンク「だったら、王環さんが物を壊さなくていい遊びをしよう！腕相撲とか!!」

士「馬鹿、あいつと腕相撲つて…エイジス以外複雑骨折で死ねって言ってるようなものだぞ!？」

エイジス「聞き捨てならんなその言葉」

リンク「大丈夫、……シヨウイチさんが超能力使っても骨が折れない人がいるから!」

シヨウイチ「ああ、正直、ソウジの骨の硬さは凄いぞ!？」

ソウジ「二人とも、後で尻向けるよ?」

ギル「……俺は怪物俺は怪物俺は怪物俺は怪物俺は怪物俺は怪物……」

ヒナ「あああ…お兄ちゃんが、自分の殻に閉じこもった…」

タジャドル「王環。…大丈夫だ、建物や機械はあんたの全力を受け止められないだろうが…ここにいるガードベントやら、ストレンジベントやら、アクセルベントやら、ファイナルベントは、あんたの全力を受け止めてくれるぞ」

士「…ぎゃああああっ!？」

夏海「机えええ!」

ガタキリバ「あれ、もやしの心配は!？」

エイジ「うつ、……だ、大丈夫か!？」

士「ああ…右手の甲は大丈夫だ、右手はいいんだが、……なんか肩が脱臼したような音が派手に聞こえた」

ユウスケ「っていつか…腕が変な方向に曲がってる!？」

エイジス「あー、腕は盲点だった」

エイジ「もう分かっただろう!俺は人知を越えた怪物なんだ、皆俺抜きで遊べばいいさ!！」

ヒナ「あーあ、やさぐれちゃった」

ソウジ「ちなみに、あれを翻訳すると？」

ヒナ「『もう分かっただろ、俺は人間じゃない、化け物だ。これ以上人を傷付けたくないから、俺抜きで楽しくやってくれ』」

映司「そんなこと言われたら…尚更放って置けませんよ」

シンジ「…ふんっ!」

…ボギギヤ!

士（肩復活）「流石シンジ、お前接骨院の道もあつたんじゃないか?まあともかく、——エイジス・レーヴァテイン…お前もやれよ…」

…!」

エイジス「……分かった」

エイジ「おい、もやしはギャグ+（一応）主人公補正で大丈夫だったんだ。レヴァは死ぬぞ!」

全「…いや、エイジスなんで大丈夫!」

エイジス「…お前ら、全員後で一発ずつストレインドウム!」

夏海「そ、それでは、…始め！」

エイジ（くそっ、なるべく力を抑えて…）

——バギャッ！ ↑机破壊音

夏海「きゃああああああつ！？」

エイジ「…そんな、20%の力しか出してないのに…！orz」

士「おい、20であれなら俺の時ののはなんだったんだ！？」

40%です

エイジス「…あだだだだだだ」

映司「だ、大丈夫？」

エイジス「肩痛った…」

ユウスケ「肩を軽く痛めただけ！？」

タクミ「まさか、主人公補正やギャグ補正よりも、エイジス補正の

方が強いなんて…」

カズマ「エイジス骨太？」

エイジス「お前に言われたくないぞ！？」

ピット「面白そうなことやってますねー」

エイジ「面白くなーいッ！」

ピット「じゃあ、僕と勝負です」

エイジ「えっ、…いや、素手は…」

リンク「大丈夫、ピットの手は何よりも強固な鉄拳だから！後、かなり頑丈なはずのE2シユナイメモリを片手粉碎したほど力強いから、全力でも大丈夫！！」

ピット「後でその鉄拳で殴って差し上げましょうか？」

映司「じゃあ…始め！」

エイジ（リンクはああ言ったが、やっぱり、全力でやるわけには…）

ピット「…おらあああああ！」

エイジ「!？」

全「「おおっ!？」」「」

エイジ「くっ、そ、……んのやろおおおお！」↑全力

ピット「……ぬおりやあああああああああああ！」

エイジ「うおおおおおおおおおおお!!」

映司「ねえ、何でピット君王環さんと接戦なの!? ちょっと、誰か説明して!!!？」

アंक「俺が知るか！」

リンク「わかんない！」

士「正直、リンクとアंकの一言に総てが詰まってる！」

…5分経過…

ピトエイ「うおおおおおおおおお!!」

夏海「も、もうやめてください、…二人の力が均衡すぎて、机の方にダメージがー!!」

シヨウイチ「二人が肘をかけている部分から、メキメキ言い始めているな…」

サゴゾ「ねえ、……天使ってなんだっけ。シャウタ」

シャウタ「俺に聞くな!？」

エイジ「はあ、はあ、はあ…」

ピット「ぜえ、ぜえ、ぜえ…」

士「本当にありえないな、どっちも」

カズマ「ちよつと気になったんだけどさ、シンジとエイジさんがやったらどうなるんだろ」

シンジ「カズマ…?」

カズマ「ごめんなさい、言葉が足りませんでした!」

海東「いや、あながち間違ってもいないよな…」

ユウスケ「どの部分が足りなかったんだ?」

カズマ「——お母さんのサゴーズとエイジさん、どっちが強いんだろって」

全「「それは気になった」」

シンジ「ライ」

映司「というわけで、俺のドライバーとメダルを貸しました!」

Sサゴーズ「全員覚えてろ…」

エイジ「あー、サゴーズなら最初から全力で大丈夫か」

サゴーズ「何それ!? 俺を過信しないで、お願い!」

プトティラ「どんまい」

士「ところで、シンジのサゴーズは一撃一撃がFV級なんだったな」
エイジ「ファイナルベントって何なんだ?」

士「ファイナルベントとは、龍騎ライダーの一撃必殺技のカードだ。威力は桁違いで、龍騎のドラゴンライダーキックなら6000AP・サバイブのドラゴンファイヤーストームなら9000APという具合にな」

映司「AP…って?」

海東「20AP辺り1tという設定らしい。だから、分かりやすく例えるなら…プトティラのパンチ力20tはAPに直すと、400APかな」

士「つまり、シンジサゴーズの打撃力はおおよそパンチ300t（龍騎FV）・キック450t（龍騎SVFV）と推測される…」

映司「ところで王環さんって、……素でどのぐらいのスペックだったっけ？」

エイジス「確か…オーズに変身したら、どのコンボでもパンチ20t・キック30t強化されるから…すっぴんでもそのぐらいだよ」
ヒナ「どおりでお兄ちゃんが変身したシャウタ、3.5tとは思えない破壊力だと思った…しかもあれを直撃した力ザリと後ろのビル、……可哀想」

ショウイチ「待てよ、——打撃力〃腕力だとすると、」

Sサゴーズ「…そおい!!」↑エイジの腕を叩きつける
エイジ「うおっ!？」

——バギゴギギアアア…↑机完全粉碎

夏海「机ええええーツツツ!？」

全「…そうなりますよねー」

ちなみにシンジサゴーズのSCは本来の威力+750t

エイジ「あだだだだだ…」

ソウジ「大丈夫か、王環君」

エイジ「…グリードじゃなかったら、完全に骨やられてました」

ショウイチ「おい、馬鹿力グリード超えるってお前何なんだよ…」

海東「そんなスペックを誇りながら、何でレーヴァティン当主が来るまでにプトティラを倒せなかったんだい…？」

シンジ「言っな！」

ヒナ「あ、——個人的にギルVS銃火器シャウタ見たい」

王レヴァ「「なんだとおおお！？」」

士「待て、エイジスはキック力以外は普通スベックだぞ！？」

エイジス「水中移動スピードの強化忘れるな！」

ユウスケ「カズマとギルを腕相撲させるより駄目だつて！？」

カズマ「うえーい！？」

でもさせてみました（机は新しいので）

ギル「くっそおおおお妹の頼みだ、許せレヴァああああ」

ESシャウタ「待て待て待て待て、全力でやるな、腕がへし折れる
！」

ギル「うおおおおおおおお」

ESシャウタ「こうなったら…次郎さん秘伝・液状化！」

ギル「げっ！？」

——ズドガアアアン！↑行き場を失った拳が机と床破壊

夏海「↑気絶

ユウスケ「夏海ちゃんツ！？」

士「駄目だ、泡を吹いて気絶してやがる！」

ギル「orz」

プトティラ「エイジ、亜種ゲームやる？」

シャウタ「ぶっちゃけ、これ、頭だけ使うゲームだから……何も壊さなくていいですよ」

ギル「……うん…シャゴリバ」

プトティラ「サキリーター！」

Fileプテラ：エイジお兄さんと遊ぼう（後書き）

次回予告

プトティラ「絵本読んで！」

映司「ええっ、仕方ないな…何読む？【浦島太郎】、それとも【桃太郎】??」

プトティラ「【JAXAぼくらの宇宙大冒険】！」

映司「それは公式サイトに聞きにいつてね!？」

映司「昔々あるところに、おじいさんとおばあさんが…」

プトティラ「ぷー…」

映司「うっ、何か不機嫌！」

リンク「どしたのプトティラ？」

プトティラ「つまんない！ブラカワニみたいに面白いお話して!!」
映司「ええっ!？」

リンク「…桃太郎、どこ…?」

プトティラ「ないよ？」

リンク「えっ」

映司「消えちゃった」

リンク「……えええええーっ!？」

Fileトリケラ：青年火野映司の創作

本日は、光写真館に映司とプトティラとリンクしかいません

映司「不安しかないメンバーだなあ…」

リンク「そこまで不安ですかね？」

映司「うん、何となく…プトティラが」

プトティラ「ぷ！ぷ！」↑カレンダーの裏でお絵かき中

映司「——俺の紫メダルも、あれぐらい素直で可愛げがあったら

…！orz」

リンク「……えーっと…」

Eプトティラ（リンクの妄想）『きゃーう！きゃーう！…！』↑プテ
ラノドン♀にSC

Eプトティラ（リンクの妄想）『ぐるるるー』↑ロストアंकキッ
クを食らっても生きてる

カザリ（リンクの妄想）『何あれ怖い！』

リンク「ねえです」

映司「え、そうかな…」

リンク「あのプトティラは、【どたばた！オーズ兄弟】のプトティラだから許されるんですよ、きつと。考えてみてくださいよ……あのプトティラの性格をした王環エイジさん、っていうかギルを！！」

映司「…かもなあ」↑鳥肌

プトティラ「…」↑四足歩行

リンク（ペットにしか見えない…）

映司「ん？どうしたんだ？？」

プトティラ「絵本読んで！」

映リン「えっ」

プトティラ「絵本読んで！！」

映司「ええっ、仕方ないな…何読む？【浦島太郎】、それとも【桃太郎】??」

プトティラ「【JAXA】ぼくらの宇宙大冒険」！」

映司「それは公式サイトに聞きにいったね！！？」

映司の中の人は「はやぶさ君」として朗読しております

映司「うーん、どうしようかな…ベターに、桃太郎にしよう」

リンク「それがいいと思います」

映司「よし！じゃあ、絵本のお話をするよ！！」

プトティラ「わーい！」

映司「昔々あるところに、おじいさんとおばあさんが…」

プトティラ「ぷー…」

映司「うっ、何か不機嫌！」

リンク「どしたのプトティラ？」

プトティラ「つまんない！ブラカワニみたいに面白いお話して！！」
映司「ええっ！？」

リンク「始まったばかりだよ！？」

プトティラ「つまんない！！」

映司「え、えーっと。プトティラ、ブラカワニ…さんって、どんなお話してるの？」

プトティラ「えーっとね」

ブラカワニ「よし、それじゃあパパンが【かちかち山】のお話を
するぞー」

プトティラ「ぷー！」

ブラカワニ「えーっと、“かちかち山というお山には、ラトラータ
ー並みに逃げ足の速くて悪戯好きなウサギさんがおりました”」

プトティラ「ラトラーターみたいなウサギさん？」

ブラカワニ「そう。“ウサギさんはその鋭い爪で農作物を刈り倒し、
赤い目から放つ怪光線で人々を惑わせ、耳からにんじんロケットを
発射して家を破壊していたのです！”」

プトティラ「わくわく」

ブラカワニ「“そんな悪戯者のウサギさんを成敗するべく、颯爽と
現れたのは白馬に乗った徳川吉宗でした”」

プトティラ「サゴーズ喜ぶね！」

ブラカワニ「うん、サゴーズはちゃっかりサイン貰いにいったよ。

…“そして、徳川吉宗はウサギさんをおびき出し、大好物のピーマ
ンで泥舟の上に乗せることに成功！泥舟に乗ったウサギさんは、そ
のままユーラシア大陸まで”…」

映司「——なんて無茶苦茶な【かちかち山】!？」

リンク「あれっ、狸……いなかったっけ？唐辛子の混じった薬は!？」

プトティラ「唐辛子じゃなくて、ハバネロだよ!」

リンク「……やだそれえええ!？」

映司「……でも、オチが気になる」

プトティラ「んーとね、ハバネロの薬に苦しめられたウサギさんは怨霊となつて徳川家を呪おうとしたけど、その前にサゴーズによって除霊されたの」

映リンク「「サゴーズ凄ッ!？」」

プトティラ「面白いお話ししないと凍らせるよ!！」

映司「それは嫌だ……」

リンク「どうしよう、今からでも王環さん呼んでくる？あの人ブラカワニさんと大差ないから」

映司「それならエイジスを呼んだ方が……」

プトティラ「ぷー」↑スキヤニングチャージの体勢

映司「待った!プトティラ、俺がお話しするから!！」

リンク「大丈夫なんですか!？」

映司「何とか……やってみる。だから、途中まではつまらないかもしれないけど、我慢して聞いてね」

プトティラ「あい!」

映司「じゃあ、桃太郎始めるよ!」

プトティラ「はい」

映司「——昔々、おじいさんになつた海東さんとおばあさんになつた夏海ちゃんが、拾つた桃を巡つてライダー大戦を繰り広げておりました……」

リンク「えっ!？」

プトティラ「わくわく」

映司「その一方で、二人の家から三軒離れた場所にあったショウイチさんの家では、突然地面の中から、天にも届く勢いの竹が生えてきました」

リンク「ええっ!？」

〃
〃
〃

ここからは、CV：火野映司で再生してください

ショウイチさんは「邪魔だろこれ!」と、得意の超能力で竹をへし折り…海東さんと夏海ちゃんの家を桃や仮面ライダー数体ごと押し潰してしまいました。

ちなみに、運悪く押し潰されてしまったのは…

桃から生まれるはずだったモモタロスと、召喚されたカイザと、王蛇と、ガタツクと、イクサと、アクセルと、エターナルと、サイガと、センチピードオルフェノクと、バットファンガイアと、偶然通りがかった電王プラットフォームでした。

「今、何か呻き声が聞こえたような…気のせいかな」

「——うえーい！うえーい！！」
「…ん…？」

その竹の中から現れたのは、親指ほどの大きさのカズマでした。
カズマは「うえーい！うえーい！」と元気な産声を上げ、煩^{わづ}がった
シヨウイチさんはお椀の中にカズマを入れて、鳴滝さんの腸と一緒に
に流してしまいました。

鳴滝さんの腸は魚に食われ、食べた後の魚はぷかぷかと浮き始めま
したが…

お椀と一緒に流されたカズマは、そのまま海まで流れ、ワタル君の
顔をしたお魚さんと出会いました。

「親の元に帰りたければ、月の国にいるかぐや姫を探してください」

その言葉を信じて、かぐや姫を探そうとするカズマでしたが…空に
浮かぶ月に行く方法がありません。
そんな時でした。

大きな壁時計を持ったタジャドルが、大慌てで飛んでいたのは。

「うえいうえい、うえー（訳：その真っ赤な血の色の鳥さん、カ
ズマを月の国に連れて行つて）！」

「悪いけど、これから竜宮城でパーティーなんだ。早く行かないと、
ディナーがなくなる！主にシャウタのせいで！！」

そう言つて、タジャドルは海の中に潜っていきます。

カズマはタジャドルに見捨てられて、うえいうえい泣いていました
が、海の中からシンクロナイスドスイミングをしながら…ブラカワ
ニがやってきました。

「もしもし、そのちびオンドウル。何をしているんだ？」

「うええー、うえーい（訳：月の国に行きたいけど、鳥さんが竜宮城目掛けて溺死しちゃった）」

「よし、だったら亀しか当たっていないパパンが、竜宮城に連れて行ってあげよう！」

そう言つて、ブラカワニはカズマを連れて竜宮城に向かいました。竜宮城では…

魚の被り物をつけたシャウタと、乙姫様の格好をしたサゴーズと、蛸壺の中に挟まったラトラーターと、イカの仮装をしたガタキリバ、先程のタジャドル、そしてナマズの髭をつけたタトバがおりました。しかし、竜宮城ではオートバジンに乗って騒音を撒き散らしているロケットの仮面ライダーがいました。フォーゼ？

いいえ、ロケットのライダーです。

「さて、この竜宮城にある“玉手箱”を渡してもらおうか！」

ロケットライダーはそう言いますが、乙姫サゴーズは要求を拒否。その玉手箱を開けてしまえば、たちまち世界に絶望や争いといった負の要素がばら撒かれてしまうからです。

パンドラの箱？いいえ、玉手箱ですが？？

ブラカワニは何とか乙姫様を助けようと、ロケットライダーに地すべりをしながら移動しましたが…

「——どうでもいいからディナーの邪魔すんな！」

「ぎゃふん！？」

…シャウタ（ただしシャケの被り物装備）のパンチ一発で、ロケットライダーは文字どおり【一撃必殺】を食らったのです。

哀れロケット。主役作品が世に出ていれば、まだまともな扱いだったのに…

空回りに終わったブラカワニでしたが、彼は一応乙姫様たちに相談してみます。

「いや、実はこのちびオンドウルが月の国に行きたいらしいんだけど、方法がないわけさ」

「タジャドル…連れて行ったら？」

「いやいや、月って宇宙空間だろ！死ぬから！！」

「かといって、俺、蛸壺に引き籠もってるしー」

「俺はイカだし」

「シャケ・ウナギ・タコの文句なしの寿司ネタコンボだし…」

「ナマズだし」

どうやら、タジャドル以外は飛べる要素が皆無のようです。

このまま、タジャドルが月まで行って圧死するかと思いきや…

シャウタのお友達のプトティラ（イソギンチャクの着ぐるみ）が、ぶうぶう言いながらやってきました。

「シャウタ！ご飯！！」

「後でねプトティラ」

「…もうラトラーターの分食べちゃった」

「嘘おおお！？」

プトティラの発言に、ラトラーター、号泣。

この時点で、彼の夕飯抜きが確定してしまったわけですが…

まあそれは置いておいて。

そして、話が大体分かったイソギンチャクのプトティラは、こんな提案を出しました。

「あのね、実はさっき、『月に巢食う大魔王ディケイドを倒すための勇士を募る!』って瓦版を見たよ!」

「それだったら、その勇士ということで月に行けば…」

「うええーい(訳:かぐや姫に会える)!」

とりあえず、ラトラーター以外はその場で夕飯を食べ…

その後で、タジャドルには月の勇士が集まる集会場までカズマを乗せてもらうことにしました。

その途中で、『私は犬です』と書かれた張り紙を貼られたアंक(腕)と…『私は猿です』と額に書かれたユウスケと、『私は醜いアヒルです』と目で訴えるアスム君と出会い、タジャドルは彼らにカズマを押し付けます。

だって、タジャドルはこれからランプの王国に戻って、ロストアंकとチエスをしなくちゃいけないからです。やってあげないと、煩いんだこれが。

アंक・ユウスケ・アスム君と一緒に、巨大なミカン型のロケットに乗って、宇宙に向かうカズマ…

しかし!

——突然、宇宙船をバリバリと食べる何かが!

窓から外を見ると、何と、そこには巨大なウヴァがミカンロケットを食べていたのです!

え? オーズ本編でウヴァ一生復活しねえだろ??

……馬鹿! TV情報誌で復活の噂が本格化してきてるんだぞ!?

「や、やめてくれ! 夏海ちゃんを食べないでくれえええ!」

「おいウヴァ、何でお前そんなにでかいんだ!」

「僕は醜いアヒル…グワー! グワー!!」

皆パニックを引き起こして、まともな対応ができません。

このまま、宇宙船は食べ尽くされてしまうのか!?

そう思われたその時でした…

宇宙船に乗り遅れたバース・デイ（伊達さん）が、ウヴァに突撃したのは！

ぶっちゃけ、これが初期の後藤さんならブレストキャノンで誤砲してます。あの痛みは一生忘れません。

「大丈夫か、お前ら！」

「バース・デイ！」

「おい、ウバさんよお、どうせ食べるなら…これを食べる！」

「ん…おおつ、それは…！」

バース・デイが取り出したのは、特製のおでん。

ウヴァはミカンの形でしかない宇宙船よりも、まともな料理のほうがいい食べたかったようで、おでんを貰います。

更に、宇宙船を半分食べてしまった罪滅ぼしで、カザリとグリードになった真木博士とキヨちゃんで補強をしてくれたのです。

夜な夜な呻き声が聞こえる宇宙船になってしまいましたが、それ以外は基本的に快適な旅でした。

こうして、無事に宇宙船は月に到着。

早速アंक達は、我先にとディケイドを倒しに行こうと月の宮殿へ…しかし…

「ムーンプリズムパワー・メイク、アップ！」

「おい、ちよつと待て、それは現行プリキュアの猫の中の人…」

「…ムーンティアラ、アクション！」

「ぎゃああああ!？」

月のお姫様・かぐや姫…

そのかぐや姫が変身した龍騎は、ドラグセイバーをディケイドに向かって投げつけます。

勿論、ドラグセイバーはディケイドのライドプレート中央に貫通。更に龍騎はドラグクロウを召喚し、ディケイドに懇親の一撃を叩き込む！

「ムーンヒーリング、エスカレイション！」

「ぎゃふうつ！？」

その一撃で、ディケイドは爆発…月の国に平和が戻りました。それを見たアंकは、一言…

『俺達、来る意味あったのか？』

その場にいた誰もがそう思っていました。カズマは念願のかぐや姫との再会に、目を潤ませながら飛びつきました。

…が、蠅と間違えられて両手で潰されてしまいます。

「あ、蠅」

「うえいー！？」

しかし、小さくてもカズマはカズマ。

かぐや姫とシンジさんの攻撃にも耐え、うえいうえい訴えています。

「うえやうえいうえ（訳：カズマの親は誰）？」

「カズマ…？まさか、お前がカズマなのか！？」

「うえい（訳：うん）」

「…カズマ…私の子供おおおお！」

「うえきゅー！？」

感動の再会に、カズマはシンジさんに握りつぶされますが…
カズマなので潰されることはなく、そのまま月の国でシンジさんと
平和に暮らしましたとさ。
ちなみに…

爆発した海東さんと夏海ちゃんの家は、灰となって枯れ木に巨大な
教祖の花を咲かせたそうです。

〃
〃
〃

映司「よし、おしまい！」

プトティラ「面白かった！」

リンク「えーっと、ツツコミどころは捨てよう。でも、これだけは
言わせて」

映司「はい？」

リンク「…桃太郎、どこ…？」

プトティラ「ないよ？」

リンク「えっ」

映司「消えちゃった」

リンク「……えええええーっ!？」

プトティラ「だって、桃は潰されたんだから桃太郎はいないんだよ？」

映司「そうそう」

リンク「…それと、なんか、……色々混じってません？」

映司「そうかな？」

プトティラ「わかんない」

リンク「……あつれええええ……俺、ツツコミだっけ、ボケだっけ……」

リバーシブルです

（影からこっそり聞いていた三人）

エイジス「…つくく、…つぶ、……はははははは……！」 ↑抱腹絶倒

ヒナ「何あのカオス……」

エイジ「……懐かしいなあ、……。ムーン……」

Fileトリケラ：青年火野映司の創作（後書き）

次回予告

シンジ「いい、プティラ。これから取材（の真似事）に行くから、ちゃんと写真を撮るんだよ」

プティラ「分かった！」

シンジ「本当に？」

プティラ「ぷ！」

シンジ「…早速撮らない！」

エイジス「プティラには、雑誌のカメラマンよりも…もやしのほうが合うんじゃないか？」

夏海「確かに、土君は好き勝手写真撮りますからね」

土「おい！俺はな、これはと思った被写体を…」

リンク「プティラが撮りたいものを撮ればいいんじゃないかな。

カメラって、その人個人の世界を写すものだから…プティラの世界を撮ればいい」

プティラ「きゅん？」

リンク「まあ、ぶっちゃけ早い話、上手く撮ろうとするんじゃないで、プティラが写真に撮って楽しいものを映せばいいんだよ」

F i l l e
ティラノ：プトティラの一日カメラマン

File ティラノ：プトティラの一日カメラマン

——カメラマン。

それは、カメラで被写体を写すお仕事。

ディケイドには主にもやしのせいでカメラマン率が3人+1（タクミ）という結果になったが、そこは気にするな！

というか、お仕事にしているのは士とシンジぐらいで、由里ちゃん（と、タクミ）は部活動だ。

士「さて、カメラマンに挑戦してもらうのは…この人！」

プトティラ「がんばる！」

全「「「すげえ不安だーッ!?」「」」

シャウタ「……うちのプトティラに文句でも？」

ユウスケ「いえ、ないです！」

夏海「文句なんて、あるわけないです！」

シンジ「いい、プトティラ。これから取材（の真似事）に行くから、ちゃんと写真を撮るんだよ」

プトティラ「分かった！」

シンジ「本当に？」

プトティラ「ぷ！」↑シャッター切る

シンジ「…早速撮らな〜い！」

士「取材（の真似事）というが、誰を取材するんだ？」

シンジ「そりゃあ、——人からグリードになつた王環エイジさんを…」

エイジ「orz」

映司「うわっ、王環さん！？」

エイジス「生きる王環！頑張れ王環！！」

ヒナ「お兄ちゃんファイト！」

カズマ「無理そうだよお母さん！？」

シンジ「よし、じゃあ、銃火器シャウタの銃火器の秘密を」

エイジス「他を当たれ！」↑マスケット撃つ

シンジ「はっ！」↑回避

ソウジ「あだっ」↑直撃

カズマ「ソウジさあああん！？」

ソウジ「……痛い」↑頭に当たったが弾は骨を貫通せず落ちた

シヨウイチ「お前もう第二のガードベント名乗れ！？」

シンジ「えー、……無理そうなのでここは…映司さんで

映司「ええっ！？」

シンジ「ずばり、——紛争地域での話は単なる美談という噂がありますが、その所は」

映司「orz」↑トラウマ再発

エイジス「映司イイイ!？」

ヒナ「頑張つて!生きて!!」

エイジ「お前本当に妖怪だな!？」

シンジ「それで妖怪呼ばわりされる意味が分からない!」

ショウイチ「で、——俺かよ...!」

シンジ「ショウイチさん、ギルスになつていたときの様子はどんな感じてしたか？」

ショウイチ「そして、その質問はねえわ」

シンジ「すいません。レンさんの物真似したいんです」

ショウイチ「まあ答えるけどな...、...俺はその時はまだ自分の力に振り回されていたから、よく覚えていないんだ。覚えているのは...」

プトティラ「...ぶきゅー...」↑昼寝中

ショウイチ「.....」

シンジ「こら、プトティラ!起きなさい、取材中だから!」

プトティラ「むにゅ...つまんにゃい」

シンジ「...つまんない言うな、これが仕事だーッ!!!」

プトティラ「あきゆう!？」

ショウイチ「ぎゃーっ、雷がッ!？」↑耳押さえる

プトティラ「ぶ、ぶっ、...ふええええええええええ」↑大泣き

ショウイチ「あーあ...」

シンジ「なんで泣くの!？」

ショウイチ「いや、泣くだろあれは...あれで泣かないのはカズマぐ

らいだ…」

シャウタ「——プトティラアアッ!？」

ショウイチ「Σうわっ、保護者出てきた!」

シンジ「ガミガミガミガミ…!」

シャウタ「ぎゃあぎゃあぎゃあぎゃあ!」

サゴーズ「お母さん同士の喧嘩だ!」

シンジ・シャウタ「誰が母だ!」

サゴーズ「うわ怖っ!？」

プトティラ「うえええええええん!」

映司「あばばばばばばー…駄目だ、泣き止まない」

アंक「変顔したらいいんじゃないのか？」

映司「…それはエイジスに殺される!」↑サブマシングンの気配を感じつつ

ソウジ「プトティラー、いないいないー…ばあ」↑弟切の顔真似

プトティラ「…ぶきゅううううううう!」

ソウジ「やはり弟切は駄目か」

映司「『やはり』っていうなら試さないでください!？」

エイジ「よし、じゃあ俺が…プトティラ!——ぶっ!」↑懇親の変顔

プトティラ「ぷひゅっ!」↑笑った

映司「王環さんその顔は駄目、放送コードに引かかる!？」

エイジス「王環ああああ!？」

ヒナ「お兄ちゃん!だから昔っから、『喋っても動いてもギャグ』って言われるのよ!？」

エイジ「Σえっ、それどういう意味!？」

ヒナ「前々からシngoさんやメズールと話してるのよ、『お兄ちゃんはじつとしていたらそれなりにカッコいいのに』って…そのたび、二人からなんて言われてるか分かる？」

エイジ「さあ…」

ヒナ「——『色々残念すぎる』って言われてるのよ!」

エイジ「orz」↑ノックアウト

映司「orz」↑とりあえず、喋るとたまに残念

エイジ「お前ら、頑張れ」↑普段はいいのに、仮面ライダーになると色々残念

タジャドル「えー、一日雑誌カメラマンは中断!」

ガタキリバ「いや、元から無理があるだろ…」

ラトラーター「取材の間、待ってるのがなあ」

エイジ「プトティラには、雑誌のカメラマンよりも…もやしのほうが合うんじゃないか？」

夏海「確かに、土君は好き勝手写真撮りますからね」

土「おい!俺はな、これはと思った被写体を…」

ヒナ「その結果がパンツ?」 映司の写真です

土「……それは、事故だ」

ユウスケ「何のだよ!？」

プトティラ「がんばる!」

ブラカワニ「チャレンジするのはいいことだぞ、マイペット!」

タトバ「でも、何を撮るの?」

サゴーズ「そもそもあの人、仕事してるのかな」

土「いやっ、してる!してるぞ!？」

ユウスケ「…いつ!？」

ワタル「え？バイオリニストじゃなくて??」

シンジ「ええー？お前、確かに俺にカメラマンだって言ってたけど…うちの世界じゃ弁護士してただろ？」

カズマ「チーフはしてたけど、カメラマンの仕事はしてないじゃん」
タクミ「なんで学生に？」

ショウイチ「お前、郵便配達員じゃないのか？」

ソウジ「ゼクトルーパーやおでん屋の手伝いだっただけ…」

アスム「音撃道の大師匠って設定では？」

ヒナ「え…シンゴさんの話だと、研究員じゃなかったの？」

エイジス「お前、レイラから聞いたぞ。某永遠の10歳のポケモントレーナーのコスプレしてたって」

士「……お前らあああ!？特にシンジ！」

ピット「って言うか、『自由になった!』と大喜びしてプティラが出て行ってますよ」

全「……あつ、気付かなかった!？」

~~~~~

プトティラ「何撮ろう…」↑きよろきよろ

リンク「あれ、プトティラだ」

プトティラ「うー」↑写真撮る

リンク「不意打ち!？」

プトティラ「……うー」

リンク「あれ、どうしたの。そんなに難しい顔して」

プトティラ「あのね、俺ね、もやち…もにやし…もにやち……」

リンク「ゆっくり言おうね」

プトティラ「…もーやーし!」

リンク「はい続けて」

プトティラ「もやしより上手く写真撮りたいの」

リンク「（土のは目標としてもどうしようもないと思うんだけどなあ…）でもプトティラ、プトティラはそれで楽しい？」

プトティラ「う？」

リンク「土より上手く撮りたいっていうけど、それってプトティラがやりたいこと？」

プトティラ「…うー」↑首を横に振る

リンク「プトティラって、どうして写真撮りたいって思ったの？」

プトティラ「…なんでだろ？企画？」

リンク「……うん、企画は置いておこう。誰かに言われた【から】やりたいの？」

プトティラ「んーん。写真面白そうだから、撮りたいの」

リンク「ならさ、」

プトティラ「う？」

リンク「プトティラが撮りたいものを撮ればいいんじゃないかな。

カメラって、その人個人の世界を写すものだから…プトティラの世界を撮ればいい」

プトティラ「きゆう？」

リンク「まあ、ぶっちゃけ早い話、上手く撮ろうとするんじゃないくて、プトティラが写真に撮って楽しいものを映せばいいんだよ」

プトティラ「楽しいもの…」

リンク「好きなものや楽しいものを写真に撮ると、凄く面白いと思うよ？」

プトティラ「…んー」

リンク「難しいことじゃないよ」

プトティラ「…ん、分かった！ありがとー！」

リンク「ばいばーい」

プトティラ「ただいま！」

シャウタ「プトティラ！何処に行ってたんだ！？」

プトティラ「お外」

シャウタ「いや、そりゃあ、そうなんだろうけど…」

プトティラ「ぷ！」↑シャッター切る

シャウタ「うわっ！？何だいきなり！」

プトティラ「あのね、リンクにね、『プトティラが写真に撮って楽しいものや、好きなものを撮ればいい』って言われた！」

シャウタ「それで、何で俺？」

プトティラ「俺、シャウタ好き！だから、写真撮るのー！」

シャウタ「……………うわあああああああ」↑感涙

プトティラ「Σあきゆ！？」

シャウタ「うわあああああん、俺みたいなの、俺みたいなの…人間って言うかライダーの底辺にうわああああああああああ」

サゴーズ「シャウタ、嬉しいのは分かったから落ち着いて！ネガ発言やめて！！」

タトバ「プトティラ、何でシャウタが泣いたのか分からなくて泣きそうだから！？」

プトティラ「きゅ、きゅうつうつ…」

ブラカワニ「マイペット」その理屈なら、パパンも撮ってくれる？」

プトティラ「撮りゆけど…シャウタああああ」

ブラカワニ「あー、シャウタは嬉しいんだよ。プトティラに写真撮ってもらえるほど大事に思われてるんだー、ってね」

プトティラ「……そなの？」

ブラカワニ「そーなの。じゃ、パパンも撮ろうか！」↑薔薇取り出しながら

ガタキリバ「…そこは自然体でいけ、バカ親父！！」

結局、薔薇は装備から外されました

ブラカワニ「はいチーズ！」

プトティラ「チーズどこ！？」

ガタキリバ「そうじゃなくて、写真撮る時は『はいチーズ』って言うのが決まりなんだよ…カメラマンが」

プトティラ「そなの？」

サゴーズ「そうなの」

プトティラ「なんで？」

タトバ「なんでって…」

プトティラ「他のじゃ駄目？」

タジャドル「まあ、チーズは語呂がいいだけであって、何でもいいんじゃないか？」

シャウタ「ぐつぐす…」↑まだ嬉しくて泣いてる

ラトラーター「お母さん良かったな、息子が親孝行してくれて」

プトティラ「じゃあ…はいキムチ！」

ブラカワニ「なんで!？」

プトティラ「エイジ！写真!！」

エイジ「お、いいぞ」

プトティラ「はいパンツ！」

エイジ「それは火野に言え!！」

プトティラ「…」

エイジ「なんだ？」

プトティラ「…さっきの面白い顔のほうがいい…」

エイジス「ぶふっ!」↑思い出して笑った

後藤「くくく…!」↑実は見ていた

アंक「はっ、いいんじゃないのか…くふふふ…」

エイジ「うつわあ、何か凄く傷付いた…プトティラ、向こうで撮ってくれ。ただし誰にも見せるなよ!？」

プトティラ「う!」

映司（そんなことした所で、エイジスなら見に行くのに…）

プトティラ「えーじ！撮ろ!！」

映司「いいよ」

プトティラ「じゃあ、『アंक！』って呼ぶときの顔」

映司「…プトティラにとっては、それが王環さんのアレ並みのお気に入り変顔…？」

プトティラ「ぷきゅ？」

ソウジ「まあ、やってあげたらいいだろう」

後藤「いや、待て、…火野…お前は色ボケに走った際のアレが一番」

映司「やめてえええええ！後でO・A見たけど、凄い黒歴史イイイ！！」

プトティラ「わくわく」

シャウタ「やれ」

エイジス「何それ凄く見たい」

ヒナ「同じく」

映司「…ど、どうしよう、あまり思い出せない」

ヒナ「そんなことでどうするの！ガラスの仮面を被るのよ！！」

エイジス「お前ならできる！」

エイジ「手の届く範囲で人を助けたいんだろう！？今、それをしないでどうする！」

映司「うわああああん、嫌だ異世界のオース達いいい！？」

プトティラ「……」

エイジス「何か言いたいことは？」

プトティラ「えいじちゅ」

エイジス「…」

プトティラ「えいじしゅ」

エイジス「……」

カズマ「ちなみに、フルネームで言ってみると？」

プトティラ「えいじしゅ・れーばてん」

エイジス「うん、俺も正直言いにくい名前だと思うんだ特に苗字。

あと、よく【レヴァーティン】【レーヴァティン】って言っている奴見るけど、【レーヴァティン】な」

エイジ「だから俺は、面倒くさいから“レヴァ”」  
シャウタ「後は大抵、“エイジス”呼びだよな？」

プトティラ「レバー！」

エイジス「肉の名前になるのだけは勘弁！」

プトティラ「じゃあ…エジス！」

エイジス「マジス的な言い回しだな」

プトティラ「…ジス？」

エイジス「マッドサイエンティストと混ざる。却下」

プトティラ「わかった！…えーじす！！」

エイジス「よし許可。…で？」

プトティラ「マスキットで誰か撃って？」

エイジス「——結局それかああッ！！！」

でも特別サービスで鳴滝を狙撃してくれました

ソウジ「楽しいか、プトティラ？」

プトティラ「うん！楽しい！！」

タトバ「プトティラ、俺達も撮って！」

サゴーゾ「って言うか…今凄くいい場面なんだけど！？ほら、ほら！」

ラトラーター「——うがあああああ！製作のバカヤロオオオ！！」  
タジャドル「うおおおお！脚本のバカヤロオオオ！！」

ガタキリバ「ぎゃあああああ、な、なんで、…俺の首をおお！？」

タトバ「今日のオーズ（４２話）の展開に不満のあるメダル放置とメダル破壊が、ガタキリバに八つ当たりしてんの！」

サゴーズ「あれ背景に撮って！」

ブラカワニ「あ、なら、パパンも」

プトティラ「いいよー」

シャウタ「つか、…お前らあああ！製作が何だ、脚本が何だ、俺なんてなあああッ!?」↑喧嘩に飛び込んだ

後藤「本当に無邪気なものだな。アレぐらいだったら、大して脅威にはなったりしないんだが」

映司「あはは…」

プトティラ「ごと！」

後藤「ごと…って、俺か？」

プトティラ「おーじゅばしゅたーで、えーじ誤射して！」

後藤「…何故誤射を蒸し返すうううう!!?」

映司「プトティラそれやめてえええ!？」

リンク「あ、何か大変なことになってるね」

ピット「来たな根源」

リンク「何の!？」

シャウタ「あー、気にしなくていいです」

プトティラ「リンク！写真いっぱい撮れた!!」

リンク「そう？どんな写真??」

プトティラ「…撮り方はわかったけど、見方はわかんない」

リンク「…あー、ごめん。俺もハイテク苦手」

タクミ「はいはい、僕がやるから…」

リンク「あ、結構面白いのが撮れてるね。プトティラらしくていいんじゃないかな」

プトティラ「ぷー！…でも、」

リンク「？」

プトティラ「…俺、いない…」

タクミ「あー、カメラマンだったからね…そんなもんだよ」

プトティラ「ぷうっ…」

映司「あ、じゃあ、今度は俺が写真を撮ってあげるよ！プトティラと皆の写真ー！」

プトティラ「いいの！？」

士「おい、それじゃあ一日カメラマンの意味が」↑シャウタに撃たれて蹴られた

Es シャウタ「G」五男」↑握手

シャウタ「あんたもな」↑握手返し

ユウスケ「それはお前が悪い…士」

プトティラ「だったら、エイジ！」

エイジ「ん？」

プトティラ「…一緒に変な顔しよ！」

映ジス「「ぶっ！？」」

ヒナ「ぷくく…」

ギル「———なんでまだ引つ張られるんじゃあああああああああ  
！！！」↑悲しみのあまりグリード化

## Fileティラノ：プトティラの一日カメラマン（後書き）

### 次回予告

オーズ兄弟チーム「さあ、レッツ・トライ！」  
士「いや、人数が多いし… 拳句作者は、『漢字組は打つのが一層面倒になるからやりたくない』って言ってたぞ！」  
ユウスケ「ぶっちゃけるな、そこ！」

ユウスケ「シャウタ！」  
ワタル「シャウター」  
シンジ「シャトラーター」  
カズマ「ラウター」  
ヒナ「シャトラタ」  
リンク「ラウタ」  
ユウスケ「えっ、え、いんの！？… シャウドル！」

映司「あ、そういえばカンガルとパンダ忘れてた！」  
ヒナ「あーそっか。じゃあ、改めて… タカガルドル」  
映司「タカガルーター」  
ヒナ「タカガルバ」  
ユウスケ「——って、ガンバライドオリジナルまで言い出したッ！？」

番外編・出張！換装！！亜種ゲーム

## 番外編：出張！換装！！亜種ゲーム

タトバ「【出張！換装！！亜種ゲーム】！！！」

タジャドル「ルールは簡単！最初の人が言った亜種を1つずつ繰り上げ、足は別の色にするゲーム！」

ブラカワニ「例を挙げれば、タトバ↓ラキリドル↓ガタジャタ…みたいな感じでな」

ガタキリバ「なお、分からなくなったらコンボ名を使って回避・新たにすることも可能」

サゴーズ「さっきので続けると、ガタジャタ↓タカウーター↓シャトラバ↓サゴーズ↓サゴリーター↓サトラバ…ってね」

ラトラーター「ただし！同じ亜種を続けて言ったり、“ブラカワニ”・“タマシー”を宣言したり、コンボの後にコンボを繋げた時点でアウト！！」

シャウタ「119種類全部言ったら次の人は“プティラ”と宣言して、クリアして続ける」

タトバ「ちなみに、同じ色↓違う色↓同じ色って続けてもいいらしいよ。例としてはタカジャバ↓タカキリバ↓ガタキリタ↓ガタウタ」

オーズ兄弟チーム「さあ、レッツ・トライ！！」

士「いや、人数が多いし…挙句作者は、『漢字組は打つのが一層面

倒になるからやりたくない』って言ってたぞ!？」  
ユウスケ「ぶっちゃけるな、そこ!」

タトバ「とりあえず、簡単なルール説明がてらに俺達が最初にやって…次に漢字組+ピットとアンクルイマジチームA+リンク↓リイマジチームB+エイジスの順番で行こう!」  
ワタル「久々の休みが悲惨なことに…」

アスム「まったくですよ…」

海東「罰ゲームは?」

ブラカワニ「うーん、……最終的に、間違えた人同士でキス」  
全「……やああめろおおお!!」「」

翔太郎「ちなみに、審判はフィリップが担当だ」  
フィリップ「さて、それじゃあ第1試合・オーズ兄弟編…スタート  
!」

タトバ「タカジャタ!」  
ガタキリバ「タカウーター!」  
ラトラーター「ラトラバ!」  
サゴーズ「ラキリーター!」  
タジャドル「ガタトラドル!」  
シャウタ「ラジャバ」  
プトティラ「タカキリーター!」  
ブラカワニ「ガタトラバ!」  
タトバ「ラキリタ」  
ガタキリバ「ガタウバ」  
ラトラーター「シャキリーター?」

サゴーズ「ガトラゾ」  
タジャドル「ラゴリドル」  
シャウタ「サジャーター」  
プトティラ「タカトラタ！」  
ブラカワニ「ラウバ！」  
タトバ「シャキリゾ！」  
ガタキリバ「ガタゴリーター」  
ラトラーター「ラトラーター！」  
サゴーズ「ラトラバ！」  
タジャドル「ラキリゾ」  
シャウタ「ガタゴリタ」  
プトティラ「サジャバ！」  
ブラカワニ「タカキリゾ！」  
タトバ「えつと…ガタキリバ！」  
ガタキリバ「ガタキリ…タ？」  
ラトラーター「ガタウバ！…あつ！？」

フィリップ「——待った！ラトラーターはアウトじゃない、真のアウトは……君だ！！サゴーズ！！」  
全「「えっ？」」  
フィリップ「よく考えたまえ、サゴーズの最後の宣言は『ラトラバ』……しかし、これは既にラトラーターが序盤で挙げた亜種だ！」  
サゴーズ「しまったあああ！？」  
翔太郎「気付いたならその時点で止めてやれよ！？」  
シャウタ「いや、そうになると、気付かず繋げたタジャドルの方に責任が……」

アウト判定はサゴーズになりました

サゴーズ「orz」

ラトラーター「やったー！」

翔太郎「さて、次は、漢字組withピット&アंकだぜ！」

士「サトラーター！」

夏海「ラ…トラ…バ！」

海東「ラキリドル」

映司「ガタジャタ」

アंक「タカウーター」

ピット「シャトラバ」

士「ラキリゾ」

夏海「ガツ…ガタゴリーター？」

海東「サトラーター」

映司「ラトラドル」

アंक「ラジャバ」

ピット「タカキリタ」

士「シャウタ」

夏海「シャウーター！」

海東「シャトラバ」

映司「シャトラバいます」

海東「…え？」

映司「シャトラバ、ピット君が言いましたよ」

海東「……」

フィリップ「…僕の出る幕がなかったけど、海東大樹out!!」

海東「うわああああ…嫌だああ！士もないメンバーでキスなん

て!!」

エイジス「キスとは決まってるぞ?」

翔太郎「さあ、今度はリイマジA+リンク!」

シャウタ「このチームの見所は、亜種戦闘に長けた王環ヒナさんがいることです!」

タジャドル「一方で、ユウスケ・カズマ・ワタル・シンジ・リンクは何処まで亜種を理解しているか!」

ユウスケ「ラジャバ!」

ワタル「タカキリバ」

シンジ「ガタキリドル」

カズマ「ガタジャーター」

ヒナ「タカトラゾ」

リンク「ラゴリゾ」

ユウスケ「サゴリドル」

ワタル「サジャバ」

シンジ「タジャドル」

カズマ「タカジャーター」

ヒナ「タカトラーター」

リンク「ラトラゾ」

ユウスケ「ラゴリタ」

ワタル「サゴーゾ!」

シンジ「サゴリタ」

カズマ「サウバ」

ヒナ「シャキリーター」

リンク「ガトラタ」

ユウスケ「ラウゾ!」

ワタル「シャゴリーター!」

シンジ「サトラバ？」  
カズマ「ラキリドル」  
ヒナ「ガタジャバ」  
リンク「タカキリドル」  
ユウスケ「シャウター！」  
ワタル「シャウター！」  
シンジ「シャトラーター」  
カズマ「ラウター」  
ヒナ「シャトラタ」  
リンク「ラウタ」  
ユウスケ「えっ、え、いんの！？…シャウドル！」  
ワタル「シャジャバ！」  
シンジ「タカキリゾ」  
カズマ「ガタゴリドル？」  
ヒナ「サジャタ」  
リンク「タカウバ」  
ユウスケ「シャキリ…バ！」  
ワタル「ガタキリドル」

フィリップ「ワタル、アウト！！」  
ワタル「えっ！？…何処を間違ったのかが分からない！！？」  
士「しかし…シャウター↓シャウター↓ラウター↓シャトラタ↓  
ラウタ…のコンボは見事だったな」  
海東「小野寺君なら引つかかると思っていたのに…」  
カズマ「うん、正直、あれ誰でも長考すると思う（特にラウタ）」

翔太郎「続いては、リイマジBチームwithエイジスだ！」  
ガタキリバ「シヨウイチさんはどこまで叫ばず言えるのか！」  
ラトラーター「しかし、エイジス・レーヴァティンは亜種を何処ま

で理解しているのか！そもそも、亜種の存在自体知っているのか！？」

エイジス「さあ？」

全「「「一番駄目だこいつー！！？」」「」」

タクミ「ガタキリバ！」

ショウイチ「おいやめろ！？…ガタキリドル！」

ソウジ「ガタジャーター」

アスム「タカトラ…バ？」

翔太郎「……おいアスム、それ、『タトバ』でいいんだぞアスム「えっ？」

士「最短記録打ち立てるなッ！？」

王レヴァ「「」」

映司「の、残りの二人が可哀想すぎる……」

フィリップ「ここは特別措置で、タトバということにしよう」

翔太郎「よし、タトバから続ける！」

エイジ「ラキリドル」

エイジス「ガタ…ジャーター？」

翔太郎「……orz」

エイジス「え、最初からじゃないのか？」

映司「もうこれ、どうしよう……」

士「決まってるだろ。……全部最初からやり直したーッ！！」

タジャドル「後、のっけからコンボは出来ればやめたほうが……」

タクミ「ファークイズ……」

## Take 2

タクミ「タカトラバ…ッタ」

翔太郎「出落ちとはこの事かああ！？」

ユウスケ「なんで！？何でタクミ君もアスム君も、『タカトラバ』なの！？」

タクミ「ご、ごめんなさい…」

士「裏話だが、このゲームは作者自身の発想に基づいて行われているので、誰がミスをするのかは作者にも分かっていないそうだ」

例：さっきのサゴーズ」

翔太郎「もう次から『タカトラバ』は無しだ！いいな！？」

## Take 3

タクミ「シャウタ…」

ショウイチ「だからっ…………シャウドル！」

ソウジ「シャジャバ」

アスム「タカキリー…ター！」

エイジ「ガトラドル」

エイジス「ラ…ジャ…バ？」

タクミ「タカキリ…ゾ！」

ショウイチ「ガタゴリバ」

ソウジ「サキリゾ」  
アスム「ガタゴリーター…？」  
エイジ「サトラドル」  
エイジス「ラジャーター…??」  
タクミ「タカトラタ…？」  
シヨウイチ「ラウタ」  
ソウジ「シャウバ」  
アスム「シャキリーター」  
エイジ「ガタキリバ！」  
エイジス「ガタキリゾ？」  
タクミ「ガタゴリバ…？」

翔フィリ「——アウトオオオ！」

タクミ「orz」

ユウスケ「いやー、……色々な意味で長かった」

ワタル「ホントですよ…」

士「で、罰ゲームどうするんだ？今のところ、サゴーズ・海東・ワタル・タクミだが」

ユウスケ「個人的に、異世界一家&トリプルエイジの亜種ゲーム見たい…」

一家「……えっ」

トリプルエイジ「……いや、しなくていいから!？」

士「——じゃあ、罰ゲームを決めるまでの間、やるか!！」

全「……ええええええええ!？」

くくく

翔太郎「まずは、異世界一家の四人からだ！」

フィリップ「あっさり加減では天堂ソウジが一番だったけど…さてどうなることやら」

ユウスケ「個人的に、このメンバーは凡ミスが命取りになりそうな気がする」

シンジ「ガタキリーター」

カズマ「ガタトラバ」

ショウイチ「ラキリドル」

ソウジ「ガタジャーター」

シンジ「タカトラゾ」

カズマ「ラゴリバ」

ショウイチ「サキリドル」

ソウジ「ガタジャバ」

シンジ「タカキリーター」

カズマ「ガタトラタ！」

ショウイチ「ラウーター」

ソウジ「シャトラーター」

シンジ「ラトラバ」

カズマ「ラキリタ」

ショウイチ「サゴーズ」

ソウジ「サゴリバ」  
シンジ「サキリタ…？」  
カズマ「ガタウーター」  
ショウイチ「シャトラゾ」  
ソウジ「ラゴリドル」  
シンジ「シャウタ！」  
カズマ「シャウバ」  
ショウイチ「シャキリゾ」  
ソウジ「ガタゴリタ」  
シンジ「サウバ」  
カズマ「シャキリドル？」  
ショウイチ「ガタキリバ！」  
ソウジ「ガタキリゾ」  
シンジ「ガタゴリバ…？」  
カズマ「ラトラーター！」  
ショウイチ「ラトラタ」  
ソウジ「ラウーター」  
シンジ「シャトラドル！」  
カズマ「タジヤドル！」  
ショウイチ「タカジヤバ！」  
ソウジ「タカキリドル？」  
シンジ「ガタジヤドル」  
カズマ「タカジヤゾ！」  
ショウイチ「タカゴリバ」  
ソウジ「サキリゾ」  
シンジ「ガタゴリドル」  
カズマ「サジヤドル！」  
ショウイチ「タカジヤーター」  
ソウジ「タカトラタ」  
シンジ「ラウバ」

カズマ「シャキリゾ？」

翔太郎「——カズマ、アウトー！」

カズマ「うえええい！？」

夏海「って言うか、……5コンボ名総て言いましたね！？」

士「ああ…シヨウイチ（サゴゾ）↓シンジ（ガタキリバ）↓シヨ  
ウイチ（シャウタ）↓カズマ（ラトラーター）↓カズマ（タジャド  
ル）でな！」

ユウスケ「正直、ソウジさん虐めだろ…」

ワタル「さあ、次はいよいよ…」

アスム「トリプルエイジ対決です！」

映司「サゴリーター」

エイジス「サトラバ？」

エイジ「ラキリタ」

映司「ガタウーター」

エイジス「シャトラーター？」

エイジ「ラトラドル」

映司「ラジャゾ」

エイジス「タカゴリドル…？」

エイジ「サジャーター」

映司「タトバ！」

エイジス「ラキリバ…？」

エイジ「ガタキリタ」

映司「ガタウゾ」

エイジス「シャゴリーター？」

エイジ「サトラゾ」

映司「ラゴリタ」

エイジス「…サウバ？」

エイジ「シャキリドル」

映司「ガタジャバ」

エイジス「……タカトラーター？」

エイジ「ラトラドル…？」

フィリップ「王環エイジ、out!!」

エイジ「しまったーッ！自分で言ってたのに!？」

全（（（エイジス粘ったなあ…）））

ユウスケ「で、罰ゲームは思いついた？」

士「ああ。……【Fileトラで、シスの実験台になる】だ!!」

ソウジ「…カズマと王環君は？」

士「含める」

被害者達「「「やめてえええええ!？」」「」」

エイジス「ところで、亜種ってどのくらいあるんだ？正直、多くて分かん」

士「まあ、確かに…あまり聞かない奴の方が多いな」

アंक「おい、誰か言える奴……」

映司「タジャドル」

ヒナ「タカジャーター」

映司「タカジャバ」

ヒナ「タカジャゾ」  
映司「タカジャタ」  
ヒナ「タカトラドル」  
映司「タカトラーター」  
ヒナ「タトバ」  
映司「タカトラゾ」  
ヒナ「タカトラタ」  
映司「タカキリドル」  
ヒナ「タカキリーター」  
映司「タカキリバ」  
ヒナ「タカキリゾ」  
映司「タカキリタ」  
ヒナ「タカゴリドル」  
映司「タカゴリーター」  
ヒナ「タカゴリバ」  
映司「タカゴリゾ」  
ヒナ「タカゴリタ」  
映司「タカウドル」  
ヒナ「タカウター」  
映司「タカウバ」  
ヒナ「タカウゾ」  
映司「タカウタ」  
ヒナ「ラジャドル」  
映司「ラジャーター」  
ヒナ「ラジャバ」  
映司「ラジャゾ」  
ヒナ「ラジャタ」  
映司「ラトラドル」  
ヒナ「ラトラーター」  
映司「ラトラバ」

ヒナ「ラトラゾ」  
映司「ラトラタ」  
ヒナ「ラキリドル」  
映司「ラキリーター」  
ヒナ「ラキリバ」  
映司「ラキリゾ」  
ヒナ「ラキリタ」  
映司「ラゴリドル」  
ヒナ「ラゴリーター」  
映司「ラゴリバ」  
ヒナ「ラゴリゾ」  
映司「ラゴリタ」  
ヒナ「ラウドル」  
映司「ラウター」  
ヒナ「ラウバ」  
映司「ラウゾ」  
ヒナ「ラウタ」  
映司「ガタジャドル」  
ヒナ「ガタジャーター」  
映司「ガタジャバ」  
ヒナ「ガタジャゾ」  
映司「ガタジャタ」  
ヒナ「ガタトラドル」  
映司「ガタトラーター」  
ヒナ「ガタトラバ」  
映司「ガタトラゾ」  
ヒナ「ガタトラタ」  
映司「ガタキリドル」  
ヒナ「ガタキリーター」  
映司「ガタキリバ」

ヒナ「ガタキリゾ」  
映司「ガタキリタ」  
ヒナ「ガタゴリドル」  
映司「ガタゴリーター」  
ヒナ「ガタゴリバ」  
映司「ガタゴリゾ」  
ヒナ「ガタゴリタ」  
映司「ガタウドル」  
ヒナ「ガタウター」  
映司「ガタウバ」  
ヒナ「ガタウゾ」  
映司「ガタウタ」  
ヒナ「サジャドル」  
映司「サジャーター」  
ヒナ「サジャバ」  
映司「サジャゾ」  
ヒナ「サジャタ」  
映司「サトラドル」  
ヒナ「サトラター」  
映司「サトラバ」  
ヒナ「サトラゾ」  
映司「サトラタ」  
ヒナ「サキリドル」  
映司「サキリーター」  
ヒナ「サキリバ」  
映司「サキリゾ」  
ヒナ「サキリタ」  
映司「サゴリドル」  
ヒナ「サゴリーター」  
映司「サゴリバ」

ヒナ「サゴーゾ」  
映司「サゴリタ」  
ヒナ「サウドル」  
映司「サウーター」  
ヒナ「サウバ」  
映司「サウゾ」  
ヒナ「サウタ」  
映司「シャジャドル」  
ヒナ「シャジャーター」  
映司「シャジャバ」  
ヒナ「シャジャゾ」  
映司「シャジャタ」  
ヒナ「シャトラドル」  
映司「シャトラーター」  
ヒナ「シャトラバ」  
映司「シャトラゾ」  
ヒナ「シャトラタ」  
映司「シャキリドル」  
ヒナ「シャキリーター」  
映司「シャキリバ」  
ヒナ「シャキリゾ」  
映司「シャキリタ」  
ヒナ「シャゴリドル」  
映司「シャゴリーター」  
ヒナ「シャゴリバ」  
映司「シャゴリゾ」  
ヒナ「シャゴリタ」  
映司「シャウドル」  
ヒナ「シャウーター」  
映司「シャウバ」

ヒナ「シャウゾ」  
映司「シャウタ」  
ヒナ「プトティラ」  
映司「ブラカワニ」  
ヒナ「タマシー」  
映ヒナ「恋愛コンボ」

士「……すげえ、言い切ったぞあいつら」  
映司「あ、そういえばカンガルーとパンダ忘れてた！」  
ヒナ「あーそつか。じゃあ、改めて…タカガルドル」  
映司「タカガルーター」  
ヒナ「タカガルバ」  
ユウスケ「——って、ガンバライドオリジナルまで言い出したッ！  
？」

タジャドル「……それでは、【出張！換装！！亜種ゲーム】…これにてっ！」  
シャウタ「次回は、あなたの所でやるかもね！」  
全「…させてたまるか！」「」

番外編：出張！換装！！亜種ゲーム（後書き）

次回予告

士「今回は【おいでよライダータウン！】のライダータウンに位置するミルクディッパーを、特別に借りたロケです！！」  
ユウスケ「嘘つけ！ウヴァが店番の日を見計らってアポなしで来たんだろうが！！」

ウヴァ「さあ、飲んでみる」

Rウヴァ「あ、…ああ」

Oウヴァ「…い、いただきます」

ユウスケ「……今思うと、ウヴァの味覚のおかしさってグリード的な意味では正解だったんだよ…！」

Rウヴァ「いや、…それでも、これは、……」

Oウヴァ「ブクブクブク」

映司「うわっ、俺の世界のウヴァが泡噴いた！？」

カザリ「…誰か怪人専門の医師をー！変態井坂をー！！」

Fileクワガタ：C a f e U v a

## Fileクワガタ：C a f e U v a

士「今回は『おいでよライダータウン！』のライダータウンに位置するミルクデッパを、特別に借りたロケです！！」

ユウスケ「嘘つけ！ウヴァが店番の日を見計らってアポなしで来たんだろぅが！！」

シンジ「ところでさあ、……アポなしで来ちゃったけど、この世界の俺達と顔を合わせると面倒じゃないか？」

カズマ「あ、確かに」

ショウイチ「いや、士だぞ？……あいつの根回し半端ない」

士「安心しろ。今は海開きで全員海で遊び、映司は廃人になっているから出会うことはない」

ショウイチ「…な？」

映司「Σこの世界の俺どうなってるの！？」

夏海「じゃあ、変装する必要なんてなかったんじゃ…」

士「念には念を入れて、だ。あ、ちなみに今回は趣向を変えて、こちらの方々も呼んでみました」

Rウヴァ「…【仮面ライダーディケイド　〇〇〇の世界】から来たウヴァだ」

Oウヴァ「本家【仮面ライダーオーズ】から来たウヴァだ」

ヒナ「うわっ、何でウヴァ呼ぶの！？」

Rウヴァ「Σ!!?」

エイジ「まあそう言っただけやな…ただな、こいつら怪人態になると非常に分かりやすい」

Oウヴァ「頭以外不完全です」

Rウヴァ「足が不完全です」

映司「…でも、ライ街ウヴァがどんな状態かによつては混ざっちゃうんじゃない」

士「それも大丈夫だ。あいつは基本怪人のままだから」  
映司「怪人態のままで接客してんの!？」

ヒナ「何そのコーヒー屋!何で雇ったのその店長?!」

Oウヴァ「ちなみに人間態は緑のジャケットとズボンだ」  
Rウヴァ「緑のジャケットと深緑のズボンだ」

ヒナ「そして違いが素朴すぎる!もうどっちか【虫頭】Tシャツでも着ててよ!!」

ちなみに、士達の変装状況←

士…電王の世界参照

ユウスケ…シンケンジャーの世界の黒子

夏海…電王の世界のウラタロス憑依服

海東…ディエンドの世界での14側近服

ワタル…狐の付け耳&尻尾

シンジ…ホスト服

カズマ…風魔の小次郎の麗羅参照

タクミ…むしろウルフォルフェノクで平常運行

ショウイチ…もはや浮浪時代の服

ソウジ…マーベラスの服

アスム…熱血先生の世界参照

映司…学校のブレザー

後藤…現在〇〇〇のワイルド510服

ヒナ…39話で里中が着ていた服

エイジス…着物

エイジ…ピカ。ユウの着ぐるみ（チョイス犯：エイジス）

Rウヴァ…中に虫頭Tシャツ

Oウヴァ…平常運行

〃  
〃  
〃

―カランコローン♪

ウヴァ「いらっしやい」

カザリ「…え、君達海に行ったんじゃないの？オーズに関しては増えてるし」

全「…しまったカザリもたまにしていること忘れてた！」「」

カザリ「何が！？」

カザリに説明中…

カザリ「――成程、まあ、変なことしないでよ…特にウヴァが頭使っている時は！死にたくなかったら尚更ね！！」↑結構マジな顔

ユウスケ「…一体何が…」

士「気にしないほうがいいだろうな。じゃあ、早速コーヒーでも…」  
映司「ストップ！……グリードって味覚もちょっと鈍ってるんだよね、何だろう、味の抜けたガムみたいに！…」

OUヴァ「まあ、だな」

ヒナ「それが？」

映司「……ちゃんと、飲めるレベルのものなんだよね…？」

カザリ「コーヒーは信用していいよ」

映司「何その限定的な一言！？」

カザリ「後、ケーキなんかの甘いものも信用はできるよ」

映司「不安しか感じられないのは何故！」

カザリ「あと、ギャグの世界に味覚なんかの五感問題を持ち込むのは禁止ね」

映エィ「ギャグ凄ッ！！」

エイジス「——マスター。コーヒー、ブラックで…ブレンドは任せる」

全「「そしてあんたの戸惑いのなさが凄いよ当主様！」」

ウヴァ「よし、分かった。…今ちょうど、試作中のコーヒーが出来上がったところなんだ。飲んでみるか」

エイジス「ああ」

映司「エイジスは少し疑問に思おうか！？間違えてトリカブトなんかの毒物が紛れ込んでいたら死…ない……か」

エイジス「おい！」

エイジス「…」

エイジ「どうだ、レヴァ、生きてるか!？」

映司「不味かったら即座に出していいよ！」

エイジス「いや、美味しい。…こんなに美味しいコーヒーは初めてだ」  
全「マジで!？」

エイジス「飲めば分かる。マスター、コーヒー別に1杯」

映エイ「いや俺達、味覚がアレだから参考には……」

ヒナ「じゃあ私が。砂糖とミルク1杯ずつ」

アスム「ヒナさんも度胸据わってますね…」

ヒナ「…」

エイジ「ヒナ、大丈夫か!？」

ヒナ「……美味しい！」

エイジス「な？」

エイジ「……ああああああ、飲みたい!飲みたいけど『飲みたい』欲求が即座に無になる上に、味覚もアレという！」

映司「なんかすっごい気になる!ああ、紫のメダルがちょっと恨めしくなってきた!!」

カザリ「じゃあ何でこの口ケ着ちゃったの!？」

映エイ「だって居残りは亜種ゲーム大会なんだもん!!」

オーズ兄弟+リンク&ピット+アंकは今回、居残りして亜種ゲーム大会で遊んでます

士「じゃあ…俺は砂糖4つだ」

ユウスケ「ミルク1杯」

海東「砂糖2つ」

夏海「じゃあ…シロップ1杯で」

ワタル「モカとキリマンジャロを2:1で」

シンジ「砂糖2杯で」

カズマ「ストレート」

タクミ「かなり熱めをお願いします」

シヨウイチ「ミルク1、砂糖1」

ソウジ「砂糖3つとミルク1つ」

アスム「えーっと…」

ウヴァ「……………」↑頭から煙

カザリ「——注文は2人ずつでお願い！それでも、最近やっと覚えられるスペック増えたんだから！」

全「「スペック低ッ！？」」

カザリ「まあ、僕が一応メモしてたけどね！……はい、残りも早めに……なるべく僕に注文よろしく！」

映司（この世界のカザリ、何か、…倒す気がまったく起きない…）  
ヒナ（なんていうか、…同情心が湧いてきた…）

Rウヴァ「……ジェラシート！！」

Oウヴァ「Σおおう！？」

カズマ「リイマジのウヴァさんが壊れた！」

ソウジ「待て、それはドルルモンの中の人だ！」

シヨウイチ「テントモンだろ！？」

シンジ「…声優ネタすんな！」

カザリ「で、そっちのウヴァ2人は？」

Rウヴァ「…おまかせ」

Oウヴァ「同じく」

カザリ「じゃ、オーズと同じ顔したのと一緒にの奴で」

ウヴァ「さあ、飲んでみる」

Rウヴァ「あ、…ああ」

Ｏウヴァ「…い、いただきます」

映司「大丈夫なのかな」

エイジス「あれ、2杯目のコーヒー知らないか？」

エイジ「…」↑エイジスの2杯目くすねた

Rウヴァ「……泥水ッ!？」

Ｏウヴァ「砂味ッ!!？」

エイジ「…99%カカオオオオ!！」

映司「味覚弊害がここに来てーッ!？」

エイジス「こら、鼻から噴出すな王環!それ全部飲めよ!？」

ヒナ「お兄ちゃん!これ以上変なことをすると、メズールへの話のネタにするよ!？」

シヨウイチ「お前はいつもメズールに何を話しているんだ!？」

兄の残念な部分を赤裸々に話しています

ウヴァ「……コーヒーを出す、だと?」↑なんかやばいオーラ

カザリ「ぎゃあああああ!？ちょッ、全員急いで飲み干して!何か降臨する!！」

映司「何が!？」

エイジス「マスター、王環が勝手に飲んだから…別のコーヒーもう1杯」

ウヴァ「……ああ」↑オーラ消えた

士「お前今日マジでフリーダムだな、エイジス!？」

カザリ「いや、でも助かった!ありがとう救世主!……そこ3人は味覚おかしくても飲み干して、2秒以内にね!？」

Rウヴァ+王環「……ふぁーいず……」

〃  
〃  
〃

士「さて、メニューでも頼むか」

ユウスケ「ところで、この代金って誰が払うんだ？」

士「いいパトロンがいるだろ」

ワタル「払いませんよ」↑王

エイジス「同じく」↑大富豪

エイジ「俺も出さん…ただレヴアのコーヒー1杯分は、払わないと  
バラバラにされる」↑親の遺産が莫大な研究者一族

ヒナ「勿論私もね。自分の分は出すけど」↑上に同じく

ユウスケ「はっ、そういえば、Wウヴァ…」

Oウヴァ「まさか、こんな所で闇金稼ぎで得た金が役に立つとはな

…」

Rウヴァ「…」

ヒナ「……すいませーん、この虫頭Tシャツのウヴァの代金、私の  
伝票につけてください」

Rウヴァ「…切ない、死にたい…」

エイジ「…今度から給料出すよ、うん」

映司「何の給料！？」

カザリ「はいメニュー。お勧めは、デザート類だよ」

映司（また限定的だ…）

エイジス「マスター、お勧めは？」

ウヴァ「期間限定のオレンジババロアだ」

エイジス「じゃあそれで」

海東「…今日、本当にフリーダムだね…彼」

夏海「いや、アレが正しいんですけど。……正しい客と店主の関係  
なんですけど…！」

カザリ「他には？」

士「お、このパーティセットなんていいんじゃないか？代金も割り  
缶でいけそうだし」

カザリ「ちょッ、それはお勧めしな…」

士「パーティセットを2つ！」

ソウジ「あと、イチゴのタルト1つ」

カズマ「教祖もフリーダムになってきた！」

ショウイチ「（なんだ…俺のリーダーが激しい危険警報を上げてい  
る！）……俺はモンブランだ！」

シンジ「イチゴのショートケーキ2つ！カズマ、死にたくなかった  
らこっち食べた方がいい…俺の勘がそう告げている…！」

カザリ「——その勘、正解！」

ウヴァ「オレンジババロアと、イチゴタルトと、モンブランを1つ  
ずつ…ショートケーキは2つな」

ヒナ「デザートだけはスペック要領超えて覚えた！？」

カザリ「…興味のあるものは、すぐ覚えるから…」

ウヴァ「待たせたな」

エイジス「…美味しい！」

ソウジ「〜ッ」

ショウイチ「……出来るだけ、味わって食べよう」

シンジ「ですね。…カズマもゆっくり食べる、いいね」

カズマ「うん、シンジの直感とショウイチリーダーとソウジさんの  
（変な意味での）強運を信じる」↑実際はこいつのほうはかなり強運  
ショウイチ（ソウジのは【悪運】じゃ…？）

ウヴァ「パーティーセットもできたぞ」

士「よし、食べるか」

ユウスケ「いただきますーす！」

ヒナ「…」↑様子見中

「」「ぶげらつぱあああつ！！？」」「」↑阿鼻叫喚の図

カザリ「——だから言ったのに…」

ショウイチ「…俺のリーダーマジありがとう！」

シンジ「俺、今回はかりは自分の勘が恐ろしい！」

カズマ「やたー！」

ソウジ「ん？」

ヒナ「…よかったー！食べてなくて…！」

映司「よかった、社交辞令として口につけようとしなくて！」

士「駄目だ、…トイレ！トイレえええ…！」

ユウスケ「ぎゃああああーぎゃあああああー！ぎゃあああああ  
ああああああー！！！」

海東「」↑レイプ目

夏海「な、何かが産まれそうぐらいに気持ち悪い…」

ワタル「アスム…あなたは、人間の中で生きてくださ…グブッ」↑

吐血

タクミ「……ぐああああ」

アスム「……僕って、ホント馬鹿……」

エイジ（興味本位で食べた）「……ヒナ、お前は……生きる……」

数分後……

屍の群れ「」「チーン」「」↑死屍累々

ユウスケ「……今思うと、ウヴァの味覚のおかしさってグリード的な意味では正解だったんだよ……！」↑アークルで治った

Rウヴァ「いや、……それでも、これは、……」↑体からセルメダル大量放出

Oウヴァ「ブクブクブク」↑昇天寸前

映司「うわっ、俺の世界のウヴァが泡噴いた!?!」

カザリ「……誰か怪人専門の医師をー！変態井坂をー!!」

カズマ「……どんな味だった、チーズ？」

士「食べるよ！おま、シンジと三十路効果で生き残りやがって!!」

カズマ「死にたくないもん」

エイジス「でも、興味はある……」

タクミ「お願いエイジス、食べて、そして僕達の苦しみを知って……」

！あと映司さんも!!」

映司「嫌だああ!?!」

映司「——こんなやつてないよ、酷すぎるよ……」↑思いっきり嘔吐してきた

エイジス「……」↑平然とサンドイッチ食べてる

士「お前大丈夫なのか!？」

エイジス「……俺はガチで毒を飲まされたことがあるんだぞ?（警告用だから魔される程度だったけど）」

全「「「すげえこいつ本当に死なないんじゃないかね!?!?」「」」

でも4分後に血反吐吐いて、結果、ブラカワニで自力回復しました

エイジス「……久しぶりに三途の川見た」

映司「実際、何回見たことある?」

エイジス「……、……13回?」

エイジ「それぐらい見てれば色々大丈夫だ」

ソウジ「……じゃあ、ミートスパを1つ!」

カザリ「やめてえええ! あんたは今まで何を見てきたんだあああああ!?!?」

ショウイチ「あ、でも、……ソウジならあるいは!」

シンジ「いや無理だ、……なんかそんな気がする!」

昇天寸前になりながらも、意地で食べ切りました

ソウジ「……」↑もはや廃人

ショウイチ「……お前は悪運をフリーダムで台無しにしてるだろ……!」

シンジ「それ言ったら、レーヴァティン当主もだけどね」

カズマ「食べなくてよかった!」

エイジス「しかし、…マスター、さっきのコーヒーのレシピ貰えないか？自分でやってみたい」

ウヴァ「ん？別にいいが」

全「…メモ取ってるんだ！？」

ウヴァ「店長の愛理が、『桜井侑斗用コーヒーレシピ』を書いているのを見たからな。俺も、真似してノートに書いている」  
カザリ「興味のあることには熱中するからね…」

エイジス「……」

ユウスケ「で、どうだった？」

エイジス「…なんかすっごい奇抜なブレンドだった」

カザリ「流石ウヴァ」

士「それじゃあ、本日のロケはこれで終了となります！」

全「…わーい」

ウヴァ「さて、そろそろコーヒー豆達が仕事をする時間だな…」

カザリ「勘定はこつちねー」

ヒナ（…どっちが店番してたんだっけ？）

夏海「あつ、」

タクミ「どうしたんですか？」

夏海「ごめんなさい…財布忘れてきちゃいました」

ユウスケ「ええっ、俺達そんなに持ち合わせないよ！？……って、海東何処行つたああッ！！？」

アスム「『新しいお宝を探しに、スーパー戦隊町に行ってみるよ』

って言つて去つていきました」

エイジ「食い逃げだろそれ！？」

シヨウイチ「……げ、俺も写真館に置いてきた…」

ソウジ「あー」

カズマ「俺も！」

シンジ「士の奢りと聞いて」↑ 嘘です

士「残念だが、俺も500円しかないぞ！」

映司「じゃあ何で頼んだの!？」

ウヴァ「……」↑何かとやばいオーラ

カザリ「ちょッ、だから、騒いだりしないで……！」

ワタル「残念ですが、僕も、1000円しか持って来てませんよ。

後は写真館に置いてきました」

エイジ「俺も、持ち合わせはそのぐらいだ」

ヒナ「ちよつと、これ、どうするの?」

Oウヴァ「2000円はあったぞ！」

タクミ「それでも足りないですって!?! ちょ、僕も1000円しか

……」

ウヴァ「——豆達の仕事の邪魔をするなああああ……!」

~~~~~

シャウタ「で、呼ばれて迎えに来たわけだけど……」

タジャドル「一体、何がどうなったら店の屋根が吹っ飛ぶんだ!?」
ラトラーター「それに…土達はビルに突き刺さったり、地面に埋ま
ったりしてるし…」

ガタキリバ「うわ、カズマの頭にガラスの破片が何枚も!」

サゴーゾ「いや…ユウスケなんて、足折っても仕方ない怪我なのに
もう治って…」

ブラカワニ「……食い逃げを捕まえて、その腕へし折ろうとしてる
なあ」

タトバ「…本当に何したの…?」

プトティラ「ぷー」↑ケーキ無断拝借

カザリ（死屍累々）「……だから、頭を使っている時のウヴァを刺
激するなって言ったのに…!」

エイジ「…やばい、グリードじゃなかったら本気でやばかった」↑
腹に屋根の破片突き刺さってる

エイジス「…あーもー、代金は修理代込みで全部俺が立て替える。
立て替えるから、……全員その分、ただ働きしてもらっぞ」

全「…「すいません」…」」

Fileクワガタ：Cafe Uva（後書き）

次回予告

（ 龍騎の【Alive a Life】を脳内で再生してください）

シャウタ「親父と、カズマと、海東大樹。誰がこの中で一番、頑丈なんだろうな？」

ブラカワニ「やめて、マイ息子ー！」

カズマ「やだあああ！」

海東「やめてくれないか！そういうことを言うのは！！！」

Ｌダークキバ「…ファイナルザンバット斬ッ！」

ブラカワニ「ぎゃあああああ！」

カズマ「うえーい！？」

海東「ぐあああああああ！！！」

Esブラカワニ「…治す俺の身にもなってくれないか、そろそろリエターナル「うん、ごめんエイジス」

Fileカマキリ：実証！最強のGV

ピット「でも、実際、トリプルエイジの火野以外も頑丈そうですね」

エイジ「やめろ！その提案やめてくれ！！」

Esブラカワニ「本気でやめてくれ！俺、最近『存在自体が生存フラグ』とも言われてきているんだぞ！？」

File カマキリ：実証！最強のGV

士「くそ、ここは守りを固めていくか、それとも…」

海東「フッフ…士、どうやら僕の勝ちみたいだね」

士「いいや、まだだ。……例えばカードが一枚しかなくても、勝てるはずだ！俺に…決闘者^{デュエリスト}の資格があるなら…！」

シンジ「何してんだ、あいつら」

カズマ「バトスピだって」

シンジ「それにしても、セリフがブレイドと遊。王混ざっていたな

…」

カズマ「なんでだろうね？」

ユウスケ「…うおおおおおー！」

夏海「ウエエエエエーイ！」

シンジ「で、あっちは？」

カズマ「シスが作ったガンバライド使って遊んでる」

タクミ「ユウスケさんがLRバーニング主体の撲殺デッキ、対する

夏海さんは防御デッキですって」

夏海「…あああっ！？」

ユウスケ「いやったー！勝ったぞおおー！」

夏海「うつつ、何故ですか、おま罪Wだったのに…！」

ユウスケ「相手の防御を下げるSPや、自分の火力を上げるメダル使ったからね」

シヨウイチ「それに、ユウスケがゲキレツアタックを決めて、ナツスタチの3ターン目必殺を封じたのも大きかったな」

士「——よつしゃああああ！逆転勝利だああ！！」

海東「そ、そんな、僕が…orz」

士「残念だったな…デッキアウトも勝ちなんだよ！」

シンジ「なんか外道がいるんだけど、あそこ」

シャウタ「うーん…」

エイジ「うおりゃああああ！」↑腕相撲した

ブラカワニ「ぎゃーっ!？」

エイジ「あつ、…す、すまん、……腕大丈夫か…？」

ブラカワニ「……大丈夫、すぐ、治るから…」↑右腕が180度向きを変えたけど治った

士「さて、罰ゲームはその人の言うことを聞く…だったな？だったら、……覚悟しろ海東！」

『Kamen Ride DECADE!』

『Final Attack Ride DE-DE-DE-DECADE!』

ディケイド激情態「…うおりゃあああああー!!」

海東「ぎゃあああ!？」

アंक「のあーっ!？」↑巻き添えで吹っ飛ばされる

映司「…アंकーツ!?」

海東「う、ううう…」↑とりあえず息はある

アंक「ぎゃああああああ!?!」

カズマ「うえい!?!」

―ずばこーん!

アंक「ぐああ…」↑気絶

カズマ「い、痛い…」↑意識はある

シャウタ「親父と、カズマと、海東大樹。誰がこの中で一番、頑丈なんだろうな?」

ブラカワニ「やめて、マイ息子ー!」

カズマ「やだあああ!」

海東「やめてくれないか!そういうことを言うのは!」

士「…いいんじゃないのかあ…?」↑悪魔スマイル

海東「やあああめろおお!?!」

カズマ「うえーい!うええーい!」

ブラカワニ「やめてえええ!?パパン、それこそ普通に死ぬううう!」

プトティラ「パパン頑張つて!」↑純粹無垢オーラ

ブラカワニ「…マイペット…orz」

タジャドル「トドメ入ったな」

シャウタ「プトティラの頼みは断れないからな、親父」

」

士「さて、ルールは簡単！…これから三人には総ての平成仮面ライダーの、総攻撃を受けてもらいます！！」

ピット「あれ、昭和は？」

士「偉大なる先輩ライダーの方々をこんな企画に使おうものなら、殺される」

シンジ「いや、お前はその前に、近場の龍騎に殺される恐怖を感じようか？」↑メチャクチャ凄い殺気

ショウイチ「…なあ、気になったんだが、BLACK-RXは…どつちなんだ？」

士「あー、ギリ昭和で。つか、大抵昭和扱いだろ」

ソウジ「不足分のライダーは？」

士「リンク」

リンク「えええ…ちよつと、……何で俺使つの…？」

海東「くッ、インビジブルのカードも取られたどころか、身ぐるみ総て剥がされて縛られる…なんてプレイなんだい！？」

カズマ「嫌ー！ガードベント能力はライ街のほうが異常すぎるだけであって、俺、そんなに頑丈じゃないー！！」

ブラカワニ「誰か助けてえええ！マイ息子、マイペットー！！」

オーズ兄弟達「がんばれー（棒）」「」
プトティラ「ブラカワニふぁいとー！ぷうー！」

士「まずは…平成仮面ライダー1号！クウガの攻撃！！」

クウガMF「ふふふ…海東だけ全力で殴り飛ばす」

海東「えええ！？」

士「待てユウスケ、威力は均等にしてくれ…一人だけ強すぎると、
不平等になりかねん」

クウガMF「それもそうか…」

士「…後、お前にはまだ、フォームの数だけ必殺技を決めてもら
わないといけないから」

ブラカワニ「…ちよつと待てえええ！」

カズマ「それ、フォームの数だけ攻撃食らうってことだよね！？…
オーズ何フォームあると思ってんの、チーズ！？」

士「 $5 \times 5 \times 5 + 3$ 」（恋愛、タカガルバ、タカトラガル、タカ
パンバは除外）

クウガMF「うおおおお…マイティキック！」

三人「…ぎゃああああ！？」」「」

クウガRF「超変身！…スプラッシュドラゴンー！」

三人「…嫌ああああああ！？」」「」

クウガTF「超変身！…カラミティタイタンー！」

三人「…やめてええええええ！」「」

（割愛します）

ブラカワニ「…」↑少しずつ回復

カズマ「うええい…」↑アンデッド効果

海東「」↑死屍累々

士「どんどん行くぞ！……あ、龍騎はシンジが仕事してくれそうにないから…シス・コムセを呼んだ」

SS 龍騎「いえーい」

シンジ「おおおいッ！？」

アギトSF「うおおお…シャイニングライダーキック！」

海東「オウノーツ！？」

龍騎SV「せいやー」↑ドラゴンファイヤーストーム

カズマ「きゃあああああああ」

ファイズBF「ごめんなさい…フォトンバスターッ！」

ブラカワニ「ひいひいひい！？」

装甲響鬼「師匠…すみません！鬼神覚声！！」

海東「うおおおおお浄化されるうううう！？」

カブトHF「…マキシマムハイパーサイクロン！」

カズマ「うえええーい！？」

キバEF「…エンペラームーンブレイク！」

ブラカワニ「Noooooooooo！」

DCDCFJF「そおりやあああああ！」↑夏の映画でやった巨大キック

三人「…ぎゃあああああ！？」

タジャドル「プロミネンスドロップ！」

ガタキリバ「ガタキリバキック！」

ラトラーター「ラトラータークロスだかなんだか知らないけど、とりあえず一発！」

サゴーズ「サゴーズインパクト！」

シャウタ「オクトバニツシュ！」

プトティラ「しゅとれいん…すちよれいん…しゅちよれいん…も
ういい！」↑ストレインドウム

Eタマシー「魂ボンバー！」

Hブラカワニ（メダルはリンクのTFから）「ワーニングライド
！」

三人「「ひやああああああ！？」」「」

海東「↑三途の川渡りかけ

カズマ「うええい…」↑もはや限界寸前

ブラカワニ「…パパン泣きたい」↑回復中

士「やっぱり、常時回復のブラカワニが手強いな」

カズマ「もう、優勝ブラカワニでいいよ！これ以上何をしたいのチ
ーズ！？」

士「だって、まだ、リンクによるリンチ終わってないし」

三人「「GYAAAAAAAAAAAAAAAA」」「」

LG3-X「…ケルベロスファイヤー！」」「」

三人「「ぐあああああ！？」」「」

士「…おい、リンク、……俺巻き添え…！」↑流れ弾当たった
タジャドル「↑上に同じく

しゾルダ「エンドオブワールド！」

三人「「ぎゃあああああああ！？」」「」

士「だかつ…ぎゃあああ！」

ラトラーター「ひーっ！？」

タジャドル「ぎゃあああああ！？」

鳴滝「ノーッ…！」

栄次郎「イカでビール！」

夏海「…おじいちゃああああん!？」

ユウスケ「うわっ、ちょ、誰か救急車！」

映司「っていうより、エイジス、…変身!！」

ヒナ「早く回復しないと！」

エイジス「おいその怪我人集団!頑張ってこっちまで来いよ、危ないから暫くそっちには行けん!！」

アंक「…いや、…お前大丈夫だろおお!？」↑言わずもがな

エイジスの追加適合コンボはブラカワニです

コアメダルの不足は映司のリユウガ激情態パワーで解決しました

Ｌカイザ「ゴルドスマツシュ！」

ブラカワニ「ぎゃああああ!？」

Ｌ電王SCM「超ボイターズキック！」

カズマ「うえええい!？」

Ｌキックホッパー「ライダージャンプ…ライダーキック！」

海東「おおおおおお!？」

士「ゼエゼエゼエ…！」

ESブラカワニ「変な企画立てるからだぞ」

士「いや、原因ほぼシャウタ…！」

ESブラカワニ「ほう、コブラの毒で死にたいと」

士「…すいませんでした」

Ｌダークキバ「…ファイナルザンバット斬ッ！」

ブラカワニ「ぎゃあああああ!！」

カズマ「うえーい!？」

海東「ぐあああああああ！！？」

「ディエンド」「ディメンションシユート！」

三人「「「やめてえええええ！？」」「」」

「エターナル」「ネバーエンディングヘルツツ！」

三人「「「ぎゃあああああああああああああああああああああ
あああ」「」」

本来ならもつと攻撃を叩き込んでおりますが、時間の都合で割愛
いたしました

Esブラカワニ「…治す俺の身にもなってくれないか、そろそろ」

「エターナル」「うん、ごめんエイジス」

士「「↑巻き添えまた食らった

タジャドル「…俺、自分の不幸を呪いたい」↑同じく

ラトラーター「なんで俺達、安定してこんな扱いなの？」↑言わず
もがな

プトティラ「パパン大丈夫？」

ブラカワニ「ありがとうプトティラ…でもね、……パパンもう限界」

↑再生が追いつかないけど生きてる

カズマ「…うえーい…」↑意識は残ってる

海東「ふふ、天使の服に身を包んだ兄さんが見える…」↑天国の階
段を上っている

シャウタ「これ、親父が最硬でFA？」

ガタキリバ「いやー、親父回復能力あるし……」

サゴーズ「回復のあるなしで考えたら、カズマって人じゃない？」

タトバ「って言うか、その人もアンデッドと融合しているなら回復能力高いじゃん……実際は、海東大樹って人じゃない？死に掛けてるけど」

ピット「でも、実際、トリプルエイジの火野以外も頑丈そうですね」

エイジ「やめろ！その提案やめてくれ！！」

Esブラカワニ「本気でやめてくれ！俺、最近『存在自体が生存フラグ』とも言われてきているんだぞ！？」

士「……それはいいなあ……！」

アंक「だったら、もう、……映司も足せ……！」

映司「アंक、お前コア全部割られたいか……？」↑映司さん目エ怖！モード（つまり紫目）

ソウジ「しかし、全員生身だろう？……他はともかく、エイジスは普通に危ないんじゃないのか」

エイジス「……っていうか、俺がガードベント扱いされる理由が分からない！」

エイジ「むしろリターンベント？」

エイジス「シュートベントぶちかまされたいか王環」

士「だったら！……体の表面の硬さではなく、中身の硬さ勝負だ！……」

映司「嫌な予感が……」

士「今から、ピーチに猛毒料理・ガタキリバにゲテモノ料理・ラトラーターに即死料理を作ってもらっ……それを3品目総て！実食

してもらおう！！」

カズマ「やめてえええ！？」

ブラカワニ「それは普通に死ぬー！」

海東「ははは…兄さんがいっぱいだ…天使の兄さんが…いっぱいだ…」

ピット「あんたも悪夢から覚めろ！想像しただけで怖い！！」

ラトラーター「って言うか、俺の料理、即死扱いされた…レトルトで済ませているだけなのに…」

ガタキリバ「だからじゃないのか…！？」

一食目：フルーツ餡蜜（らしき物体）

ブラカワニ「…マズッ！？」↑毒には耐性がある

カズマ「ちーん」↑昇天

シンジ「カズマアア！？」

海東「はは、兄さん、今からそっちに行くよ…」↑もう手遅れに近い

エイジ「だから…俺は味覚がアレだと前回から、でも、…それ飛び越してひっでえええええ！？」↑グリード

エイジス「…クツソ不味い！」↑毒盛られ慣れている

士「——カズマと海東、脱落」

二食目：野菜サラダ（に見えない禍々しさ）

ブラカワニ「…ぐおおおお」↑強烈な腹痛

エイジ「…触感がとんでもないことに…」↑セルメダル10枚ほど

放出（さつきは20枚）

エイジス「……………」↑普通に食べてる

映司「エイジス凄い!？」

エイジス「初めて俺が作った料理なんて、これより酷かったぞ」

リンク「何使ったの…？」

エイジス「味噌とハチノコとキュウリと」

映リン「ストップもういい!」

三食目：オムライス（だと思わなければ食えない）

ブラカワニ「…ぶっほおおお!？」↑吐血

プトティラ「Σパパーン!；□；」

エイジ「ヒナ、…………ごめんな、約束…守れそうに…………ブフッ」↑口から大量のセルメダル

ヒナ「お兄ちゃああああん!？」

エイジス「…………」↑普通に食べてる

ショウイチ「——内部器官強すぎだろ、お前!？」

映司「というより、…………コア大戦本編で毒飲んだって言った時、
本当は本物の毒だったけど、エイジスの解毒能力が強すぎて数日魔
される程度に終わった】疑惑が出てきたよ…?」

エイジス「いや、…………手前の酷すぎる料理2つで…慣れた…」

映ショウ「それも嫌だ!？」

士「それでは…内部器官部門の優勝は、エイジス・レーヴァティン
で!」

エイジス「そんな優勝要らん!」

ユウスケ「何者にも変えられない栄誉だよ!？」

夏海「はい、死なないって意味では…」

エイジス「——尚更いらーん！俺はとりあえず、暗殺で死ぬことだけは嫌だが…人として全うな終わり方をしたいんだああ…！」

ユウスケ「つまり、安楽死？」

エイジス「なんでそうなる！…普通に、やるべきことを終えて安らかに息を引き取る…そう！天寿を全うしたいんだよ俺は…！」

全「「無理じゃね？」」

映司「むしろエイジスなら、天寿の全うすら飛び越え500年近くは生きれるよ」

エイジス「それ、ほぼグリードかアンデッドだろ！…そうまでして生きたくなああい…！」

ブラカワニ「…パパン復活！」

プトティラ「うわあああああん、ぶりゃかわにいい…！」↑泣きつく

ユウスケ「あの人の頑丈さも凄いよな」

アंक「って言うか、回復能力がな」

シャウタ「むしろ、…プトティラ残して逝けない未練じゃ…」

士「ということで…続きまして、外部系衝撃緩和部門優勝は、剣立カズマ！」

カズマ「ちーん…」↑まだ飴蜜ダメージが癒えない

士「そして…総合部門の優勝は、ブラカワニです！」

ブラカワニ「うん、要らん」

エイジス「だろ…？」

シヨウイチ「ちょっと待て、」

士「どうした？」

シヨウイチ「俺は一つ、あることに気付いてしまった…」

ユウスケ「シヨウイチさん…？」

シヨウイチ「——そもそもコア大戦で、エイジスに致命傷どころか傷一つ負わせられずに本編終了してなかったか」

全「「「…」」」

士「えー、追加で、死亡フラグ回避部門並びにノーダメージクリア賞を…この場で贈呈したいと思います！」

エイジス「だから要らん！」

鴻上「すんばらしいッ！おめでとう、レーヴァティン君…！」

エイジス「そして誰だあんたは！？」

File カマキリ：実証！最強のGV（後書き）

次回予告

ガタキリバ「よっしやああああ、俺歡喜のコーナーだー!!」
タジャドル「いいよなあ、お前は…!!」

映司「まずは発声練習から。【バカキリバのガタではなくガタキリバのバカ】を3回連続で！」

ガタキリバ「おいっ!？」

タトバ「ガタキリバ…あ」

サゴーズ「バカキリバのバカ…ぐあああ！」

ラトラーター「バカキリバノガタではなくバカキリバ…ぐあー！」

プトティラ「ばかきりばのがちゃではなくがちゃきりぶあのぶわか

…ぶうううっ！」

シャウタ「バカキリバのガタではなくガタキリバのバカ、バカキリバのガタではなくガタキリバのバカ、バカキリバのガタではなくガタキリバのバカ」

ガタキリバ「…お兄、ちゃん、——うわあああああああああああああ
あああ!!」

ヒナ「やめてえええ！裏声で私のセリフはやめてえええ!!」

F
i
l
e
バ
ッ
タ
・
ガ
タ
キ
リ
バ
の
一
日
声
優

File バッタ：ガタキリバの一日声優

士「皆、アニメは好きか？」

プトティラ「すき！」

士「しかし、アニメというのは…日夜線画を描き、色をつけ、動作チェックや音響チェックなどをし、下手をすれば1話分を作り上げるのに1日以上掛かる仕事だ」

プトティラ「ぷうう」

士「そうして作られたアニメは、子供から大人、そしてオタクまで幅広く楽しめるものになっている」

プトティラ「ぷきゅ」

士「だが！忘れてはならないのが…アニメには必ず、“声”がつきもの！そしてアニメに声をつける作業を『アフレコ』といい、アフレコの際にアニメのキャラクター達に命とも言える声を与えるのが、声優！！」

プトティラ「せいゆー？大豆で作るの??」

士「それは醤油ゆいすいだ！」

プトティラ「じゃあ、えーじ？」

士「それはセイヤー！」

プトティラ「うー、ピカーって光る剣！」

士「それは（ライトニング）セイバー！声優だ、せ・い・ゆ・う！
！」

プトティラ「せいゆうー！」

士「ああもう、どうでもいい、とにかく！…今回ガタキリバに…つていうかガタキリバ+αにやってもらうのは、声優のお仕事だ！！」

ガタキリバ「よっしゃああああ、俺歓喜のコーナーだー！！」

タジャドル「いいよなあ、お前は…！」↑（今のところ）一人だけ理不尽な主役回だった

サゴーズ「俺達どうなるんだろう…！」

シャウタ「さあな…ラトラーターのこともある、生きて帰ればいいんだが…」

ラトラーター「でも、今のところ親父だけお仕事体験コーナーがなみたいなんだけど…なんで？」

サゴシャウ「さあ…！」

士「しかし！声優とは、一朝一夕でなれるものではない…例え声優学校を出たとしても、デビューできるのは限られた極僅かなんだ！！」

ガタキリバ「そうそう…」

士「というわけで、いきなりアフレコをするのではなく、練習をしてみよう！」

映司「まずは発声練習から。【バカキリバのガタではなくガタキリ

バのバカ】を3回連続で！」

ガタキリバ「Σおいっ！？」

タトバ「ガタキリバ…あ」

サゴーズ「バカキリバのバカ…ぐあああ！」

ラトラーター「バカキリバのガタではなくバカキリバ…ぐあー！」
プトティラ「ばかきりばのがちゃではなくがちゃきりぶあのぶわか
…ぶううう！」

シャウタ「バカキリバのガタではなくガタキリバのバカ、バカキリ
バのガタではなくガタキリバのバカ、バカキリバのガタではなくガ
タキリバのバカ」
タジャドル「Σシャウタすげえ！」

カズマ「バカキリバのガタではなくガタキリバのバカ、ガタキリバ
…うあああああ」

ユウスケ「これ、発声練習って言うより、早口言葉ですよ！？」

映司「あ、ごめん、メニユー先読みしてた」

シヨウイチ「って言うか、こいつなんで免除！？」

士「アフレコ上手いの分かりきってるから」

全「…納得いくかあああ！」

映司「じゃあ次の早口言葉！」

エイジス「もう早口で固定なのか！？」

映司「【タカメダルトラメダルバツタメダル、サイシャチプテラに
コブラメダル】！」

ユウスケ「タカトラ…ぐっ！？」

海東「タカメダルトラメダルバツタメダル、サイシャチプエラ…」

夏海「タカm、エダルトラメダルバツタメダル、サイジャチプテラ
にコブラメダウ…無理ですよッ！？」

エイジス「タカメダルトラメダルバツタメダル、サイシャチプテラ
にコブラメダル！タカメダルトラメダルバツタメダル、サイシャチ
プテラにコブラメダル！タカメダルトラメダルバツタメダル、サイ
シャチプテラにコブラメダル…！！」

映司「【タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティララトラー、タマシーシャウタにブラカワニ】！」
ワタル「タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティウララ…！」

シンジ「タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティウララトラーター、…だーっ！！」

カズマ「タトバサゴーゾpがオラk多雨なk k h yとティラbと安平…」

ユウスケ「Σ何語！？」

タクミ「タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティララトラー、タマシーシャウタにブラカワニ…！」

ショウイチ「タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティララトラー、タマシーシャウタにブラカワニ！タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティララトラー、タマシーシャウタにブラカワニ！タトバサゴーゾガタキリバ、タジヤドルプトティララトラー、タマシーシャウタにブラカワニ…！」

映司「【三十路が味噌で味噌汁を作るが味噌が無くなり三十路が味噌買いに行く】！」

ソウジ「三十路が味噌で味噌汁を作るが味噌が無くなり三十路が味噌買いに行く三十路が味噌で味噌汁を作るが味噌が無くなり三十路が味噌買いに行く三十路が味噌で味噌汁を作るが味噌が無くなり三十路が味噌買いに行く」

映司「【銃火器怪力あばばば新鮮芦河半熟シャウタ】！」

夏海「じゅかき…！」

海東「銃火器怪力あばばばば」

エイジ「銃火器怪力あばばば新鮮芦河半熟シャウタ！銃火器怪力あばばば新鮮芦河半熟シャウタ、銃火器怪力あばばば新鮮芦河

半熟シャウタ…！」

映司「【プトティラぶうぶうぶきゅぶうう、あうあうあきゅーきゅ
ううむにゅあいぶっ】！」

ヒナ「Σだから何語！？」

ユウスケ「プトティラぶうぶうぶきゅぶうう、あうあうあきゅーき
ゅううむぬゅ…！」

ガタキリバ「プトティラぶうぶうぶきゅうぶうう…！」

ラトラーター「プトティラぶうぶうぶきゅうぶう…！」

サゴーズ「Σ同じミスした！？」

プトティラ「ぷーぷーぷーぷーぷーぷー…！」

シャウタ「プトティラぶうぶうぶきゅぶうう、あうあうあきゅーき
ゅううむにゅあいぶっ！プトティラぶうぶうぶきゅぶいい、あうあ
うあきゅーきゅううむにゅあいぶっ！プトティラぶうぶうぶきゅぶ
うう、あうあうあきゅーきゅううむにゅあいぶっ！」

タジャドル「シャウタ、お前一体何なんだああ！？」

士「よし、次こそ発声練習だ！」

映司「じゃあ、音楽に合わせて発声するよ！……ちなみに、音程は
コンボソングに順ずる」

全「…無駄にオーズ…！」

映司「…トラが、やくに、たたず！」（タトバソングのノリで）
ラトラーター「おいっ！？」

全「…トラが、やくに、たたず…！」

プトティラ「たーじゃ、どるい、らっなっい！」

タジャドル「何の恨みがあるんだお前は！？」

映司「…ウーヴァウヴァウヴァキリツバ、ウヴァキリバ！」（ガタキリバソング以下略）

シャウタ「地味にそれプトティラ虐めだろ」

全「…ウーヴァウヴァウヴァキリツバ、ウヴァキリバ！」

プトティラ「らーと、らたらとらーた、いらないよ！」

ラトラーター「俺に何の恨みが!？」

プトティラ「…」↑首引つ張られたことまだ根に持ってる

映司「…カマキリゝ行方ゝ不明!」（ラトラーター以下略）

ガタキリバ「こらあああ!」

全「…カマキリゝ行方ゝ不明!」

プトティラ「タジャドルゝおやすゝみつ!」↑メダガブリュー一閃
タジャドル「そうはいくか!？」↑タジャスピガード

映司「…終末、サッゴーズ!」（サゴー以下略）

シンジ「ワイ」

全「…終末、サッゴーズ!」

プトティラ「…シャウータ、ごっはーん!」

シャウタ「終わったらね」

映司「…ショッショッショウイチ、ショッショッショウヤ!」（シャ以下略）

ショウイチ「無駄に本家に近いな」

全「…ショッショッショウイチ、ショッショッショウヤ!」

プトティラ「ブッラツカワニツ、さっんっぽいこっ!」

ブラカワニ「よし、このコーナー終わったらな!」

映司「…くっがっつかっら、フォーゼ!」（プ以下略）

ヒナ「メタやめて！」

全「くっくつかつから、フォーゼ」

プトティラ「たっじゃっどるーが、ない」

タジャドル「おいおま……あれっ、本当だ…なんで!？」

士「お前のは発声練習しにくい」

タジャドル「orz」

タトガトラトサゴシャウブラ「どんまい」(以下略)

プトティラ「さようなら」

~~~~~

士「さあ、本題の…アフレコだ！」

ガタキリバ「よっしゃー！」

士「じゃあ、まずはこれ…【仮面ライダーディケイド 000の世  
界】から『第6話【真相と誕生と暴走】Bパート』」  
ヒナ「え、ちよっと、」

士「ガタキリバ、お前には、王環ヒナの役をくれてやるぜ！」  
ガタヒナ「待てえええ!？」

ガタキリバ「…お兄、ちゃん、——うわあああああああ  
あああ!！」↑でも結局やった  
ヒナ「やめてえええ!裏声で私のセリフはやめてえええ!！」

プトティラ「……俺もやりたい……」  
ガタキリバ「あ、じゃあ、一緒にやるか?一人だけだともうもなあ」  
士「それもそうだな。じゃあ、今度は【おいでよライダータウン!】  
から『19話【暴走のTノ相撲は何処だ】』で…ガタキリバはソウ  
ジ・ユウスケはシヨウイチ・プトティラはシンジ・映司はカズマ」  
シヨウイチ「待てコラ!」

ガタキリバ「…ファイズアクセルフォームを警戒してか、照井は  
トリアルだな」

ユウスケ「おい、もうこの大会じゃ死亡フラグ…いやっ、きつと  
照井なら…なんとか…!」

プトティラ「でも死亡ふりやぐの立ちえあい対決じゃ、今回たっ  
きゅん勝ちゆね」

映司「(プトティラめちやくちや囃んでる!)…『やめてシンジ、  
それ、いつもあの2人が死亡フラグばかり立てて生還してるみたい  
じゃん』」

士「…今度は【Heaven's road of the KA  
BUTO】の『八速目』。カプトゼクターの音声をソウジ、天道総  
司をガタキリバ、ヘラクレスワームを……シヨウイチ」  
ユウシヨウ「やめる馬鹿あああ!」

ソウジ「……………」

シンジ（ああ、教祖が怒っている…）

ソウジ「『1』」↑準備中

ガタキリバ「『…』」そうか『」

カブトMF「『2』」↑変身済み

シヨウイチ「（すまん本当にすまん！）…『手加減はするな。…』」  
撃で倒せなければ、…『意味がない』」

カブト「『3』」↑キャストオフ済み

ガタキリバ「『—』」分かってる。…『ライダー…キック』」

カブト「…」↑スイッチフルスロットル高速プッシュ

『R i d e r   K i c k』

カブト「…そおい！！」

士「ぎゃあああああああ！？」

シヨウイチ「ナイス！」

ガタキリバ「うん、本人を目の前に本当に失礼！」

エイジス「俺もやりたいな…」

エイジ「あ、俺も」

士（蘇生）「だったら…『仮面ライダーディケイド&スマブラ』も  
う一つのコア大戦』から、『82話『液状とマスケットと狙撃手シ  
ヤウタ』』で…『エイジスがアंक、シヤウタがエイジス、王環は  
…オーズドライバー』」

エイジ「おいっ！？」

シヤウタ「って言うか、ガタキリバは！？」

エイジス「『…』」あのクソガキから、メダルを取り返せ！『」

シヤウタ「『…』」どうでもいいから、離れてろ！…変身！！『」

エイジ「『シャチ！ウナギ！タコ！…シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』」

エイジ「…なんだこの虚しさ！」

士「しょうがないな…それじゃあ同じ作品から、『99話【思いと祈りと仮面ライダー】』で…王環がリンク、エイジスが映司、映司は…俺」

映司「ガタキリバは？」

士「何のためにこの話を選んだと思っている？…タトバ以外のコンボ兄弟よ…異世界の馬鹿共が仕出かしたあのセリフを！お前らが言うがいい！！」

タジヤガタラトサゴシャウ「『えええ！？』」

タトバ「俺はーッ！？」

タジヤドル「『紅蓮に燃え立つ赤き翼！仮面ライダーオーズ、タジヤドルコンボ！！』」

ガタキリバ「『新緑映える緑の雷撃！仮面ライダーオーズ・ガタキリバコンボ！！』」

ラトラーター「『世界を吹き抜ける黄色い烈風！仮面ライダーオーズ…ラトラーターコンボ！！』」

サゴーズ「『唸る大地の鳴動、白き鉄槌！…仮面ライダーオーズ…サゴーズコンボ！！』」

シャウタ「『怒号の大海、激しく波打つは蒼海の誇り！——仮面ライダーオーズ、シャウタコンボ！！』」

エイジ「『人々の願いを乗せ、飛び立つ…想いの力！仮面ライダーダブル・サイクロンジョーカーゴールドエクストリーム！！』」  
エイジス「『総ての世界の人達のために、今ッ！仮面ライダーオーズ・プトティラコンボ、降臨！！』」

映司「『そして、通りすがりの仮面ライダー…ディケイド・コンプリートフォームだっ！覚えておけ！！』」

士「感想は？」

タジャガタラトサゴシャウ「『すっげえ恥ずかしいです』」

アंक「…」↑タジャドル担当

エイジス「…」↑シャウタ担当

士「そっちの奴らは？」

エイジ「いや、よくまあ、こんな恥ずかしいセリフを言えるもんだと思った」

エイジス「ノリとはいえ、映司おま」

映司「代わり映えのしない士が憎たらしい」

士「お前らな…そもそも、何で今回こんなことをしたと思っている？」

全「『さあ…』」

士「今のうちに、オーズ兄弟に恥ツずかしいセリフを言い慣れさせる必要があるからだよ」

オーズ兄弟「『何で！？』」

ソウジ「…あくまでもNOVEL“大戦”の冠をつけているんだから、決め台詞はあるということか？」

士「予定は未定だけどな」

オーズ兄弟「『嫌だああ！？』」

士「まあそう言うな、オマケでシャウタとタジャドル、これやつてくれ」

シャウタ「ん？」

タジャドル「おい、馬鹿、おま」

士「やらないと次回、お前達だけメイド服だぞ」

タジャシャウ「やります」↑殺気オーラMAX

ガタキリバ「あーあ」

ラトラーター「後でどうなるか知らないから…」

シャウタ「『やめ、ろ……俺に触るな…俺は、もう誰も…』」

タジャドル「『俺はお前に傷付けられたとは思っていない。むしろ、お前に救われた』」

シャウタ「『離、せ…』」

三十路コンビ「……」

タジャドル「『あの時、お前は俺の話を聞いてくれたよな。…俺の抱えていた荷物を、持ってくれたよな』」

シャウタ「『やめろ…離せ、……離せ…！』」

タジャドル「『それが凄く嬉しかった。…今まで一人で抱えていた分、泣きたくなるぐらい嬉しかったんだ』」

ソウジ「映司君、オーズドライバーと赤メダル」

映司「どうぞ」

シヨウイチ「…ひな祭り、オーズドライバーと青メダル」

ヒナ「はい」

三十路コンビ「『変身』」

『タカ！クジャク！コンドル！…タージャードル』

『シャチ！ウナギ！タコ！シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』

Sタジャドル「つーかーさ？」

『タカ！クジャク！コンドル！ギン！ギン！ギン！…ギガスキャン  
！！』

Sシャウタ「これは虐めか、虐めだよなあ？」

タジャドル「…狙って言ったな？狙ってやらせたな…？？」

『『スキヤニングチャー！』』

プトティラ「シャウタ、はい」↑メダガブリユー手渡し

シャウタ「ありがとうプトティラ。…もやしい…ここで塵屑となれ  
ッ！」

『シャウタ！』

士「ぎゃあああああああああああああああ！！？」

——ズドーン…

ガタキリバ「あー、楽しかった！」

ラトラーター「俺のはまともであって欲しいなあ…」

サゴーズ「だね…」

## File バッタ：ガタキリバの一日声優（後書き）

### 次回予告

カザリ「ネタに困っているなら、ちょっと、僕の意見を聞いてもらいたいんですが」  
士「どうした？」

カザリ「——本家オーズと、リイマジオーズ。二人のカザリに僕と同レベルの仕打ちをしたいんですけど、いいでしょうか」

オカザリ「ちよっ、何でいきなりバナナの皮が頭に……」

メズール「あらカザリ」

オカザリ「あ、メズール、……あれ、何で足がセルメン状態じゃ」  
メズール「……またサバ読みと言ったでしょ？」

オカザリ「……は……？」

Rカザリ「ちよーっ！何このウヴァ、何このウヴァ！……？」

ウヴァ「ぬおおおおおおお！」

カザリ「見ていて爽快」

リンク「自分と同じ顔だよ？」

カザリ「いや、だって、……あいつら僕の苦勞も知らないで……知らないでッ……！」

リンク「……あー、うん、ごめん。……またたび買ってあげる」

F i l eライオン：受難体質・カザリ

## Fileライオン：受難体質・カザリ

士「ネタが無い…」

エイジス「何だいきなり」

士「なあ、誰か、いいネタ持っていないのか！？例えば…宴会芸で役に立ちそうな芸を見せるとか…！」

エイジス「宴会芸って…俺に聞くな。王環に聞け」

エイジ「おい！それどういう意味だ！？」

士「ああ、いつそ、精神耐久力でも調べるか？そのほうが面白いと思うんだよ、実際！」

ソウジ「待て士、そんなことをしてみる、どうなるか分かるだろ！」

↓以下、ソウジの妄想説明↓

海東純一「…申し訳ございません、このような格好で」…↑純一スマイル×1000

海東「は、はは…あはは！あはははは…！」↑ディエンドライブ！乱射

シャウタ「うふふふふふ！？」↑ウナギムチで土ぶっ叩く

QB『僕と契約して、魔法少女になってよ!』

カズマ「いつだったか言ってたよね、希望と絶望のバランスは差し引きゼロだって…」

ブラカワニ「俺って、ホント、馬鹿」

士「…ふふ、そうさ、俺は破壊者さ…」

ユウスケ「……俺は空気さ…」

夏海「どうせ私は、影が薄いんですよ…」

龍騎SV激情態「——おっのれはあああ!？」

リュウガSV（中身シス）「ふーふふーのふー？」

映司「もうやめて…もうやめてくれ…」

エイジ「もういい…もういいだろっ…」

タジャドル「例えば俺が死んだとしても、俺の意思を、…タトバが受け継いでくれる…心も、想いも総て、不死鳥のように甦る」

ヒナ「もう、打つ手が無い…終末ってこのことを言うんだね…」

始「…オレハクサマラムツコロス!」「」↑ムツコロフェイス×

10000

シヨウイチ「もう、駄目だ…」

ワタル「…さようなら、僕の人生」

アスム「ああ、ヒビキさん、今行きます…」

ラトラーター「やめろ、消えてくれ…こんな悪夢…消えてくれえええ!」

電王SCM「ははははは!脆弱な仮面ライダー共よ、見るがいい、…貴様らとの繋がりを見せたばかりに消え行く…魂を!」

ソウジ「…また、守れないのか…!？」

タクミ「やめろ…やめろおおお!」

ガタキリバ「こんなのってないよ…」

サゴーゾ「…酷すぎるよ!」

タトバ「やめて…やめてええええ！」  
プトティラ「シャウタアアアア」

〈妄想終了〉

ソウジ「——リンクぐらいしか生き残れないぞ!？」

リンク「えええ…そこまで俺を万能にしないでください!」

士「つか、エイジスは?」

ソウジ「あ」

エイジス「おい」

シヨウイチ「——精神的に死ぬぐらいなら、暴走プトティラ止められなかったぞ!？」

全「「それもそうか」「」

エイジス「……うおおおーいつ!？」

ピット「いつそ、エイジスさんを暗殺してみるとか」

エイジス「Σちよ」

映司「いや、それ、他の話でお願い! やっても困るけど!」

栄次郎「士君、皆、お客様が来てるよ」

全「「客?」「」

リンク「誰だろう…」

カザリ「——やあ」

ギル「…つのヤロオオオ！どのツラ下げて俺の前に現れたあああ！？」↑飛び蹴り

カザリ「ぎゃーっ！？って言うかあんた誰！？」

アंक「映司、変身だ！そしてカザリのコア全部砕け！！」

ヒナ「それ私にやらせて。そもそもあいつのせいで云々かんぬん」

カザリ「ちよつ、ちよ、…待ってえええ！このネタは大戦本編でやって、…：僕はライ街のカザリだよおおおお！！？」

エイジス「で、あのときの猫がどうした？」↑上三人をピコハンで気絶させた

全（（こいつ戦闘経験少ないのがおかしい！））

カザリ「うん、でもその前に、…ありがとうオーズのそっくり人間心から感謝してます」↑土下座

カザリ「ネタに困っているなら、ちよつと、僕の意見を聞いてもらいたいんですが」

士「どうした？」

カザリ「——本家オーズと、リイマジオーズ。二人のカザリに僕と同レベルの仕打ちをしたいんですけど、いいでしょうか」

アंक「——乗った！」

ギル「任せろ！」

ヒナ「徹底的にやろうね♪」

映司「すごつ、一致団結した！？」

カズマ「凄いね、カザリ効果！」

シンジ「別の意味でな…」

士「具体的に、何をしてもらいたいんだ？」

カザリ「いや、……メズールに蹴られるとか…ウヴァに振り回され  
るとか、ウナギがベルトに挟まるとか、ヘビクライシスに巻き込ま  
れるとか、特性ドリンク飲まされるとか…とにかく色々」

映司「って言うか、ライ街のカザリって何でそんなに不幸なんだっ  
け？」

カザリ「…本編の僕の業」

シャウタ「つまり、一種の憂さ晴らし…？」

タジャドル「それが、本編の反動」

カザリ「どっちでも合ってる」

ガタキリバ「それなら、何でリイマジオースのカザリまで？」

カザリ「…僕のクセして、本編の僕の業を背負ってないんだもん…

！！」↑床叩きながら

映司「大変なんだね…」

アंक「おい映司、仕掛けるぞ！こっちだって色々憂さ晴らしした  
いんだ！！」

ギル「徹底的に殺ってやるぜ」

ヒナ「フフフフ」

エイジス「……ところで、クワガタの回から思っていたんだが、ひ  
な壇…お前、自分の世界のウヴァってどう思っているんだ？」

ヒナ「…さあ？何か最近変だとは思っけど」

（廊下）

Rウヴァ「orz」

Rメズール「頑張りなさい」

〃  
〃  
〃

士「いいか？今回のミッションは、【ライ街のカザリを受けている不憫な出来事をあいつらの身にも与える】…そのために！」

シンジ「彼らをライダータウンのある世界に引き込み、更に俺達自身も様々なハプニングを用意したいと思います！！」

全「…どつちが呼んだああ！？」「」

映司「巻き込まれないように、ライダータウンのカザリはリンク君としてね。エイジスの次に死ぬ可能性がない上に、結構強運だし、色んなライダーになれるから」

カザリ「そうするよ」

リンク「じゃ、見てましようか」

仕掛け人である士達は、シスから借りたステルス迷彩で姿を消しております

〇カザリ「…なんだか違う世界に来たかのように、変な感じがする

なあ……」

アंक（まずは、ベターにバナナの皮を……）

ショウイチ（道路に投げるのか？）

アंक（頭に落とす）

ショウイチ（何でだあああ！？）

タジャドル（……よし、ここから……そいやああああ！）↑全力投球

全（（（（凄いい勢いで投げたー！？））））

○カザリ「わぷっ！？」

シャウタ（あ。当たった）

○カザリ「ちよっ、何でいきなりバナナの皮が頭に……」

メズール「あらカザリ」

○カザリ「あ、メズール、……あれ、何で足がセルメン状態じゃn」

メズール「……またサバ読みと言ったでしょ？」

○カザリ「……は……？」

士（おい、あれ、誰が仕掛けた？）

タクミ（僕です。……思えばライ街カザリは、最近震災の影響で自  
粛していると噂のあかつき号の転覆ネタの要因ですからね）

ソウジ（成程。そういえば、『サバ読んでる』と言ったびに……蹴ら  
れてあかつき号まで飛ばされていたな）

メズール「……そおい！」

○カザリ「ぎゃあああああー！！？」

アスム（凄いい勢いで吹っ飛んでいきましたよ！？）

夏海（って、あの方向、スマートブレイン本社じゃ……）

ワタル（まずいですよ！もしカザリが原因で倒壊ってことになっ  
たら、大変なことになるのはこの世界のグリード達です！）

プトティラ「…シャウタのウナギ奪ったから嫌い！！！」↑ストレ  
インドウム

〇カザリ「だあああああ！！？」↑直撃

ガタキリバ（プトティラが打ち落とされたああ！？）

タトバ（ナアアイス！スマブレビル手前で落ちた！！）

ラトラーター（——ってかあいつ、ステルス迷彩着てない…）

サゴーズ（ステルス迷彩一旦脱いだ）「プトティラ！これ着て、  
ばれるよ！？」

プトティラ「やだあ、暑いもん…」

シャウタ（サゴーズに同じく）「ああもう、リンクやライ街の力  
ザリと遊んでなさい！……あ、ライ街のカザリは攻撃しないこと！  
！」

プトティラ「う！」

Rカザリ「…ここは一体？」

士（あいつはどうする？）

海東（任せたまえ。実はさっき…）

ウヴァ「……うおおおおおー！！！」

Rカザリ「ウヴァ？奇遇だね、早速だけど君のコアm…」

ウヴァ「…俺のイチゴ達を返せえええ！！！」↑ウヴァキック

Rカザリ「ごふっ！？」

海東（【君の大事なお宝は頂いたby・カザリ】って書き置きをして  
きたんだ）

シンジ（アホかあああ！？そんなことやったら、ライ街のカザリま  
で酷い目に遭うわあああああ！！）↑サゴーズでもないのに終末パ  
ンチ

海東（ブフッ！？）

Rカザリ「ちょーっ！何このウヴァ、何このウヴァ！！？」

ウヴァ「ぬおおおおおおお！」↑ヘブンズトルネード中

カザリ「見ていて爽快」

リンク「自分と同じ顔だよ？」

カザリ「いや、だって、…あいつら僕の苦勞も知らないで…知らないでッ…！」

リンク「…あー、うん、ごめん。…またたび買ってあげる」

ウヴァ「…どおりやああああ！！」↑上空ぶん投げ

Rカザリ「ぎゃあああああー！？」

アスム「まずいです！あの方向は…確か、ZECTですよ！？」

ユウスケ（ZECTに直撃する！）

シンジ（つていうか、今のうちにイチゴ返しに行かないと！）

カズマ（俺に任せて！…最悪、こっちの海東に擦り付けるから）

ユウスケ（是非とも協力したい）

——ドガアアアン！！

Rカザリ「うう…一体、何なの…」

弟切「↑カザリに当たった

キラメキ「おーとぎりー、遊びに………ぎゃあああああああ  
あー！！！」

Rカザリ「！？」

キラメキ「弟切イイイ！弟切イイイイツ！！？」↑カザリを腹パ  
ンでぶっ飛ばしつつ

Rカザリ「またあああ！！？」

キラメキ「うああああ…弟切が、弟切が死んだああ…！」

弟切「……（まずい、本当はカブトに本気で殺られるときより軽いダメージだったから平気なんだけど、…起きれない…！！）」

Rトソウジ「どうした？」

キラメキ「ソウジイイイイ！弟切が…弟切がああああ…！」

Rトソウジ「あー…（あ、こいつ生きてるな）……そうか。じゃあ、今すぐ火葬してやらないとな」

弟切「——ちよつと待てえええ！分かっててやってるなお前はああああ…！！？」

キラメキ「弟切が生き返ったー！」

ワタル（うわっ、今度は警察署に！）

カズマ（隣接した場所にあるから止められようがないなあ…）

—ズガアアン！

Rカザリ「うう…今日は一体何の日なの…？」

Rトユウスケ「……おい…」↑背後に阿修羅クウガ

Rカザリ「え、何、…そういえばなんかカレー臭い…って！」↑床に転がるカレー鍋発見

Rトユウスケ「俺が2日前から丹精込めて作ったカレーを…よくもおおおお…！」↑暴発RUパンチ

Rカザリ「ぎゃあああああー！！？」

映司（ああ…リイマジカザリが、今度はヴィガルコーポレーション

に……)

士(もうあいつは放っておくか)

シヨウイチ(そうだな…本家カザリの様子を見に行こう)

タクミ(あれ、ユウスケさんとカズマさんとエイジスは?)

アंक(最初の二人はこっちのウヴァを静めに行ったぞ)

ヒナ(エイジスさんは…確か、観光したいって言ってどっか行ったけど?)

○カザリ「ぐ、う…メスールには蹴られるわ、変な光線で打ち落とされるわ……ん?」

エイジス「遊園地もあるのか…そういえば、一度も行ったことないんだよなあ」

○カザリ「あれはオーズ…ちょうどいい、僕のコアメダルを取り返す絶好の機会だ。アंकもいないみたいだし……」

—ポンポン

○カザリ「何?邪魔しないでよ」

ギル「Kill You」

○カザリ「へ」

——ズガバキベシヤアアア!!

エイジス「うおっ!?王環、俺の後ろで何してる!?!」

ギル「カザリムツコロしてた」

エイジス「あ、いたのか…っていうか企画自体忘れてた」

○カザリ「な、何なのあのグリード…ドクターと同じ感じはするけど…まるで完全体のように強い!………ってか1パンで大量のセルメダルと一緒に、コアメダル4個吹っ飛んだんだけど!?!」

ギル「レヴァー、こいつ、お前を火野と勘違いして貞操奪おうとし

てたぞ（若干噓）  
エイジス「…は？」

○カザリ「くつ、あんなグリードがいるなんて…今日のところは」  
エイジス「映司の…何を奪おうとしてたって？」

『シャチ！ウナギ！タコ！…シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』

E S シャウタ「——ぶっ殺す」↑シス自作メダガブリュー持ちながら

○カザリ「何そのガブリュー柄が長い！？」  
ギル「レヴァだし」

ここから先は、エイジスの発言がごとごとく放送コードに引っかったので、カザリとギルの会話のみをお楽しみください  
なお、Shout outを脳内でお掛けください

○カザリ「ちょおつ、待、…流石に…アーツ！」  
ギル「もつとやれ」

○カザリ「いやああああ！やめて、そんなプレイはああああ！！？」  
ギル「おおう」

○カザリ「やめて…流石に、×××××はあああああ！？」  
ギル「うわ」

○カザリ「ぎゃあああああー！」  
ギル「もう、なにも怖くない」

『スキャニングチャージ!』

○カザリ「ちよつと待って、（以降ネタバレに近いので割愛）…  
…ああああああああ!!!!」

ギル「ヤラレチャツタ」

○カザリ「↑コア1枚で生き長らえている

映司「うわっ、何か色々終わってる!？」

士「何をしたんだ？」

エイジス「あー、……ちよつとケツにメダガブリュー振り落としたり、触手責めしたり、電撃流したり、腹に連続キックやったり、スキャニングチャージした」

ギル「いやあ、見ていて面白かった」

シャウタ（……なんだろう、あの惨劇を巻き起こしながらの【Sh out out】を見ただけで泣きたくなってきた）

ガタキリバ（殺り方が…残酷だったもんな…）

ラトラーター（歌に合っていないしね）

カザリ「…どうもありがとうございました」

士「いやいや、こつちも、ネタが見つかって楽しかったぜ」

ヒナ「ところで、ZECTとか警察署へのフォローってしなくないの？」

シンジ「ZECTにはショウイチさん、警察署にはソウジさんが言  
って、何とか説明してきてるから大丈夫」

ギル「ところで、ヒナは殺らなくていいのか？」

ヒナ「あー、これが私の世界のカザリだったらコアメダル叩き割ったのになあ」

ギル「今頃、海流しの刑をされている頃だからなあ…難しいか」

ヒナ「じゃとりあえず、シャチ・クジャク・コンドルで締め上げる」

映司「ははは…俺のところのカザリ、……シャチ頭にトラウマ作りそう」

タクミ「ところで、何か忘れてっているような…」

アスム「そうですか？」

ワタル「気のせいですよ」

——その頃…

ウヴァ「ぬおおおお！貴様だな、カザリに罪を被せようとしたのはああああ！！」↑回転ウヴァキック

海東「ぎゃあああああ！？」

ユウカズ「「イエーイ」」↑ハイタッチ

## Fileライオン：受難体質・カザリ（後書き）

### 次回予告

サゴーズ「嫌ああああ！やめて、…俺をどうする気なのおおお  
！！？」

シス「ふーふふーのふー」

シャウタ「サゴーズオオオオ！！！」

ワタル「うわああああ！うわあああああ！！！」

シス「ふふふふ…」

アスム「ワタルウウウ！！！」

キバット『もういい！もういいだろおおっ！？』

シス「人間から怪物に…実験だ解剖だ！今すぐその身ぐるみ全部剥  
げえええええ！！！」

エイジ「ぎゃあああああ！？…レヴァ…レヴァアアアアア！！！」

エイジス「我慢しろ」

映司「いや助けようよ！慣れてるのは分かったけど！！！」

Fileトラ：マッドサイエンティスト・シス

士「ってか、お前、よくあの悪魔相手に生き残れたな!？」  
エイジス「詳しくは本編で」  
リンク「本編のハードル上げるのは流石にやめようね」

## Fileトラ：マッドサイエンティスト・シス

ガタキリバ「さて、問題！次に挙げられる人達の共通点は、なんでしょう？」

- ・サゴーズ
- ・海東大樹
- ・ワタル
- ・尾上タクミ
- ・剣立カズマ
- ・王環エイジ

ガタキリバ「さあ…レッツ・シャウト！」

リンク「うーん、なんだっけ」

ピット「共通点が一切ないように見えるんですけどねー？」

士「んー？頭の残念な奴らってか??」

ヒナ「いや、お兄ちゃんあれでも研究者だから」

エイジス「特徴のあるライダーに変身できる？」

映司「それはちよつとなあ」

アंक「人外か？」

シヨウイチ「それでシンジがないのはおかしいだろ」

ラトラーター「テストの点数が悪い人達！」

ユウスケ「…歳の若い人達…って思ったけど、カズマ25か」

ヒナ「お兄ちゃんより上!？」

アスム「えっ、正直、その事実が一番驚きですよ!？」

夏海「分かりました、身長!」

ソウジ「それは…ワタル君だけ差が大きいな」

シヨウイチ「そうか分かったぞ、睡眠時間の少ない奴らだ!」

エイジ「…いや、お前ら、分かっててわざと引き伸ばしてないか?」  
全「…なにがー?」「」

ワタル「しらばっくれないでくださいよ!」

カズマ「そうだそうだ!」

タクミ「僕達は覚えているんですよ…」

サゴーズ「あの、屈辱の罰ゲーム内容を…」

海東「そして、今日打たれるであろう人生のピリオドを!」

シス「ふっふっふ」

カズマ「…シスの実験台にさせられるんだろおお!?!？」

タクミ「もう嫌だ!嫌すぎる!」

ワタル「絶望ってこのことを言うんですね!？」

エイジ「orz」

海東「虐めってレベルじゃないよ!？」

サゴーズ「そう、それは番外編の【出張!感想!!亜種ゲーム】での…」

シャウタ「ちなみに、亜種ゲームの“足を変えて”の解説だが…あれ、実際は同じ足が続けて言ってもいいんだぞ。シャトラバ↓シャキリバ↓ガタキリタ↓ガタウタ↓シャウドル…みたいに」  
タジャドル「頭脳プレー戦をするなら、シャウタ↓シャウター↓シャトラタ↓シャトラター↓ラトラタ↓ラウターって感じにやるのも一種の手だぞ。大抵は混ざって面倒くさくなる」  
プトティラ「ラトラターや、別の亜種挟むのもお勧めだよ!」  
海東「無視しないでくれるかな!？」

シス「ごたくはどうでもいい。…オラとつと始めるぞ、サイゴリラゾウこつち来い」↑背後にヤマタノゴルトフェニックス

ソウジ「折角、時間を引き延ばしてコーナー終了までの時間を稼ごうとしていたんだが…」

ショウイチ「もう諦める」

サゴーズ「嫌だああああ!？」

シス「あ、ちなみに、時間余ったら他の奴らも実験だー解剖だーふふふー」

全「「「やあああめろ!」「」「」

「」

サゴーズ「…えーっと」↑十字架に磔にされている

シス「ふふふ。痛みは一瞬だ」↑ドリル装備

——ギューイイイイイン…

サゴーズ「嫌ああああ！やめて、…俺をどうする気なのおおお  
！！？」

シス「ふーふふーのふー」

シャウタ「サゴーズオオオオー！！」

シス「まずはゴリバゴーンの分解からだな、ふっへっへ」

サゴーズ「ごめんなさい、分解できません！出来てもしないでくだ  
さい！？」

シス「ぎゅいいいいいーん」

サゴーズ「きゃあああああああああああああああああああ  
あああああ」

シャウタ「サゴオオオゾオオオオー！！」

シス「うつせ。こっちから捌くか」↑チェーンソー装備

シャウタ「ぎゃあああああー！！？」

シス「シャウタは実験台（どつかの火野とレヴァの事です）使  
ってもう分かってるしー、レイラに頼んでたこ焼きとうな重と……  
サンマの塩焼きにしておろーと」

シャウタ「…サンマじゃねえええシャチだああああーッ！」

リンク「…シャウタじゃなくて、サウタになっちゃうね」

ピット「何ですか、その、サイ・ウナギ・タコの亜種。せめてマウ  
タにしてくださいよ」

タジャドル「ちょッ、待て、シャウタ捌くな！捌こうとするな！！」  
プトティラ「タジャドルなら料理していいよ」

タジャドル「プトティラお前覚えてる！…オーズは他にもたくさん  
いるからいいだろ、次！次のディエンドを解剖してくれ！！」

海東「ちょおっ！？」

シス「んー。——焼き鳥と七面鳥と唐揚げ、竜田揚げいろいろあ  
るなーあ、タコ足は揚げてもいいか」

タジャドル「…やああああめええええろおおお！！？」

シャウタ「うわああああああ！もう嫌こんな扱い！！！！魚（  
？）と鳥ってだけでえええええ！！！！」

映司「そういえば…シャウタとタジャドルって何かを連想するコン  
ボだなんて思ったら、——あー凄い納得した！！」

後藤「通りで、炭火で炙りたいコンボだと思ったら…」

伊達「おでんの中に入れてみたいコンボだと思ったら！」

アंक「…そういえば800年前から、メズールを火で炙ったら普  
通に食べそうな気がしていたが……成程な…」

ユウスケ「……皆、せめて、リンクがフライングを仕出かしたコン  
ボって言うてやろっよ…」

ディケブラ最終決戦ではタジャドル、コア大戦序盤ではシャウタ  
のフライング登場をしました

シス「まあいいや、もしオーズ側が乗り気じゃなくても、メダル奪  
って『壊すぞ』ってグリード脅せば」

映後伊アン「……」↑シャウタとタジャドルに殴られた  
海東「さ、さてと、僕はこれで……」

ユウスケ「——逃げたらどうなるか分かってるな……？」↑純一ス  
マイル

海東「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！」  
シス「ふーふふー」

——ぎゅいいいいいいーん  
——アーツ！イヤーツ！！

——ぐるりりりりりー  
——モーレツー！

——おんどうるるらぎったんでいすかー  
——ニーサーン！！

海東「……はあっ、はあっ……」↑恍惚の表情

タジャサゴシャウ（（良かった、ああならなくて！）（  
リンク「凄かったね」

ピット「そうでしたっけ？」

シス「さーてと、次はキバだー」

ワタル「あ、あんな18禁に近いことをやるんですか！？」

シス「大丈夫。子供だからちゃんと考慮します」

ショウイチ「……怪しい」

ソウジ「ああ……」

シス「ギロチンにかけるだけだから」

全「「「そっちの方が嫌だああああ!?!?!」」」

ラトラーター「もはや拷問じゃね?!?!」

ガタキリバ「しっ! お前、ああなつてもいいのか」

ブラカワニ「……ふ、ふふ、ママンその天使の格好似合ってるよー

……」↑ 既に実験台にされた

ワタル「うわあああああ! うわあああああ!」

シス「ふふふふ……」

アスム「ワタルウウウ!!」

キバット「もういい! もういいだろおおっ!?!」

シス「やだ」

キバット「おおおい!?!?!?!?! そりゃ、俺だつて、たまにはワタルも拷問受ける俺の身にもなつてくれよーとか思ったりしたけどさ……これは流石にやばいつてえええ!!?!?!」

シス「何言つてんの? コレだけじゃなくて、お前もだよ」

キバット「へ?」

シス「だつて俺がしたいのは……仮面ライダーの究明だもーん」

士「つまり、キバの変身に必要なキバットも……」

キバット「Noooooooooo!!」

——ぎちよーん、がちよーん、ばこーん

——うわあああああああ

——やーめーろー

——ぐちよぐちよ、グギユグバアッ

——嫌あああああ

——ディアルガのバーロー……

アスム「ワタル……ワタルウウウ！」

ワタル「……新境地が、見えた……ガクツ」

キバット「快……感、グフツ」

アスム「こんな最後の言葉嫌だあああ！？」

シス「ふあいなるあたつくらいどーう、ふあふあふあーいず！」  
タクミ「うわあああああ！来たあああああ！！！」

リンク「シス、この人セイノさんだよ！」

シス「……えー？セイノ、国際警察に残って仕事って聞いたんだけどー？」

リンク「シスにそう説明したそのセイノさんこそ、本物の尾上タクミだよ？」

シス「じゃあ、奴から漂うファイズギア臭はー？」

タクミ「そんな臭いがあるんですか！？」

リンク「タクミがセイノさんに持たせたみたいなんだ」

シス「ふーん、あつそ。じゃあどうでもいいや」

全（（こいつタクミだけ全力で守りやがった！！）（）

シス「……どうでもいいけど、ファイズの埋め合わせはお前がするんだよねー？」

リンク「うん、——アंकがね！」↑凄まじくいい笑顔  
アंक「Σおおおーいッ！！！！？」

シス「そっぴやお前、ファイズになれるんだっけー？ふふふふうふ」

アंक「冗談じゃねえ…映司！何とかしr……映司イイイイ！！？」

エイジス「0.2秒の速さで逃げて行つたぞ」

アंक「…フライングにあばば…どいつもこいつも覚えてろおおお！！！」

— たっじゃどーる—

— ぎゃあああああああああああ

— がったきーりば—

— ぬあああああああ

— らーとーらーた、らとらた—

— やああああめろおおおお

— さっごーぞお—

— 嫌あああああああああああああ

— しゃーうた、ふふーんふふーふーふー♪

— 鼻歌ああああ！！？

— ふーふふーん、ぷつとーていーらー

— ああああああああ Medal壊された怒り思い出すやめろおおお

↑ 快樂に満ちた顔

リンク「恐ろしいなあ……」

ピット「あんたもですけどね」

シス「次は…ぶ・ぶ・ぶ・ぶねえーい♪」

カズマ「うえやああああああああああ」

シンジ「カズマはよせえええええ！」

「あいつなら何やっても死なないっしょ」  
↑アイアンメイデン  
準備しながら

カズマ「いやあああああああああああ」

シンジ「…やめんかあああつ!？」

終末サゴーズVS狂気シャウタの対決は割愛しました

S  
サ  
ゴ  
ー  
ゾ「…カズマ、ごめん…俺が無力だった…!!」

SS  
シャウタ「ふー  
ふーのふー」

カズマ「——お母さああああーん！！」

「……あいつ、サゴーズじゃなくてシャウタのほうが強いんじゃない？」

夏海「って言うか、シャウタになれる人間の大半が異常じゃないですか？」

ユウスケ「あばば（本家）、怪力（リイマジ）、銃火器（エイジス）、絶叫（芦河）、狂気（シス）……ああ異常だ」

土「つてか、お前、よくあの悪魔相手に生き残れたな!？」

エイジス「詳しくは本編で」

リンク「本編のハードル上げるのは流石にやめようね」

ピット「あと、解説されないパターンも考えておきましょう」

<あえて解説>

エイジスは単純に強運です（あと実験台合意）

——ぎゅいいいいーん

——いやああああああやめてええええええええ

——ぐちよぐちよぐちよぐちよ

——ああああああああああー

——ぼわーお、ぐちよぐちよぐちよ

——ヤダあああああああああああああああ

カズマ「……うえい、うえい……うえー」↑死んだ魚の顔

シンジ「ごめん……お前の笑顔という名の朝日を救えなくて……！」

サゴーズ「なんかごめんなさい、サゴーズで」

シャウタ「なんかすいません、シャウタで」

プトティラ「ごめんなしゃいタジャドル役立たずで」

タジャドル「おーいつ!？」

シス「最後の実験台は……お前かー」

エイジ「ひいいいいつ!？」

シス「お前のことは聞いているぜ……うえっへっへっへっへ」

エイジ「何こいつ気持ち悪い!」

シス「人間から怪物に…実験だ解剖だ！今すぐその身ぐるみ全部剥  
げえええええ！！」

エイジ「ぎゃあああああ！？…レヴァ…レヴァアアアアア！！」

エイジス「我慢しろ」

映司「いや助けようよ！慣れてるのは分かったけど…！」

エイジス「助けてもいいんだが、ああなる覚悟で助けられるのか？」

海東「はあ、はあ…」↑恍惚の顔

ワタル「う、うふふ…」↑新境地を見た表情

アंक「…」↑快樂に溺れた女の顔

カズマ「……うえーい」↑死んだ魚の顔

エイジス「——ぶっちゃけ、王環が無理だったら、次の犠牲者はお  
前だと思っただよな……半分グリードみたいなんだし」

映司「楽して助かる命がないのは、何処も一緒だな……でも、タダ  
で助かる命もない」

タトバ「映司さん」

映司「——今すぐ士をグリードにしたら大丈夫かな」↑青と紫以  
外を取り出しながら

エイジス「いやー、グリードにしているのはナルタイツって奴だろ。  
支障がない」

ピット「それより、海東大樹って人をグリードにするのは？」

ヒナ「個人的には、カザリ（no t ライ街）を連れてくる方が…」

ショウイチ（こんな話をしている間に、王環が大変なことになって  
いるんだが…ツツコミを入れたほうがいいんだろうか）

—ウンメイノ—

——やめてくれええええええええええ

——ばーっ　　らばらばらきりっ　　ば、　　らばらきり　　ば、

——バラじゃないガタあああああ

——バラバラ〜バラバーラ♪

——うあああああ

——バツラバラーノヒツサーツ♪

——もう嫌ああああああああああああ！！！！

エイジ「……そうだ、俺は怪物なんだ……王環エイジじゃない……ギルなんだ……orz」↑無表情

ソウジ「被害者が増えていくな……」

ユウスケ「ああ……」

シヨウイチ「もう救いようがない、とはこのことか」

アスム「でも…まだ時間、余ってますよね」

シス「ふーふーのふー」

ユウスケ「うわあああああ！来たあああああああ」  
夏海「こっ、ここは、シヨウイチさんを差し出して…」

シヨウイチ「やめんかああああ！？」

ソウジ「俺が…」

アスム「駄目えええ！？」

タクミ「こうなったら、ここは土さんを…」

土「嫌だ！こ、ここは…そうだ！映司を！！」

映司「えええ！？そ、それだったら…シスの知らないバースとか  
後藤「断る！」

伊達「すまん、流石に無理！」

シス「……とりあえず、今すぐ実験したいのは焼き鳥ー」

タトガラトサゴ「「タジャドル……」」

タジャドル「ぎゃあああああああ！やめてえええええ！！？」  
プトテイラ「さよならタジャドル！」

シス「食べたいのはたこ焼きー」

シャウタ「ぎゃあああああああ！！！」

シス「あ、でも、ウナギの蒲焼もいいし…アジの塩焼きもなあ」

シャウタ「…おい…」

シス「あれ？ニジマスだっけ…ナマコ？？」

アスム「……アウタコンボ…」

タクミ「…マスウタ…？」

土「…ナマウタ…ぶっ」

シス「なんでもいいや。マグロで」

シャウタ「——シャチじゃあああああああああああああ  
ああああああ！！！」

暫くお待ちください

シス「↑へんじがない　ただの　コムセのようだ

シャウタ「もう嫌だ…シャコやシャケならともかく、……サンマとかマグロとか…ナマコって何なんだよおおおおおお」

ブテイラ「あうあう」↑シャウタの頭なでなで

タジャドル「俺達はちゃんとシャチって思ってるから。…シャチだって分かってるから…」

ラトラーター「馬鹿の俺でも分かるよ！」

タトガタサゴ「↑シャウタファイト…！」「」

全（（（ってか五男の本気怖い…）））

## Fileトラ：マッドサイエンティスト・シス（後書き）

### 次回予告

ラトラーター「いや、そりゃ、オーズ本編じゃトライドベンダー撫でたけどさ…映司が」

士「映司に出来て、お前に出来ないはずはない！」

サンダース「フシッ！フシッ！」

ラトラーター「うわああ！？何か電撃出してきたああ！？」

プトティラ「ぷー！」

ラトラーター「そしてお前は何気に尻尾ビンタしないで！？」

士「何か、ポケモンだけだとつまらん」

ユウスケ「ポケモン以外に、何の適任があるんだよ」

海東「まさかとは思うけど、タジャドルに猫耳つけるとかじゃないよね？」

タジャドル「誰がやるか！？」

Fileチーター：ラトラーターの一日ブリーダー

## Fileチーター：ラトラーターの二日ブリーダー

士「ブリーダー。それは、動物を愛で…動物を育てる仕事」  
ラトラーター「はあ…」

士「ラトラーターには今回、ブリーダーの仕事をしてもらおう」  
ラトラーター「は？」

士「本日は、こちらの方々とラトラーターが触れ合います！」

- ・オオタチ
- ・サンダース
- ・プトティラ
- ・ピカチュウ
- ・ルカリオ
- ・プリン
- ・アंक（腕）
- ・キバット
- ・ウインディ
- ・ドンカラス
- ・ハッサム
- ・キノガッサ
- ・シャワーズ
- ・エルフーン
- ・鳴滝

・ナットレイ  
・ウォーグル  
・チラチーノ

ラトラーター「待つて！何か多い、多いよ！？」

タジャドル「そこじゃないだろ！…変なの混じってたぞ、変なののおおー！！」

士「ラトラーター。ブリーダーはさまざまな種類の動物を育ててこそだ」

ラトラーター「知るか！？あと、何でその意見に至った！？」

士「んー。正直言うと、メイドやカメラマンに続く職業が思いつかないし…かといってガタキリバの二の舞は面倒だし。それにお前、トライドベンダー撫でてたろ？『よしよし』って」

ラトラーター「いや、そりゃ、オース本編じゃトライドベンダー撫でたけどさ…映司が」

士「映司に出来て、お前に出来ないはずはない！」

映司「毎回思うけど、土って本当に無茶苦茶だよなあ…」

ユウスケ「ですよー」

夏海「ところで、何で誰も、鳴滝さんがいることに気付かないんでしょう？」

ワタル「ドンカラスの下敷きにされているからでは？」

シンジ「じゃあ、アंकは？」

カズマ「サンダースに（憂さ晴らし的な意味で）打ち落とされてたよ」

タクミ「あー…サンダース、出番ないんだっけ」

シヨウイチ「正確に言うと、【未定】なんだよな」

ソウジ「ディケブラシリーズの要と言っても、過言じゃないほどの活躍だったからなあ」

アスム「ですよー」

エイジ「…どれだけ強いんだ？」

ヒナ「そこ、気になったかも」

映司「あえて説明すると…」

- ・ドーパント相手に臆さず立ち向かった
- ・攻撃の起点
- ・シンジとカズマの保護者
- ・雷神（ここテストに出ます）
- ・ユウスケのライアル覚醒の第一人者（「ユウスケは俺が育てた」  
by・サンダース）
- ・シャドウを一匹で一掃
- ・操られたディケイド達を全員（約40人強）正気に戻した
- ・トリックルームを見破るきっかけになった
- ・馬に合わせていたとはいえ、バイクに追いつく速度で走る
- ・気に入らなければすぐ放電
- ・コア大戦のボス、タナトスを相手に圧勝
- ・ラトラーター適合、クロックアップに近い超高速戦
- ・Wiiriリモコン（ヌンチャクつき）でスマブラしたら圧勝

映司「……かな」

エイジ「うわぁ…それ本当にポケモンか？ポケモンの皮を被った何かじゃないのか？」

ヒナ「人間の皮を被った化け物もいるけどね」

エイジ「だとき、王環」

エイジ「ヒナアアアッ！！？」

ヒナ「違つ、私が言ったのはエイジスさん……！」

エイジス「……俺の何処が人間じゃないと！？」

ヒナ「真顔で言うの！？」

エイジ「……そうさ、俺はギルさ……加齢臭漂うギルさ……！」

映司「王環さん落ち着いて……」

シヨウイチ「加齢臭同士、仲良くするか？」

ソウジ「今からなら、おでんの二オイにもなれるぞ？」

ピット「まあぶっちゃけ、」

- ・警告用とはいえ毒を飲んでも魔される程度
- ・暗殺フラグを華麗にへし折るどころか、普通に戦っていた
- ・オーズとしての初戦闘、凍らされても理不尽な復活で勝利
- ・タナトス相手に本気で殺せる可能性があった
- ・暴走（というか操られた）プトティラに対して数々の歴戦の勇士が傷付く中、生身でノーダメージ生還
- ・→あと、ストレインドウム発射直前にメタガブリューずらして軌道反らした

- ・OFF波動完全回避
- ・空から落ちてもシャウタで生還
- ・ハイパーマキシマムサイクロンを撃った
- ・結果的にノーダメージでコア大戦を終了
- ・ギルにメダガブリューでチョップ
- ・エイジと腕相撲しても肩を痛めた程度
- ・もはや銃火器固定
- ・ウヴァが店番をしているミルクディッパーに行っても普通
- ・ピーチ、ガタキリバ、ラトラーターの料理を食べても生還

ピット「これだけ揃っていて、人間と言い切れるほうがおかしいですって」

エイジス「…黙つとけ新作に【豪腕】だかなんだか知らんがそんな武器がある鉄拳天使イイ！」

ピット「それを言うなああああ！！！」

士「——ええい、今更サンダーズの異常性とエイジスの死ななさ  
とピットの鉄拳天使ぶりを言っても埒が明かん！いいからさつさと  
コーナー開始だー！！」

ラトラーター「えええええー！？」

~~~~~

ラトラーター「えーと、メモによると…こいつらのおやつってポフ
インでいいのかな？」

プトティラ「ぽふいん？」

ラトラーター「えーつと…まず、木の実を入れて…最初はゆつくり
こぼさず、焦がさないように掻き混ぜる……？まあいいや」↑適当
に木の実ボチャン

プトティラ「う！」↑隣でボチャン

ラトラーター「次に…ある程度固まってきたら、ぐるぐるーと勢よく掻き混ぜます？」↑トラクローで掻き混ぜ中
プトティラ「ぷう！」↑メダガブリューで掻き混ぜ中
ラトラーター「これで完成…なんだ、案外簡単じゃん」
プトティラ「できた！」

ラトラーター「おーい、おやつだぞー」
サンダース「…ダ？」
オオタチ「たちえ？」
ナットレイ「…ナト？」

まがまがしい いろの ポフィンが あらわれた！▼

サンダースの こうげき！

ポフィンは けしずみに なってしまった…▼

ラトラーター「…あーっ！？なんで！！？」

サンダース「フシーツ！フシーツ！！」

ラトラーター「うわああ！？何か電撃出してきたああ！？」

プトティラ「ぷー！」↑どさくさ

ラトラーター「そしてお前は何気に尻尾ビンタしないで！？」

ルカリオ「すまないが、正直言わせてもらっていいか。……味がばらばらな上に、同じ木の実をいくつか混ぜていただろう。それじゃ

あ美味しいポフィン作れない』

ラトラーター「う…だ、だって、料理とか得意じゃないし…」

ピカチュウ「正直、サンダースじゃなくても消し炭にしたよ!？」

ラトラーター「う…もう一回」

オオタチ「たちえ」

ラトラーター「ん？なんだこれ、メモ??」

プテティラ「めも?」↑自分で作ったポフィンもぐもぐ

ラトラーター「あ、成程、サンダースは甘い味…シャワーズやナツ

トレイは酸っぱい味、ってぐらいに好みが分かれてるんだな」

プテティラ「甘いのに、酸っぱいの、全部すきー!」

(10分後)

ラトラーター「よっしゃ!これは自信作だ!」

オオタチ「…たちえ?」

エルフーン「えりゆう?」

ハッサム「……」

おぞましい いろいろ ポフィンが あらわれた!▼

ハッサムの こうげき!

ポフィンは ラトラーターのくちに ジャストミートした!▼

ラトラーターは たおれた…▼

ハッサム「…ハッサムッ！」↑全力投球
ラトラーター「バリバリダーッ!？」

オオタチ「たーちえー」↑エイジスの服引つ張りつつ

エイジス「…なんで俺が召喚されなきゃいけないんだよ」

プトティラ「シャウター、ぽふいん作ってー」↑シャウタにおねだりしつつ

シャウタ「……おやつぐらいは作ってやるか…そもそも、ラトラーターにおやつ作れって言う方が無理だった」

ソウジ「おやつ作りと聞いて♪」↑勝手に来た

ラトラーター「あー…天国見えた」

シャウタ「お前でも天国に行けるんだな…」

ラトラーター「何その言い分!？……ってか、あいつら普通におやつ食べてるし!？」

シャワーズ「ワーズ(訳:だってこっちの方が美味しいんだもん)」
ドンカラス「ドンカカカ(訳:流石に毒物食べて死にたくないしな)」

ラトラーター「orz」

プトティラ「ぷきゅ、ぷつきゅ」

シャウタ「…それポケモン用だけど、美味しいの?」

プトティラ「美味しいよ!」

シャウタ「……普通に人間が食べても問題ないの?」

エイジス「問題ないんじゃないか?俺も普通に食えたし(ただし甘酸っぱいものか甘いものに限る)……………」

シャウタ「何考えてる?」

エイジス「…いや。ポケモンで例えるなら、王環は【意地っ張り】だな…」

シャウタ「攻撃特化で特殊攻撃弱体…しかも辛い味が好きのアレか」

エイジ「……なんで、分かった…？俺が（グリードになる前）好きだった味の好み…」

ヒナ「…そして特性は【天邪鬼】ね、理解した」

ちなみに、個人的な見解ではこんな結果

気まぐれ↓映司

生意気↓土

真面目↓アスム、夏海

臆病↓シヨウイチ

おっとり↓ソウジ

腕白↓カズマ

意地っ張り↓エイジ、アंक、エイジス

冷静↓ワタル

控えめ↓タクミ

陽気↓ユウスケ

図太い↓シンジ、ピット

寂しがり↓海東

慎重↓ヒナ

能天気↓ラトラーター

素直↓タトバ
穏やか↓サゴーズ
せっかち↓ガタキリバ
無邪気↓プトティラ
うっかりや↓ブラカワニ
勇敢↓タジャドル
頑張りや↓シャウタ
暢気↓リンク

士「何か、ポケモンだけだとつまらんな」

ユウスケ「ポケモン以外に、何の適任があるんだよ」

海東「まさかとは思うけど、タジャドルに猫耳つけるとかじゃないよね？」

タジャドル「誰がやるか!？」

士「よし…フフフ」

全（（また余計なことする気が、この悪魔は…）（））

ラトラーター「おーい、皆ー、遊ぶぞー…って…もう好き勝手にするし。ドンカラスなんて、ナルトについて遊んでるし」

ドンカラス「ドンカカカ!」

鳴滝「おのれデイクイドおおおお」

ラトラーター「正直、子育てとかそういうの向いてないんだよなあ…動物の世話なら尚更。シャウタ向けのじゃん今回…」

士「おい、皆、新しいペットの追加だぞ」
ラトラーター「まだ増やすの!？」

ルカリオ「嫌な予感しかないのだが」

士「まあ気にするな。……ペット、カモン！」

クウガゴウラム「…士、覚えてる」

リユウキドラグレッダー「上に同じく」

ヒビキアカネタカ「うう…」

アギトトルネイダー「ちょっと待て！俺おかしいだろ、俺おかしいよな!？」

ゼクターカブト「…つかーさー？」

海東「……士、これは何のプレイかな？」↑V字ハイレグに首輪、額には“犬”

ラトラゾ（ヒナ）「…ちょっと」

ギル「orz」

タカゴリーター（映司）「…正直、これは」

ドンキー「うつほ？」

ディディー「ウキヤ？」

クツパ「むむむ…!？」

ガノン「——おいちよつと待てえええ!？」

ウルフ「↑脳天撃たれた痕

士「さあ、……こいつらを思う存分飼い慣らせ」

ラトラーター「…えええええええー!？ちよ、無理、無理だって!！？」

士「何?…だったら、ゴオマにバッファローロードやフィロキセラ
ワーム、鎌田にタイガーオルフェノク…牛鬼を呼んでくるぞ!？」
リイマジ軍団「「やめんかあああつ!？」」「」

ラトラーター「無理！絶対無理、これは流石に無理ッ！!?」

ラトラゾ「正直、あのもやし潰したい気分…」

タカゴリーター「俺もそう思った」

アंक「アイス寄越せ！」

ギル「……」↑体育座り

ゼクターカブト『怯える必要はないぞラトラーター、そもそも、君がそうやって全速力で遠ざかるうとするから…皆、心を開けないんじゃないのか?』

ラトラーター「うつつ、凶星…」

ゼクターカブト『怖がるのではなく、愛を持って接するんだ。さあ…早速、あそこにいるチラチーノに接して来るんだ!』

ピット「いいこと言っているはずなのに、変ですよネ」

リンク「あまり言わないほうがいいんじゃない?」

ラトラーター「ち、…チラチーノ? 一体何してるんだ??」

チラチーノ「チラッチ！」

ゼクターカブト『さあ、チラチーノが何をしているのかを考えて、褒めてみるんだ』

ラトラーター「（え、何してるんだろ、スカーフみたいなので埃をはたいてる…?）あ、分かった、…ソウジしてるのか!」

チラチーノ「チラッ」

アギトトルネイダー『待てい！ソウジじゃなくて掃除だ掃除!』

ラトラーター「（褒めるって…親父がいつもプトティラにしている感じでもいいのか?）……お掃除してるんだな、偉いな」↑なでなで

チラチーノ「チラッ」

ラトラーターと チラチーノの こうかんどが あがった! ▼

ラトラーターは レベルが あがった!

『ほめる』を てにいれた! ▼

ラトラーター「おお! レベルが上がったああ!」

ゼクターカブト『この調子でいってみよう!』

カズマ(ソウジさんマジ講師)

エルフーン「えりゅー! えりゅー!」

シャワーズ「シャワアア!」

ラトラーター「うわっ、喧嘩してる!」

ゼクターカブト『さあ、仲裁に行くんだ!』

アギトトルネイダー『お前ノリノリだな』

ラトラーター「おい、何してるんだ?」

エルフーン「えりゅえりゅ、えりゅうううう」

シャワーズ「ワーズウウ」

ラトラーター「何言ってるのか分からん!」

ゼクターカブト『そんな場合は、近くで誰か見ていないか尋ねてみるんだ!』

ラトラーター「あ、そっか。……誰か、二人の喧嘩の原因知らないか?」

プトティラ「えりゅのポフィン、シャワーズが食べた!」

サンダース「ダースダースダー」

リュウキドラグレッダー『でも、元々シャワーズの分は他よりちよっと少なくて、それでつまみ食いしたらしい”ってさ』

ラトラーター「うーん、こういう時は、おやつをあげたらいいんだろうけどなあ……」

ヒビキアカネタカ『結論が速いですね』

ラトラーター「飯とかおやつ関係でいろいろある家庭だからな（特にシャウタのおやつ事情）……。とにかく、シャウタに聞いてみるか……シャウター、おやつないか？」

シャウタ「一応ポフィンなら大量に……。なんだ、小腹でも好いたのか？」

ラトラーター「俺無実！……かくかくしかじか」

シャウタ「これこれうまうま。ああ、だったら、他のポケモン達分のポフィンも持って行けばいいよ。そのほうが、新たな火種を生まなくていいし」

ガタキリバ「正直、これ、家に帰っても役に立つぞ（シャウタのおやつ関係で）」

ラトラーター「でーすよねー」

エルフーン「えりゅうつうつー……」

シャワーズ「……ワーズ」

ラトラーター「ほらほら、追加のおやつを持ってきたから喧嘩するな！……他の皆も、まだお腹が空いていたら食べていいんだぞー」

ドンカラス以下略「……」

エイジス「それだけじゃ駄目だろ。シャワーズとエルフーンが仲直りしていないんだから」

ラトラーター「あーそっか。……ほらシャワーズ、このポフィンやる

からエルフーンに渡して仲直りしてきな」

シャワーズ「ワーズ。……シャワ、シャワワ」

エルフーン「える？…えりゅ！えるるー」↑自分の皿のポフィンシヤワーズに渡し

シャワーズ「ワーズ」↑エルフーンからのポフィン受け取る

エルフーンと シャワーズが なかなおりした！▼

ラトラーターは レベルが あがった！

『ちゅうさい』を てにいれた！▼

みんなとの こうかんどが あがって

【めいれい】が できるように なったぞ！！▼

士「いやー、これにて本日の…」

ワタル「士さん、士さん」

タクミ「あっち見てくださいよ」

士「ん？」

エイジス「——で、早速手に入れた【命令】スキルで……」

ラトラーター「よっしゃ。皆、準備いいか？」

クウガゴウラム「俺は元からOKだ」

サンダース以下省略「「「！」「」↑やる気満々

ラトラゾ「じゃ、やろっか」

タカゴリーター「そうだね」

ラトラーター「ブリーダー、ラトラーターの名において命じる。…

…全員、土に突撃ー！！」

クウガゴウラム『…うおおおおおおお！』

リュウキドラグレッダー『俺達までFFRしやがってえええええ！』

アギトルネイダー『絶対許すかあああああ！』

サンダース「フシーツ（訳：よくもシンジやユウスケを掘ったな）

！！」

ギル「俺は…俺は動物じゃなああああーい！！」

士「ぎゃあああああー！！？」

Fileチーター：ラトラーターの二日フリーダー（後書き）

次回予告

Syクウガ「…変身できたのが奇跡！」

ユウスケ「オーズ兄弟って、今の状態（タトバならタトバ）で変身解除できないからなあ…」

エイジ「……どうせ俺はグリードだああああッ！」

Tディケイド「世界は…俺が貰う」

士「おいタジャドル！それはユウスケのセリフだ！！」

ラトラーター「厨臭せえええー！」

士「待てよ、おい、…エイジス本格的に死なくなっただんじやないのか！？ソーマ・ヴェノムによる回復能力！」

ユウスケ「…あ…」

海東「……まさに不死身…！」

ESブラカワニ「締め上げるぞ！」

番外編：変身！仮面ライダー

E S プラカワニ「…ほう…？」

『シャチ！ウナギ！タコ！シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』

E S シャウタ「……誰に喧嘩売ってるんだ……？」

全「……やめて、それ絶対銃火器シャウタが有利ー！！」

——戦わなければ生き残れない！

番外編：変身！仮面ライダー

士「スマブラの世界では、基本的にライダーに変身する際に特殊な制限が掛けられる」

ユウスケ「なんだよいきなり…」

士「そこで！これから、ここにいる一部の奴らで…変身大会だ！！」

エイジス「で、何で俺も！？」

エイジ「…俺もかよ」

ヒナ「私まではまだ分かるんだけど…」

鳴滝「おのれディケイドおおお！」

マナ「…なんで私も…？」

栄次郎「はっはっは」

タトバ「…俺達が含まれている理由も教えてください、マジで」

タジャガタラトサゴシャウ「…ホントだよ」「」

ブラカワニ「確かに！」

プトティラ「う？」

シュナイド「…おい」

ユンナ「あのー」

オオタチ「たちえ！」

弟切（ライ街）「…おい待てえええ！？」

キラメキ（ライ街）「なんだか楽しそうだなー」

シンゴ「……」
後藤「……」

ヒナ「…この人達、誰？」

エイジス「何故オオタチまで？」

エイジ「色々ツツコミどころあるぞ、シンゴ以外」

士「そこは気にするな！さあ、早速やって行くぞ…本題はお前ら以外のオーズ適合だからな！」

映司「あと個人的に、変身大会やるなら平成以外が…」

士「それはFileカメでリンクにやらせる！」

リンク「えええ…」

〃
〃
〃

クウガ…誰かの為に戦う心、誰かを守る為に自分が傷付くことを選ぶ優しさ、異端ではないこと

適合例：映司（グリードは異端扱いだが、映司は一応まだ人間の部分が残っている為OK）

適合者：シャウタ

Syクウガ「…変身できたのが奇跡!」

ユウスケ「オーズ兄弟って、今の状態（タトバならタトバ）で変身解除できないからなあ…」

エイジ「……どうせ俺はグリードだああああッ!」↑条件はクリアしてても異端扱い

アギト「魔力を持つ者、神に近い存在、神に認められた存在、聖なるもの」

適合例：ピット（天使〓神の使い）

適合者：なし

エイジス「そもそも、アギトが一番難しいんじゃないか…」

ヒナ「適合したら適合したで、おかしいよその人」

ショウヤ「……」↑コア大戦でアギトになった

ユウスケ「いや、ショウヤさんは、適応能力持ちですから…」

龍騎「制限なし」

士「これは一番楽だな、うん。飛ばすか」

エイジス「個人的には、オーディンになってみたかったな…」

映司「俺は…ゾルダ」

エイジ「やつぱり王蛇だろ」

ヒナ「タイガかなあ」

士「お前らのチョイスが安定して酷い」

ファイズ「死人或いはそれに近い存在」

適合例：大道克己（NEVER）、ユウスケ（説明不要）

適合者：王環エイジ（一度死に掛けた）、ユンナ（死んだユエナの代わりに作られた）

Eiファイズ「何だろう、…なんか嬉しくない！」
ユンナ「嬉しいと思う人のほうが異常ですよ…？」
リンク（ごめん、アイクは喜びそう）

ブレイド：ダブルのジョーカーサイド適合、スマブラの世界の人間でないこと

適合例：アंकその他

適合者：王環エイジ、シュナイド、キラメキ、タジャドル、ガタキリバ、サゴーズ、ブラカワニ

Bブレイド「おおーっ、何だこの置！楽しいー！」

シャウタ「親父、メチャクチャ楽しそうだな」

Bブレイド「えーっと、何だこのカード？」

『Time』

タジャドル「おい、ちょ」↑時間停止

プトティラ「タジャドル永遠におやす…」

シュナイド「待て！タイムは時間が止まっている相手に攻撃すると、自分がダメージを負うんだぞ！？」

プトティラ「ええーっ…><」

響鬼：戦いの経験が長い者

適合例：ソウジ

適合者：弟切ソウ、王環ヒナ、キラメキ

〇響鬼「…なあ、これ、変身した後で服が燃えるんじゃないか？」

ソウジ「そうだったかー？」

ヒナ「うっわあ、しなくてよかった」

キラメキ「弟切、服！」↑メイド服

O響鬼「貴様は俺をどの道に堕とす気だ!？」

カブト「カブトゼクターが認めた相手

適合例：シス・コムセ

適合者：エイジス、王環エイジ、王環ヒナ、ガタキリバ、キラメキ、御手洗シンゴ

Gカブト「うおお…なんか変わったあああ!？」

ラトラーター「いいな」

マナ「ガタキリバは虫関係？」

映司「じゃ、ないかな…？」

ワタル「というか…地味に銃火器にクロックアップが実装されたことにツツコミをしたい!」

タクミ「正直、曉美ほむら…っていうかほむほむが垣間見えましたよ!？」

電王「憑依した相手との合意、憑依した人間が何らかの異端、人外は変身できない

適合例：辰巳シンジ（もはや異端）

適合者：王環エイジ（グリード）、ユンナ（ヒューマノイド）、鳴滝（もはや異端者）

E i電王SF「俺、参上!」

Y電王RF「僕に釣られてみる？」

S電王AF「泣けるで!」

N電王GF「倒してもいいよね？答えは聞いてない！」

士「鳴滝…気色悪ッ！」↑吐きかけ

ユウスケ「シヨウイチさんの時も思ったけど、リュウタロスの人選ミス率高すぎる！」

キバ…人ならざる存在（人外）

適合例：ユウスケ（理由は聞くな）

適合者：プトティラ（ペット）、オオタチ（ポケモン）、弟切ソウ（ワーム）

弟切「…ポケモンやペットはまだいいんだ、まだいい…だが、……クウガ…？」

ユウスケ「何か言いたいのか？」

弟切「いえ、なんでもありません…！」

ディケイド…スマブラの世界の人間でないこと

適合例：映司その他

適合者：鳴滝、栄次郎、王環エイジ、王環ヒナ、後藤慎太郎、御手洗シンゴ、オーズ一家（ただしプトティラはペットなので除外）

Tディケイド「世界は…俺が貰う」

士「おいタジャドル！それはユウスケのセリフだ…！」

ラトラーター「厨臭せえええー！」

Hディケイド「私がお兄ちゃんを倒す！」

エイジ「Σ…！？」

士「そしてそれは夏海の改変だ！」

ダブル…信頼し合っている人間同士、生まれの早い人間がジョーカ
ー適合

適合例…カズマ（Jサイド）&シンジ（Cサイド）

適合者…王環エイジ&王環ヒナ、伊達明&後藤慎太郎、タジャドル
&シャウタ、ガタキリバ&ラトラーター、サゴーズ&タトバ、ブラ
カワニ&プトティラ、シュナイド&ユンナ、キラメキ&弟切

Sgダブル（Jサイド）「さあ…」

Ttダブル（Cサイド）『お前の罪を…』

ダブル「『数えろ！』」

映司「はは…あれ、エイジスなんでいじけて…」

エイジス「…べーつにー」

シンゴ「…うん、妹と比べろって言うのはおかしいよな…orz」

士「さて、お待ち兼ねのオーメダル適合だ！」

ヒナ「私達は既にオーズなんだけど」

エイジ「だよ、なあ」

士「まあ、具体例としてお前らの適合状況（ 橙は含まない）を挙
げると…」

王環兄妹…制限なし

エイジス…シャウタのみ（タコ強化、水中スピード上昇）

後藤…白以外

オオタチ…ガタキリバのみ（カマキリ強化）

オーズ一家withプトティラ…もはや固定

ヒナ「うわ、バラバラ！」

エイジ「これは凄いな…」

士「さあ、残りの奴らを総て判明させた後は…問題の！ブラカワニコンボ行くぜ！！」

ブラカワニ「それがやりただけじゃん！？」

シンゴ「…変身！」

『タカ！クジャク！バツタ！』

『ライオン！トラ！ゾウ！』

Snラトラゾ「…俺の場合…【亜種のみ、ただし頭と胴体は同色固定】……」

ヒナ「そうになると…20フォームしかできないんだ」

鳴滝「…」

士「どうした？」

鳴滝「オーズドライバー自体が起動しない、だと…」

全「「それすげえ！？」「」」

士「ブラカワニもか？」

鳴滝「くううつ…おのれディケイド！」

シャウタ「…もしかしてあんた、どっちかっていうとサソリ・カニ・エビにしかねないんじゃない？」

全「「コア！？」「」」

海東「誰か、銃火器シャウタに最強武器を！できれば銃系！！」

エイジス「おいっ！！」

キラメキ「変身！」

『シャチ！ウナギ！タコ！シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』

『シャチ！ウナギ！コンドル！』

Kシャウドル「青と…コンドルと、後これだけ」

『シャチ！トラ！タコ！』

映司「シャウタと、シャトラタと、シャウドルかあ…」

シヨウイチ「シャウタになれるのは仕方ないな、お前、水中専門ライダーだから…」

弟切「…変身！」

『クワガタ！カマキリ！バッタ！…ガーツタガタガタキリッバ、ガタキリバ』』

Oガタキリバ「あとは…」

『ライオン！トラ！チーター！…ラトラタラトラター』』

Oラトラター「…緑と黄色だけだな、あと、コンドル入りそうだった」

士「流石ワーム、虫になったか」

マナ「変身！」

『クワガタ！カマキリ！バッタ！…ガーツタガタガタキリッバ、ガタキリバ』』

Mガタキリバ「……これだけみたい」

海東「ちょ、サイコメトリー保持者が50体って…」

マナガタキリバの場合、バッタレッグ強化＋サイコメトリー能力

シユナイド「変身！」

『ライオン！トラ！タコ！』

SyUラトラタ「これと…」

『シャチ！ウナギ！チーター！』

SyUシャウター「…これと、」

『ライオン！トラ！チーター！…ラトラタラトラター』』

『シャチ！ウナギ！タコ！シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』』

Syushaウタ「…シャウタとシャウター、ラトラタとラトラターの【ややこしい名前フォーム】…orz」
ユウスケ「なにそれひどい」

ユンナ「…変身！」

「タカ！クジャク！コンドル！…タージャードル」

「プテラ！トリケラ！ティラノ！…プットッティラノザウルス」

Yプティラ「…タジャドルとプティラだけです」

士「…つてことは、実質タジャドル適合か」

プティラ「Σぷっ！？…やだやだ、タジャドルと一緒にやだ！」
タジャドル「おいつ！？」

ユンナタジャドルはコンドル強化、ユンナプティラはメダガブリューの威力上昇

余談ですが、プティラは単体適合以外はメダガブリュー威力上昇のみです

栄次郎「さて…変身」

「タカ！イマジン！ショッカー！ターマーシー！ターマーシー！…ライダー魂ー！！！」

Ejタマシー「はっはっは」

士「まさかのタマシーだとおお！？」

ユウスケ「さ、流石、死神博士だ！」

夏海「あれ、ところでなんでお爺ちゃん、今まで『人外』判定じゃなかったんですか…！？」

海東「さ、さあ…」

シンジ「謎が多すぎるぞ、あの人！？」

栄次郎タマシーは全能力上昇、ただし総合能力はSC以外シンジサゴーズに劣る

ちなみに、タマシーは栄次郎しか【スマブラの世界】では適合し
てくれませんでした。主にシヨッカーメダルが

〴〵〴〵

士「さて、ブラカワニ…行くぜえええ！」
ブラカワニ「ひええええええ！？」
タジャドル「いや、親父じゃないから！」

リンク「とりあえず、メダルは俺のでいい？」 ↑トライフォースで
呼び出しつつ

映司「お願いしまーす」
士「レッツ・トライだな！」

Wブラカワニ「…適合できましたよッ！ブラカワニ…！」

士「…いいよな、お前は…ワタル…！」

海東「僕達なんて…！」

ユウスケ「まあ、もう別に、いいよ…」

夏海「…うつうつ…orz」

ワタルブラカワニはコブラヘッド強化

シンジ「無理！」

カズマ「できない！」

タクミ「ごめんなさい！」

シヨウイチ「…これ以上イロモノ適合してたまるかああ！」

ソウジ「うーん、無理だった」

アスム「orz」

マナ「私も…」

シュナイド「…私もだ」

鳴滝「コア、だと…コア…orz」

栄次郎「うーん、無理みたいだねえ」

後藤「…伊達さん、俺、駄目でした…！」

シンゴ「これは難しいな…」

弟切「…確かに」

ユンナ「私も無理です、申し訳ありません」

キラメキ「ぐあー！無理だったー！！」

ピット「…適合してたまるか」

士「あーくそ、寂しいから王環兄妹やれ」

エイジ「…悪いが、無理」

ヒナ「出来るかもしれないけど、…橙だけは使う気にはなれない…」

士「じゃあ映司」

映司「…ごめん、相当切羽詰った状況じゃないと、コブラメダル触りたくないんだ…」↑蛇嫌い

ユウスケ「ん、ちょっと待て、誰か一人忘れて…」

ESブラカワニ「…」

全「……だった！こいつがいたああああッ！？」」

アスム「前情報のあったワタルはともかく、……これは予想外じゃ……」

エイジスは今回以外は総てシス自作の「誰でも変身できるよう調節したけど、本来の適合じゃないと能力が低いコアメダル」を使っていた

士「待てよ、おい、……エイジス本格的に死なくなっただんじやないのか！？ソーマ・ヴェノムによる回復能力！」

ユウスケ「……あ……」

海東「……まさに不死身……！」

Esブラカワニ「締め上げるぞ！」

エイジスブラカワニは戦闘スペックは多少落ちるが、防御能力が高く、回復能力も高い

また、ソーマ・ヴェノムを逆流させて体外に放ち、怪我人の治癒が可能

士海「……死に掛け

Esブラカワニ「はい、証拠隠滅」↑傷の手当中

映司「……悪魔だ」

エイジ「えげつないほど悪魔だ」

シンジ「って言うか、シヨウイチさんの恐れるイロモノ適合（シャウタ、ブラカワニ）って……」

Esブラカワニ「お前らも締め上げられたいか？」

映エイシン「いいえ！」「」

士「くそっ、お前よくも……」

海東「これは一回、力の差を見せ付ける必要があるね」

『Kamen Ride DECADE！』

『Kamen Ride DI-END！』

デイケイド激情態「……うおおおおおおお！」

ディエンド「覚悟したまえ！」

ESブラカワニ「……ほう……？」

『シャチ！ウナギ！タコ！シャシャシャウタ、シャシャシャウタ』

ESシャウタ「……誰に喧嘩売ってるんだ……？」↑シス自作メダガブリュー構えつつ

全「……やめて、それ絶対銃火器シャウタが有利ー！！」「」

ちなみに、ガブリュー事情

王環エイジ……通常の2倍大きい。勿論重いし、威力も高い

エイジス……シスの自作のため、柄の部分が長い。また、シスのお遊びで以下の設定

・最大40発の弾が撃てる（エネルギー源：シス自作のセルメダル／1枚装填ごとに10発分）

・プトティラ以外はバズーカモード時にスキヤニングチャージをすることで、ストレイندوقムよりは威力が下がるがそれなりに強い“エレメンタルシユート”が可能（例：シャウタ↓水属性、タジヤドル↓炎属性）

・ブラカワニは攻撃専用ではなく、弾自体に回復能力付属。ただしSCの場合は毒属性を付属したエレメンタルシユート

映司「つまり、エイジスのメダガブリューは銃攻撃専門……」

ユウスケ「駄目だ、あいつら終わった」

『スキヤニングチャージ!』

ESシャウタ「…せいやあああああッ!!」↑エレメンタルシ
ュート

馬鹿二人「ぎゃあああああ!?!」

通りすがりのワリオ「ぎゃひーん!?!」

ESブラカワニ「回復、回復」↑傷の手当中

士「↑息がない

海東「↑動かない

ワリオ「↑完全放置

ユウスケ「同道巡りすぎる…」

カズマ「ある種の拷問だね!」

シャウタ「エイジスって、…怒らせると怖いんだな」

プトティラ「そなの?」

タトバ「まあ、いい人なだけどね…」

タジャドル「ってか、アレは、怒らせたあいつらが…」

番外編：変身！仮面ライダー（後書き）

次回予告

ヒナ「……今こそ、メダルソムリエとしての真価を発揮する時！」
アंक「面白い。人間が何処まで食い下がるか…見物だ！」
映司「ねえ、ちょっと、これ大丈夫！？」
エイジス「何とかなるだろ」

海東「うーん、これは……サイ・トラ・タコのサトラタだね」
ユウスケ「…適當だろ」
夏海「じゃあ、ライオン・コンドル・ゾウです！理由はカッコいいからー！」
シヨウイチ「カッコいいからで変身させられてたら、火野が終わるぞ！？」

シンジ「超個人的に、士に対しては、純粹に暴力で勝った方がいいんじゃないかな…あいつチートだし」
ヒナ「確かに、クロックアップ使われたら流石にねー」
ディケイド「さあ、どの亜種で俺に対抗するかな！？」
ヒナ「だったらこれね」

F i l e シ ャ チ ・ 状 況 判 断 ！ コ ア メ ダ ル

File シャチ：状況判断！コアメダル

ヒナ「——火野さんは亜種が少なすぎる」

映司「えっ、ちょ、何かいきなり…」

ヒナ「火野さんは亜種が少ないの！大抵、タトバかコンボじゃない
！！」

映司「そうだっけ…？」

ヒナ「あえて纏めた物を出させていただきますと」

- ・タカトラドル
- ・タカジャバ
- ・タカキリバ
- ・タカゴリバ
- ・タカゴリタ
- ・タカウバ
- ・タカトラーター
- ・タカキリーター
- ・タカウーター
- ・タカウタ
- ・ガトラバ
- ・ラトラバ
- ・ラキリバ

- ・ラキリーター
- ・ラトラゾ
- ・サジャゾ
- ・サウバ
- ・シャウバ
- ・シャジャーター
- ・シャゴリーター
- ・シャゴリタ

ヒナ「――21種類！21種類ってどういことですか！？」

映司「えっ、ちょ、特訓…41話…」

ヒナ「アレは戦闘に入りません除外です！」

エイジ「そりゃあ入らないな」

ちなみに、41話で出た亜種まとめ

- ・シャトラーター
- ・ラウバ
- ・サゴリーター
- ・タカウゾ
- ・ラゴリタ

ヒナ「むしろ今まで、私が初期に持つてなかったサイとかゾウとかありましたよね！？何でその亜種を早めに出さないんですか、サイとゾウはサゴーズ専用ですか！！？」

映司「いや、あの、」

ヒナ「あれだけメダルを持つておいて、少なくとも50は越えていないとおかしいのに、何故21！41話を足しても26種類！！」
映司「ヒナちゃんもそれほど亜種出してな…」

ヒナ「——シャチ・タコ・ゴリラ・クジャク・カマキリ・チーター！6種類しかない状況でどれだけ幅を広げると！？ウナギとクワガタとコンドルを手に入れて、ようやく（個人的には）亜種の種類が広がったと言うのに！！」

エイジス「あと突っ込みを入れると、ひな壇はシャチしか頭がなかったから、逆に言えばクワガタを手に入れるまで辛かったっぽいな……まあ、お前で言う、頭がタカしかないようなものだ」

エイジ「いや、そもそも火野は、メダルのテイ스팅をアंक任せにしてたからじゃ……」

ヒナ「……」↑無言でアंकを睨む

アंक「おい、そこでなんで俺を出す！？」

ヒナ「……タカトラバツタカマキリチーターしかなかった初期ならまだいい、まだいいわ、でもね、……ライオンとクワガタが加わって幅が出ているのに……クワガタがガトラバしくないのは何事だああああ！！」↑アंक揺さぶり中

映司「Σヒナちゃああああーんツ！！？」

ヒナ「更にサイの亜種が……サイの亜種が出たのが30話以降……？……」

……あんたはサイを何だとおおおお！！」

アंक「ぎゃあああああ！！？」

エイジ「元気になってよかったな、ヒナ……！！」

エイジス「あー、そういえばあいつ、手術するまで体が弱かったんだっただか」

ヒナはメズールとの契約もあるので、ガメルのメダルは最低2枚ずつ譲渡しなければならないため、今持っているゴリラ以外はメズールに譲渡しています

追記：ただし完全体にはさせないよう、メダルの管理と渡す時の匙加減はヒナ任せ。メダルが足りないのはカザリとアंकがゴリラかメズールのメダルしか出さないせい

アंक「はん。そうは言うが、戦闘中…今あるメダルでヤミーと有効的に戦えるメダルをチョイスするのは素人には無理だぞ！」

映司「…」↑下手をすればライオンとチーター主軸のプットツテイラノヒツサーツ

エイジス「？」↑亜種？何それ美味しいの

エイジ「……」↑コンボでよくね？

ヒナ「ふっ…お兄ちゃんがいなくなつて半年間、6枚しかないメダルで戦った私を…そして！お兄ちゃんからメダルについての知識を聞かされていた私が…有効なメダルチョイスができないとでも？」

映ジス「…え？」↑エイジ見ながら

エイジ「お前ら、俺が研究者だつて忘れてるだろ！」

映ジス「…ごめん」

エイジ「泣くぞ！？」

アंक「なんなら、勝負でもするか？」

ヒナ「受けて立つわ…今こそ、メダルソムリエとしての真価を発揮する時！」

アंक「面白い。人間が何処まで食い下がれるか…見物だ！」

映司「ねえ、ちよつと、これ大丈夫！？」

エイジス「何とかなるだろ」

エイジ「じゃ、火野、頑張れよ！」

映司「ええーっ！？ちよ、これ、普通エイジスじゃ…」

くくく

結局使われるのは映司、メダルはエイジス（のシス製作品）のものを借ります

映司「orz」

ショウイチ「で、…敵は俺らかい！」

士「参加者も兼用だな」

エイジ「司会進行は…適当に、ブラカワニやっちゃえ」

ブラカワニ「パパン頑張りまーす！」

アंक「審査員は俺だ」

エイジス「で、実際に投げるのか？」

全「…投げるなよ銃火器！」「」

ブラカワニ「それでは、第一問！」

ブレイド「剣立カズマ、ブレイドです！」

ブラカワニ「ブレイドに有効な亜種を見つけないさい！…後、待って

るのはリアルティ欠けるから…実際に戦闘しちゃってね」
ブレイド「うえーい！」

映司「え、ちょ、…ぎゃああああ！」

海東「うーん、これは……サイ・トラ・タコのサトラタだね」

ユウスケ「…適當だろ」

夏海「じゃあ、ライオン・クジャク・ゾウです！理由はカッコいいからー！」

シヨウイチ「カッコいいからで変身させられてたら、火野が終わるぞー？」

映司「……誰か、とりあえず何でもいいからメダルううう！」

エイジス「じゃあ、シャウタ」

全「…コンボ禁止！」

ソウジ「そしてシャウタで何をす…重火器発射か」

シンジ「流石に、ヒントは出せ！」

士「ブレイドは属性雷、カードを使ったトリッキーな戦法が得意…特にタイムで時間停止をされれば勝つのは難しい。が、そもそもブレイドはAPを消費してカードを使う」

ヒナ「…分かった！チーターで相手の攻撃を回避しつつ、遠距離手段はあまり持たない相手だけど防御を高めるカードを考慮してゴリラ、更に遠距離攻撃の幅を広げるためのシャチ……答えはシャゴリターー！」

アंक「む、…確かに…」

ソウジ「とりあえず、クワガタとウナギとコンドルを」

全「…フリーダムやめて教祖！」

映司「いや、割と、…何でもいいからメダルウウウ！？」

ブラカワニ「第二問！」

キバ「さあ…キバを相手に何処まで戦えますか！」

シャゴリーター「う、うーん、このままでもいけそうな気が…」

シヨウイチ「ちなみにキバは、力のドツガ・技のガルル・空気のバツシャーがいるんだっとな」

カズマ「バツシャーの扱い！？」

ユウスケ「言うことは、フォームごとに答えなくちゃいけないのか！？」

ソウジ「タカ、ゴリラ、コンドル！」

シンジ「フリーダム禁止！」

海東「それじゃあ、サイ・トラ・コンドルだね」

シンジ「サトラドル…適当だろ！」

ユウスケ「ワタルだからな…案外、ラウドルとかがいいんじゃない？」

アスム「それ、ワタルセレクション亜種ですよ？」

シヨウイチ「うーむ、相手がワタルだからな…アंकがOKでもあいつが×を出しそうな亜種は…」

シャゴリーター「アーツ！！？」

キバ「ほらほらもつといい声で啼いてみてくださいよ映司さん！」

シャゴリーター「ちょ、もう、…誰かああー！！」

エイジス「じゃあサゴーズ」

ヒナ「いいえ、身軽な相手にサゴーズは逆に不利…ここは武装の軽量化を図り、尚且つ相手の動きに対応できるバツタ……よってタトバ！」

『タカ！トラ！バツタ！…タ・ト・バ、タトバ、タツトツバ！…』

ヒナ「バツタでジャンプしながら相手を攪乱し、その上でトラクロ
ーによる連続攻撃！」

タトバ（映司）「よ、よしっ！」

キバ「やりますね…だったら！」

キバット『ドツガハンマーッ！』

キバDF「…これでどうですかッ！」

タトバ（映司）「うわわ！？」

ヒナ「相手がパワー重視で行くなら、俊敏性はそのままに…攻撃力
の高いゴリラ！更に…相手の視界を奪うのならクワガタやライオ
ンは非常に有効、映司さん！」

タトバ（映司）「よ、よしっ」

『ライオン！ゴリラ！バツタ！』

ラゴリバ「…うおおおおー！！」

キバDF「くっ！」

アंक「……」

ブラカワニ「第三問！」

響鬼「さあ、行きますよ映司さん！」

ラゴリバ「うつ…アスム君か…」

カズマ「響鬼は炎属性なんだよね」

夏海「なら、普通に考えればシャチですね！」

ヒナ「そうね…私もシャゴリーター選んだかな。ただ、相手のパワ
ーを受けて踏ん張るなら、シャゴリタでいいけど……」

ユウスケ「けど？」

ヒナ「今回はこれ。火野さん！サイ・ウナギ・タコ行くよー！！」

ラゴリバ「ええっ？…い、一応使ってみよう！」

「サイ！ウナギ！タコ！」

サウタ「…うおおおっ！」

土「明らかにサゴーズの方が有利だろ。ミスか？」

ヒナ「まだまだ。：火野さん、まずは水流放射！」

ユウスケ（あ、そういえば、シャウバの時に手から水出したっけ）

「サウタはっ！」

響鬼「くっ！？」

ヒナ「戦って分かったことその1・音撃棒という武器は非常に厄介！音撃棒をウナギムチで捉える！！」

サウタ「それっ！」

響鬼「……でも、引き合いならこつちが！」

ヒナ「戦って分かったことその2・パワーは相手のほうが上…ならば、引き合いになった際に踏ん張れるタコで粘る！」

サウタ「……おおおおおお……」

響鬼「はあああああ……」

サウタ「……うおりゃあああああ！」

響鬼「うわっ!？」

ヒナ「そして、——引き寄せられた相手に対し、サイで頭突き！」

サウタ「セイヤアアアアーツ！」

響鬼「あだつ!？」

全「「「軽くえげつねえええええ！」」」

ブラカワニ「第四問」

カブト「さてと」

ショウイチ「……………シャチ・クジャク・チーター」

全「「早ッ!?」」

アंक「理由は何だ」

ショウイチ「…シャチでソナー捕捉＋水流で距離を開かせ、クジャクで遠距離戦、チーターでクロックアップされる前に叩き潰す!」

士「……お前、楽しそうだなショウイチ」

ヒナ「先に言われた…」

ブラカワニ「第五問!」

龍騎「…はぁ」

士「龍騎は炎属性のライダーだ、しかし、……変身者は辰巳シンジだ。ヘタすれば死ぬぞ」

龍騎「おい!」

夏海「ここは…ライオン・ゴリラ・コンドルで!」

ユウスケ「夏海ちゃんライオン好きだね!？」

エイジス「ラトラーター」

ヒナ「だから…」

エイジ「そろそろ兄の意地を見せるか…」

全「「え」」

エイジ「龍騎はミラーワールドに潜れる、だがそれを事前に食い止めるのは相手を捕まえられるウナギ。足はぶっちゃけなんでもいいが…コンドルで変則的な蹴りをするのがいいかな。そして頭は、相手が鉄仮面だからライオンは反射して逆効果、水属性を得られるシヤチか…遠距離攻撃の幅が広がるクワガタだな」

アंक「ほう。それで、何を選ぶ!」

エイジ「クワガタ。正直、クワガタまだ1回も存在してないから」

全「……おいつ!」

エイジ「水属性はウナギで得られるし大丈夫だろ」
アंक「まあ、そうなんだけどな……」

ブラカワニ「第六問!」

ディケイド「さあ、俺を相手にどう戦う!」
ガタウドル「うっ……」

エイジス「シャウタ」

エイジ「サゴーズ」

ガタウドル「Σなんで!?!」

エイジス「あいつ、シャウタにカメンライドしないで終わりやがった」

エイジ「サゴーズもな」

海東「個人的な恨みだね」

シンジ「超個人的に、士に対しては、純粹に暴力で勝った方がいいんじゃないかな……あいつチートだし」↑暴力で勝てる人

ヒナ「確かに、クロックアップ使われたら流石にねー」

ディケイド「さあ、どの亜種で俺に対抗するかな!?!」

ヒナ「だったらこれね」

『ライオン!ゴリラ!タコ!』

全「……え?」

ラゴリタ「……えええええー!?!?」

ディケイド「おい、そんなチョイスで大丈夫か!?!」

ヒナ「大丈夫、問題ない。…ライオン発光!」

ラゴリタ「ええーい、もうヤケクソだああああ！」↑ライオンフ
ラッシュ

ディケイド「うおっ、まぶし！」

ヒナ「相手に接近してタコで捕獲！」

ラゴリタ「セイヤツ！」↑タコレツグ展開

ディケイド「なっ、…しまった、ディケイドライバーごと…！」

ヒナ「戦って分かったことその3・ディケイドはカードをいちいちベルトに装填するから、ベルトごと体を押さえ込んでしまえば楽勝！…そのまま、ゴリバゴン殴打ツツツ…！」

ラゴリタ「うおおおおおお本編でのアंकのバカヤロー！紫メダルのバカヤロー！！後オマケに親兄弟のバカヤロオオオオオオオオオオ！！！」

ディケイド「ごふっ！？がっ、げ、…ぎゃあああああ！！？」

アंक（メダル云々よりも、映司が一番怖い！！）

ブラカワニ「ラッキーフの第七問♪」

アギト「畜生俺もかよ…」

カズマ「タジャドル」

シンジ「タジャドルだな」

ソウジ「タジャドルで」

エイジス「ああ、タジャドルだ」

アギト「…何故じゃあああああああああ！！！」

ヒナ「それよりも、トラウマ相手を髭髯とさせる…ライオン（複眼が水色）・クジャク（赤色&タジャドル要素）・バッタ（虫）の…ラジャバ」

ブラカワニ「第8問！」

ファイズ「…そういえば僕、今日始めて喋りますね…」
ラジャバ「どんまい、タクミ君…」

エイジス「シャウタ（リンク的な意味で）」

エイジ「シャウタ（左翔太郎の面目躍如的な意味で）」

ラジャバ「あー…シャウタ（エイジ的な意味で）」

ファイズ「いやいやいやいや！？」

ヒナ「ここは相手の遠距離攻撃手段の少なさと踏まえ、それなりに火力のあるクジャク…スピードに対抗できるチーターを使って、ラジャーター」

アスム「ライオンは？」

ヒナ「発光&適合&獣繋がり」

ブラカワニ「第九問！」

クウガ「よっし！」

士「クウガはスピードのドラゴン・感覚のペガサス・力と守備のタイタンがあるからな…」

ブラカワニ「尺少ないから、マイティ対策だね」

クウガ「ちょ！？」

ヒナ「…ならば、相手が直接攻撃主体なのを念頭に、シャチ・ゴリラ・バッタのシャゴリバ！」

夏海「何ですか？」

ヒナ「相手は炎属性なんだからシャチで対策＋遠距離攻撃・ゴリラでパワー増強・バッタのフットワークで相手を攪乱！」

ブラカワニ「で、結果は？」

アंक「……くそっ！確かに、知識と判断力はあるみたいだな」

ヒナ「まあね」

アंक「だが、流石に次に挙げる奴らはどうだ？」

・^{シンジ}終末サゴーズ

・^{エイジス}銃火器シャウタ or ^{エイジス}死亡不可ブラカワニ

・^{エイジ}破壊王プトティラ

ヒナ「……、…これ、亜種無理じゃない？」

シンジ「ちょ！？」

エイジス「待て、ちょっと待て、俺納得いかん！」

エイジ「orz」

アंक「むしろ、…コンボでも勝てる気がしないだろ」

ヒナ「うん、…もう火野さんがプトティラで暴走するしか勝ち目ないよね？」

アंक「ああ…補正とはいえ、終末サゴーズを圧倒したしな」

ヒナ「むしろ、ブラカワニを味方につけて粘り勝ちさせるしか…」

アंक「……いや、待てよ、…味方につけるならお前の兄だ！お前のためなら裏切るだろ！！」

ヒナ「それは最後の手段ね…とりあえず、終末サゴーズを何とかしないと…」

シンジ「…ねえ、俺、泣いていい？」

映司「一番泣きたいの、俺ですよ？」

File シャチ：状況判断！コアメダル（後書き）

次回予告

シヨウイチ「……風邪で声が出ない……」

シンジ「あんなに叫ぶからですよ！」

シヨウイチ「いや、……風邪だって言っ……ゴホゲホ」

ガタキリバ「——この人、何回叫んだんだろう本当に……」

ラトラーター「シャウタ……お前、まだいいほうだよ……！」

シャウタ「通算200以上ある話の、しかもほぼレギュラーみたいな感じのひと俺と一緒にする気かお前ら」

ソウジ「……絶叫しないシヨウイチなんて……ただの芦河だ、ただのモブAだ……！」

シヨウイチ「………！！！」

ユウスケ「シヨウイチさん、落ち着いて！」

サゴーズ「動くだけでもギャグだね、この人」

File ウナギ：芦河絶叫事情

Fileウナギ：芦河絶叫事情

シヨウイチ「……風邪で声が出ない……」

シンジ「あんなに叫ぶからですよ！」

シヨウイチ「いや、……風邪だって言って……ゴホゲホ」

カズマ「シヨウイチさん……流石に今日は、セリフ一言も言わない方がいいよ」

ソウジ「なん……だと」

士「真顔でシヨック受けてるぞこいつ!？」

タクミ「ソウジさん、シヨウイチさんが叫ばないで悲しいのはあなただけです!」

ユウスケ「凄く気になったんだけど、シヨウイチさん、どれだけ叫んできたんだろう……」

ワタル「あ、それはありますね」

アスム「確かに……」

シヨウイチ「……」↑おい、と叫びたげな顔

海東「よし分かった。オーズ兄弟君達やリマジオーズ達も、知ると言い……芦河シヨウイチと言う男の絶叫の歴史を!」

シヨウイチ「……!」↑ふざけんなああ、と叫びたげに地団太シンジ「地団太しない!」

タジャドル「でも、カウントはどうするんだ?」

士「そうだな…『俺を呼ぶなあああ！』みたいに、後の言葉を伸ばしたり…あと『！』『！』『！？』もありだな（ただし前書きは除外）」

プトティラ「ちゅまんなそう」

ラトラーター「じゃ、親父と散歩しとけば？」

ブラカワニ「パパン、逝きまーす」

【ディケ雪姫】

「おつまあああーツツツ!？」

【K a m e n R i d e r D E C A D E 〱 分岐されし未来〱】

（完結）

「…おおい!? 終わったなら、手伝え!」

「ちよっコラアアア! 待て、こっちを手伝ええええ!」

（裏話）

「やめい!」

「俺かい!」

「……振り回すな! 俺に当たる、やるなら蟹にしろ!」 没案

「その案没になってよかったッ!」

「やめい！」 2回目

「知るか！」

「投げるなッ！？」

「正解だが無理に最近覚えた言葉を使うな！」

「おいおいおいおいっ！？」

「やるな！」

「俺か！？」

【平成VSDCDドッジボール！】

（2話）

「無理を言うなあああ！！！」

（3話）

「俺を狙うなアアア！」

「っていつか、ソウジおまあああ！」

（4話）

「は！？」

「はあああ！？」

「ごふっ！？」

（5話）

「だが——狙うのは貴様だ、野上ッッッ！！」

（6話）

「……無駄にでかい“奴”を叩き伏せるッッッ！」

「駄目だ、——お前…龍騎よりリュウガ、或いはタイガに選ばれるべきだろおおおー!!」

(7話)

「「聞けよ!」」 翔太郎・たつくと一緒に叫んでいます

「「ユウスケに誤爆しろおお!」」 異世界一家が叫んでいます

「おっと!?!」

「どわっ!?!」

(8話)

「——だったら、こっちも【笑いのツボ】権だっ!!」

(9話)

「「だったら止めろや!?!」」 翔太郎・たつくと一緒に叫んでいます

(10話)

「「お前が言っな!」」 たつくとこの後一緒に海東にナマコをぶつけました

(11話)

「対シンジ対策はどうしたあああ!」

(12話)

「……全員退避!いいか、ボールは飛んできても取るな!!取った地点で摩擦によって焼け死ぬぞ!!!」

「オリジ、お前らも退いとけ!変身タイムとかに拘らないほうがいい、……下手したら!!」

(13話)

「あつっ！？手が焼けるだろおお！」

「「お前が言っなよ！」」 翔太郎・たつくと一緒に

(15話)

「…む、無理すぎる…しかし、デカブツ！貴様は沈める…！」

(17話)

「——一生失せとけ！」

(18話)

「…うわっと！？」

「「ぶうっ！？」

(20話)

「30分前の世界の男をどうして呼んできた！」

タトバ「今まで俺達、シャウタあんなに叫んで大丈夫かなーって思ってたんだ…でも」

ガタキリバ「——この人、何回叫んだんだろう本当に…」

ラトラーター「シャウタ…お前、まだいいほうだよ…！」

シャウタ「通算200以上ある話の、しかもほぼレギュラーみたいな感じのひと俺と一緒にする気かお前ら」
士「まだまだ続くぞ！」

【仮面ライダーディケイド〜スンプラの世界】

関係のないセリフ+「変身!」は割愛していきます

(6話)

「アホか!」

「——じゃあユウスケ、さっさと逃げるぞ!」

「ああ!いきなり宇宙空間に出て死亡、はない!」

「決まってるだろう!」

(7話)

「寝起きの八代に比べれば可愛いもんだ。行くぞ!」

(15話)

「アホかお前はあああつ!」

「……財布は持ち歩かないのかお前はつ!」

(16話)

「なんだ!おい!」

(22話)

「……おおおおつ!」

(23話)

「言わないといけないことは分かるよな!?はい、大きな声で!」

「…悪いことをした時の、謝り方はつ!」

(31話)

「日本円に例えるならいくらだ!」

「…よくないだろうがああつ!」

「それが最低かつ!?それが最低なのかつ!?そんな大金を持たせ

るお前の親は何なんだ!!?」

(33話)

「つて、言ったそばから俺を巻き込むなあああ!」

(39話)

「……おい、…なんだこの甘さはあああつ!!?」

「ユウスケエエー!」

(42話)

「——お前らが移動すればいいだろ!」

(43話)

「どわあつ!?!」

「こら、モモタロス!……とりあえず俺の体から出ろ、戦えん!!」
「この時モモタロスに乗っ取られてます」

「モモタロス、根性で残れよ!——出るとしたら、今から2秒後だ!!!」

「…黙つとけバカモモ!」

(49話)

「今、俺と共に行動していることだ!」　いいこと言ったのですが、
割愛しました

(50話)

「ゼルダ、ちょ、…俺を手伝ええええええー!!!」

「Σおおいつ!?!」

「「……ドッペルゲンガあああああーツツツ!!?!」」
シヨウヤさんと絶叫

(51話)

「Σ効いただろあの踵落とし!？」
「そついうことにしておけっ!」

(65話)

「おい!」
「待てッ!」

(66話)

「どっちも違う!アギトだ!」
「ちっ!何なんだ、あいつは!？」
「相当面倒な奴だな!」

(67話) ここからソウジのせいで酷いです

「ア・ギ・ト・だ!」
「くそっ!ただでさえ手強い相手に、速さがついたらつくづく厄介だぞ!？」

「……戻ったという事か!」
「お、おい、何か仕出かす気じゃ!離せ!」
「作るって何をだ!？」

「——なんでそんな時間の掛かるものをーッ!?!？」

「『すまない』で済んだら俺は要らんッ!」

「何故お前達は翻訳できる!?!それ以前に…まだ何かを作るのかお前はーッ!?!」

(70話)

「貴様はアホかああああっ!？」

(71話)

「俺を呼ぶなアアアッ!」

「やめろおおお！」

「分かったのかッ！？つか、あいつらの言葉喋れるのかお前は！」

「長い長い長すぎるわあああッ！？」

「俺に意見は聞かないのかッ！？」

（72話）

「ちよっちよちよちよ…待てエエエエーッ！！？」

（73話）

「…っだああああー！」

「『蒸れた』って問題じゃないッ！なんだ、この夏休みの工作的な変装道具はっ！？これに騙される敵も敵だー！」

「一気に突破するぞ！」

（74話）

「おい、何で分かるんだ！？」

「どわっ！？」

「こんな大掛かりなものを浮かせというのかお前はああッ！？」

「『ぎゃああああーッ！？』」 カズマと一緒に叫んでいます

「ソウジ以上におかしい…つか、どうしたらそんな発想になるんだああああー！？」

（76話）

「ちよつと待て！お前、俺やユウスケの中に入っても駄目だっただろ…悪いことは言わない、シンジの体から今すぐに出ろ！！二重…ああ、カズマも足して三重の意味で後が怖い！！」

「嘘だろおおおおおー！？」 カズマと一緒に叫んでいます

（79話）

「しかも、相手は間合いを選ばない！最悪だろー！！」

「チートだ、もはやチートだ！」

（８０話）

「できるんかいっ!？」

「カズマ!…そしてまたかドッペルゲンガー!？」

「そこじゃないぞツッコミどころはっ!?!…お前は本当に、どこまで都合よくできているんだ!？」

（８１話）

「おい、『ぶち開ける』とか物騒な言葉を使うな!安全策だ、安全策!！」

「いいんかいっ!？」

（８２話）

「ソウジ貴様ああああ!？」

「分かっているッ!」

（８３話）

「ソウジ、自力で何とかしろ。つか、できるだろお前!？」

（８４話）

「「「やれよ!」「」」 異世界一家が叫んでいます

「…ああああああああー!！」

（８７話）

「「「たこ焼き!」「」」 「変身!」の代わりの掛け声です

「おい馬鹿、生地まだ用意してないぞ!」

（９０話）

「——人をリーダーにするな貴様はっ!」

(93 話)

「危なくなったら退け、大木すべて超能力でへし折って…奴に投げ
るッ！」

(95 話)

「——来るぞ！」

「タイプが分かってても、どうするんだ！？時間を自由に使えるチー
トを相手に！！」

(96 話)

「だが、残りはどうするんだ！？」

(99 話)

「——だあああつ！俺のくせにいい加減黙れええつ！？」

「……どこぞの馬鹿だ！馬鹿ソウジだ！！アンウン以上に記憶か
ら消し去ってやりたいほど奴の存在は否定したいさコンチクショウ
！！！！」

「いいだろうとか思っているだろ！？ああそうだな、俺だからな！
そう思うのは当然だな！！所詮俺は俺ということだ！！！！」

(107 話)

「進化する魂！仮面ライダーアギト・シャイニングフォームッ！！」

(108 話)

「……俺はタクミじゃないからはつきり言わせてもらおう、…いつ
誰がお前の友になったあああッ！？」

「——やあめろおおおお！！」

【仮面ライダーディケイド&スラブラ〜もう一つのコア大戦】
面倒なので、一部抜粋で逝きます

(6話)

「——ここは何処だああああーッ!!?」
「お前は…!っじゃあ!」

(9話)

「ああ、くそ…多すぎる!スマツシユシティでの混戦時より人数が
少ないから、余計に感じられる!!」
「だああっ!?!エクシードギルスもそうだったが…アギトに変身し
ている時は、何故が要らん超能力が使えないんだッ!」
「ちゃんと戦ってるだろ!?!」
「……き、さ、ま、らああああああっ!?!」

(14話)

「——ぎゃあああああああ遂に来たあああああああ!
!?!」
「——出たああああッ!?!」
「…いや、待て。何でここに置く。何故俺の近くに置く!」

(15話)

「——なんだこの状況はああああー!?!」
「何がだ!?!」
「おいっ、何をしているんだ!?!」
「そんな体で戦う気か!……カズマ達の所に行け、危なっかしいが
…人間一人守るぐらいはできる!」
「——死ぬ気かッ!」

(16話)

「は!？」

「いや、ちよつと待てえええ!？何だその、『後は若いもの同士ゆつくりと』なノリは!あつ、鍵閉めるなああッ!！」

「お前はどれだけ目が悪いんだ!これが楽しそうに見えるか!？」

「顔と腹何処がいいか決めたか!？」

「決めるよ3秒以内だ!」

「よし俺の顔面……つてアホかあああッ!俺が俺を殴ってどうする、お前だ!お・ま・え!！」

「ああ、遠慮なく……つてお前が殴るのか!？俺だ俺が殴るんだ馬鹿があああ!」

「アホかあああッ!!？」

「……あいたた……。何でお前の過去話を聞くのに、友達にならないといけないんだあああッ!？」

「お前を友達にするぐらいなら聞かん!絶対聞かん!……聞かないからそのまま寝とけ!？」

(17話)

「俺を呼ぶなあああ!？」

「ぎゃあああああッ!？待て、待ってくれ、俺のベルトは自動呼び出し式なんだ!」

「呼ぶからドリルしまええええ!？」

「やあああめろおおおお!？」

「やめてくれマジやめてくれ!」

「ぎゃああああああー!？」

「ぎゃああああッ!やめろ、肉を抉る光景が思い浮かぶうう!！」

「戻るな!ああああ戻らないでくれ、内臓抉らないでくれええええ!？」

(51話)

「——そうじゃないだろ。お前のお陰で救われた人間は、必ずいる……キノコタウンの奴らがそうじゃないのか！お前がいたから、大怪我もせず救われたんだろぅが！！」

(54話)

「——おおおおおおっ！」

「——青いの痛みを、あいつを目の前で失ったソウジの苦しみを……知れええええっ！！」

「……が、……あああああっ！！」

「……う、が、——ああああああっ！？」

「……っ……俺は、何を……何をしていたんだ……ッ！——ああああああああっ！！？」

(56話)

「……俺に……触るなあああっ！」

「……ああああああああああっ！！！」

「……お前は……馬鹿かつ！？」

「……お前は馬鹿だ、大馬鹿だ、超馬鹿だ！変身できたからいいものの、あんなことしやがって……火傷はモノによつては一生残るんだぞ、貰い手なくなるぞ！！」

「——友達にでも何でもなつてやるから、もう無茶すんな馬鹿野郎ッ！？」

「——三度目は白紙撤回するぞコノヤロウ！？」

「だから……泣くなーッッッ！？」

(71話)

「……つたり前だ！こちら、一年もの間アンノウン相手に逃げ続けたんだぞ！？」

「容赦しないぞ！つか、するか！！」

「食つなよお前はッ!？」

(76話)

「今更何を言っているんだ!それに、……お前以外にあいつを倒せる奴はいない!!見ろ!!」

「理由は知らないが大体察しもつく。……あいつは、お前のことを本気で好いていたんだ!」

「だが!——このままだと被害が拡大するどころか…タナトスの思うがままになる。エグルも救われなくなるんだぞ!!」

「それに、お前はあの時俺に言つたよな。『自分が責任を取る』と…エグルのことに關して、自分が責任を持つと!今それをしないで、何時する気だっ!？」

(82話)

「連れてきてたんか!？」

(100話)

「そうじゃないだろ、お前、自分の世界に帰ったんじゃないのか!？」

「招待!?何のだ!」

「ちよい待て、お前、何で俺の個人情報知って…コラアアアッ!？」

士「…」

夏海「かなり、叫んでいますね」

ユウスケ「微妙なの多かったけどな…」

ショウイチ「……！」↑つか人のトラウマをよくも、と叫びたげに暴れる

ソウジ「……」

映司「どうしたんですか？」

ソウジ「……絶叫しないショウイチなんて……ただの芦河だ、ただのモブAだ……！」

ショウイチ「……！！！」↑触手出しながら床叩きつけて文句

ユウスケ「ショウイチさん、落ち着いて！」

サゴーズ「動くだけでもギャグだね、この人」

ワタル「ギャグの住人が言いますか？」

ブトティラ「ただいま！」

ブラカワニ「コヒューコヒュー」↑死にかけ

タトバ「親父……お帰り」

シャウタ「……棺桶、用意しようか……？」

ショウイチ「……！！！」↑棺桶かよ、とツツコミたげな顔で暴れる

ソウジ「……叫ばないショウイチなんて……ただの、……ただの空気……orz」

ショウイチ「……んだどゴルアアアアアッ！！？」

カズマ「やめてショウイチさん！喉大事にして……！」

シンジ「つか、……ソウジさん、あんたも人を刺激するなあああ……！」

士「……正直、シンジの方が叫んでいそげな気がするの……は気のせい……か？」

海東「結構雷落とすからね」

シンジ「…聞こえてるぞ」

士海「…はっ！？」

…ズガアアアッ！

…ドンガラビツシャーッ！！

…バリバリダー！

士海「…」↑消し炭

シンジ「…ったく…！」

オーズ兄弟（（あの人怖えええええええッ！！？）（）

プトティラ「きゅーん；；」↑怖がった

ブラカワニ「あー、まだ鼓膜が…」

Fileウナギ・芦河絶叫事情（後書き）

次回予告

海東「あ、あれ……ここにあった僕のお宝は！？」

エイジス「お宝？」

海東「ああ。：飲んだ人間を10cmに縮めてしまう薬なんだ。」
エイジ「なんでそんなものを!？」

エイジ「なんでそんなものを!？」

「シャウト……嫌ああああ！Gイイイイイイイイ！」

G 「カサカサカサ」

オーズ兄弟「ぎゃーっ！？」

映司「だ、誰か殺虫剤！」

シャウタ「……早く次の日になって……orz」

タジャドル「…俺は別に、このままでもいいんだが」

「シャウタ、なんで!？」

Fileタコ：シャウタの一日 10cm

Fileタコ：シャウタの一日10cm

シャウタ「……ああ、暑い……喉が渴いた……」

ショウイチ「夏だしな……」

シャウタ「なんで夏にNOVEL大戦しようって思ったの！？凄く疑問なんだけど！」

ショウイチ「俺に聞くな！……ん？」

シャウタ「どうしたんですか」

ショウイチ「なんだ、この飲み物」↑テーブルにあった瓶指差しながら

シャウタ「さあ……カルピスみたいなもの、ですかね」

ショウイチ「名前も書いてないし……。誰のか分からない以上、勝手に飲まないほうがいいな」

シャウタ「ですね」

ショウイチ「あー、麦茶でもないものか……」

士「——あつつ……ん？何だ、この瓶」

シャウタ「あ、士だ」

士「これ、お前のか？」

シャウタ「いや、違うけど……」

士「なら……飲んでも文句なさそうだな。名前も書いてないし」

シャウタ「ちょッ、それでもし誰かのだったら！？……言っておくが、妖怪辰巳シンジ或いは小野寺ユウスケのだったら……死ぬぞ！」

士「だったら、中に麦茶でも入れておけばいいだろ」↑瓶開ける
シャウタ「駄目だって!？」

士「離せ!俺は今すぐにでも飲みたいんだああ!！」

シャウタ「駄目!」

士「お前の一日企画、【一日風俗接待】にするぞ!？」

シャウタ「なんでやねん!」

——ぼーん…↑瓶が宙に放り投げられる

士シャウ「…え」

ショウイチ「あー、生き返った…おーいシャウタ?お前の分の麦茶注いできたぞ…いないのか」

海東「うう…誰、テニスしようなんて言ったの。お陰で王環エイジの手からすっぽ抜けたテニスのラケットが、顔にめり込みっぱなしだよ……」

ユウスケ「よく生きていられるよな…毎回思ってる上に、人のこと言えないけど」↑顔面にテニスボールめり込み

エイジ「俺はテニスすら満足に出来ないのか…orz」

エイジ「いや、俺は面白かったからいいんだが」↑エイジとタツグだったお陰で無傷

海東「折角、あのお宝を使おうとしていたのに…予定が狂ったけど、……え?」

シヨウイチ「お前ら。シャウタ知らないか？」

エイジ「いや…」

エイジス「シャウタがどうかしたのか？」

シヨウイチ「それがだな…」

海東「あ、あれ…ここにあった僕のお宝は！？」

エイジス「お宝？」

海東「ああ。…飲んだ人間を10cmに縮めてしまっ薬なんだ…」

エイジ「なんでそんなものを！？」

海東「嫌だな、僕がそんなものを使う理由なんて一つしかないじゃないか！」

ユウスケ「…土を縮める気が、それとも自分が縮める気か」

海東「前者だね。小さくなった土の様子を観賞する…楽しくないかい？10cmの人間を見るのって！！」

シヨウイチ「正直どうなんだ！？」

エイジ「…やべえすっげえ可愛い」↑小さいプティラ妄想した

エイジス「…欲しい」↑小さいシャウタの脳内受信余裕

シヨウイチ「お前らの発想マジやばい！」

ユウスケ「あ、でも、小さいクウガとかいいだろうな…！クウガ俺だけだ」

シヨウイチ「その場合は…リンクに頼んでみればいいんじゃないか？」

「？？」——い、おい…」

「？？」——けて…」

海東「ん？」

ユウスケ「シヨウイチさん、お迎え呼びました？」

シヨウイチ「誰が呼ぶかああ!？」

エイジス「…テールの下から聞こえないか？」

エイジ「あ、本当だ」

士「——おいっ！助けてくれ!!」

シャウタ「…なんか知らないけど、体が縮んだんだああ!」

ユウシヨウ「ええええええー!!?」

海東「あつ、…ヤッター！労せず10cm士GETだ!!」

エイジス「ミニマムシャウタアア!」

エイジ「え、薬残ってないの!?ちっちゃいプティラ欲しいんだけど!!?」

ヒナ「——ちょっとお兄ちゃん、何の騒ぎ？」

タトバ「それと、シャウタ知らない？」

エイジ「あつ、ヒナ、…かくかくしかじか」

ヒナ「これこれうまうま…って、……ええええええー!!?」

}}}

シャウタ「きゅーん…」↑コップの後ろに隠れている

ラトラーター「すげー、ちっさい」

ガタキリバ「ねんどろいど見てるような感覚だな、ガタツクの家で

しか見たことないけど」

プトティラ「シャウタちっちゃい！」

サゴゾ「…なんか、俺、自分のコーナーが不安になってきた」

タジャドル「よく考えれば、ガタキリバぐらいだよな…自分の興味ある職業体験できたのって」

タトバ「って言うか、…シャウタで職業体験来ないって…まさか」

明確な夢と趣味がないからです（あと、ラトラーターに取られた）
同種の映司と一緒に何かさせようとも思いましたが、思いつきませんでした

シンジ「…バーカ」

カズマ「チーズのバーカ」

ショウイチ「正直、バーカ」

ソウジ「こら、馬鹿とか言ったら可哀想だろう。ここはマイルドに、

…アホだ」

士「マイルドじゃねえよ！」

ユウスケ「それでもバーカ」

タクミ「どうしようもなくバーカ」

海東「小さくなって罵られる士…最高だよ！」

エイジ「…薬が残ってないとか、——小さいプトティラああ…！」
映司「そんな問題ですか！？」

アंक（個人的には、こいつが小さくなった姿が気になる）

ヒナ（…小さくても怪力なんじゃない？）

エイジ「とりあえず、効果はどのくらいもつんだ？」

海東「そうだねえ…士達は瓶の中身がかかって、更に多少口に含んだから…量にもよるけど、一日以上は掛かるんじゃないかな」

士「そんなにか!？」

シャウタ「そんなああ…orz」

海東「だって、これ本来は水で薄めて飲ませる奴なんだよ?それを微量とはいえ、原液のまま飲むなんて…うつつ」

エイジス「成程、——原液を薄めた水を飲ませ続ければ、ずっと小さいままでいられるもんな?」↑疑わしい目で海東見る

海東「な、何を、言っているん、だい。そ、それは、自分がやりたと思ったことじゃ…」

ソウジ「目をまっすぐ見て話そうか?」

シンジ「説得力ないぞナマコ」

カズマ「シャウタどんまい」

シヨウイチ「…一緒に冷蔵庫まで連れて行けばよかったな…」

シャウタ「うつつ…」

士「俺は!？」

タクミ「知りませんよ」

???「…カサカサ」

シャウタ「!？」

映司「どうしたの?」

シャウタ「いま、何か、…いた…」

エイジス「気のせいだろ。とりあえず、喉渴いただろ…水飲むか?」

シャウタ「…」↑コップ見上げながら

エイジス「すまん」

ラトラーター「スポットであげる?」

タトバ「やだよ!？」

プトティラ「ちっちゃいのないの？」

ユウスケ「…夏海ちゃんがいいたら、小さい頃のおもちゃにないかなーって思ったけど…」

カズマ「お皿に注いだら？」

シンジ「ペットか!」

ソウジ「お猪口ならあるぞ？」

全「…それ借りまーす」「」

シヨウイチ「いや、何で持ち歩いてるんだよお前!」

シャウタ「…ふー」

プトティラ「ちっちゃいシャウタ可愛い!」

エイジス「だろ!？」

エイジ「いや、プトティラだって…プトティラだって原液さえ残ってれば…!」

映司「二人とも落ち着いて…まあ個人的には、他の小さいコンボ見たいなあって思うけど」

オーズ兄弟「…!?!?」「」

アंक「どうでもいい!アイスだ!」

ソウジ「はいはい。…あ、皆の分もあるぞ」

シャウタ「…嫌な予感が」

シャウタ「——でつすよねー」↑アイスを同じ視点から見ながらガタキリバ「そういえば、小さい頃、『小さかったら少ないおやつでもお腹いっぱいになるんだろうなあ』って思ったことあるなあ」
タジャドル「スプーンで掬ってやるから、それ食べる」

プトティラ「うー、俺がやる！やりたい！！」
タジャドル「はいはい」↑スプーン渡しながら

プトティラ「シャウタ、おいしい？」

シャウタ「…うん」

エイジス「俺もやっていいか？」

プトティラ「いいよ！」

エイジス「あーん」

シャウタ「…あーん…」↑赤面

エイジ「プトティラ、あーん」

プトティラ「あーん」

映司「…………ラトラーター、あー…」↑対抗意識
ラトラーター「落ちていてひのつち！？」

シンジ「はいカズマ、あーん」

カズマ「あー」

ソウジ「ショウイチー」

ショウイチ「誰がするかああ！？」

ユウスケ「タクミ君、余っちゃったから俺達でやろうか」

タクミ「えええ…？」

士「おい、俺は！？」

ユウスケ「——海東に介護されるよ」

海東「スタンバイはOKだよ！」

士「ユウスケエエエ！？」

????「カサカサカサ」

シャウタ「ひうつ！？」

ガタキリバ「どうした、さっきから」

サゴーズ「なんか感知したの？」

シャウタ「な、何だろう、口に出したくもないものがあるような……」

G「……カサカサカサ」

シャウタ「…嫌ああああ！Gイイイイイイイイ！！」

G「カサカサカサ」

オーズ兄弟「「ぎゃーっ！！？」」「」

映司「だ、誰か殺虫剤！」

ガタキリバ「やめてえええええ！俺が死ぬ、俺まで死んじゃうううううううう！？」

エイジス「マスケツト！」

ユウスケ「撃つの！？」

エイジ「召喚、メダガブ……」

ヒナ「やめてええええ！」

プトティラ「ぷつきゅい！」↑プテラ能力発動

G「↑氷結

全「「Σあつ、プトティラが倒した」」「」

プトティラ「ぷっ！」↑窓からG投げ捨てる

タクミ「たーまやー」

ブラカワニ「——ぎゃーん！？」↑凍ったG直撃

ソウジ「…外にいたお父上に当たってるぞ、プトティラ」

ブトティラ「パパアアン！ごめんなさあああーい！！；、□；、」
ブラカワニ「…パパン大丈夫ー…」
シヨウイチ「すげえ親バカ根性…」

シャウタ「ぐっすぐっす…」↑大泣き

映司「もしかして、G嫌い？」

シャウタ「はい…ひっく、あと、……お化けとか…蛇」

映司「…すっごい気持ち分かる！」↑蛇嫌い

アंक（こいつらブラカワニのことどう思ってるんだろうな、正直…）

（その夜）

夏海「そんなことになっていたんですね…」

ワタル「まったく、そんな面白いものがあるなら早く出せばいいのに…」

アスム「それで、土さんやシャウタは？」

ソウジ「風呂だ」↑風呂上りの枝豆食べながら

シヨウイチ「ま、土に関してはあのサイズの服がないから…」↑同じく枝豆類張る

カズマ「夏海ちゃんの借りちゃった」↑コーヒー牛乳飲みながら

シンジ「…」↑牛乳飲んでる

海東「土あああ！何故逃げるんだい！？」

土「逃げるわあああ！？それ、ナツミカンが小さい頃遊んでいた玩具の人形の服だろー！！？」

ユウスケ「これしかないんだよ！いいから着ろー！！」

士「ぐああああ…シャウタが羨ましいイイイ！」

シャウタ「…風呂がでかい海みたいになっている…」

タジャドル「アヒルちゃん使うか？タトバのだが」

シャウタ「あー、疲れたら使う…」

タジャドル「しかし、風呂でその感覚なら…スマツシユシティ王城の風呂はどう感じるんだろうな？」

シャウタ「もはや完全に海だろ…」

プトティラは先に、ガタキリバと一緒に体を洗ってしまったので部屋でぶーたれてます

シャウタ「…早く次の日になって…orz」

タジャドル「…俺は別に、このままでもいいんだが」

シャウタ「なんで!？」

タジャドル「だってお前、普段から自分が他人の世話を焼くばかりで…他人に世話を焼かれることはないだろ」

シャウタ「う、」

タジャドル「プトティラもそうだが、普段お前の世話をするなんて誰もしないから…新鮮なんだろうな」

シャウタ「…絶対面白がつてるだけだろ…」

タジャドル「面白がつてるだけなら土みたいな扱いだぞ?…あー、王環とエイジスは微妙だった」

シャウタ「……」

タジャドル「小さくなるのも、他人に面倒見てもらうのも普段じゃあまりできないんだから、楽しんだらどうだ？」

シャウタ「……うん」

ラトラーター「あ、やつと上がった」

プトティラ「シャウタ大丈夫!？」

シャウタ「…のぼせました」↑湯気出てる

プトティラ「きゅうううう、シャウタアア」

ガタキリバ「うわっ、大丈夫か!？」

サゴーズ「もー、シャウタもタジャドルもいつもの感覚で長風呂しないですよ!？」

タトバ「えーと、団扇…団扇」

ブラカワニ「扇子ならあるよ？」

コンボ兄弟「…何で!？」

タトバ「…大丈夫?」↑扇子パタパタ

シャウタ「きゅー」

タジャドル「すまん…」↑プトティラに右肩齧られてる
プトティラ「がうがう!」

映司「風呂上りにコーヒー牛乳飲む? 勿論、他の皆も」

サゴーズ「あ、いただきまーす」

ラトラーター「やつぱ風呂上りはこれだよな」

ガタキリバ「いや、お前1時間前にサゴーズと入っただろ」

タトバ「ま、いいんじゃない…?」

タジャドル「あれ、シャウタの分は?」

映司「あつ、そういえばお猪口洗っちゃったから…コーヒー牛乳はまだ余ってるから、注いで来るよ」

タトバ「ふうん。じゃあ、先に飲んでおこうか」

プトティラ「ぷう」

海東「——ねえ！？誰か、二本目の【ミニママ薬】知らない！？？」
カズマ「は！？まだあったのか！！？」

ショウイチ「お前、マジで土に飲ませる気だっただろ……」

ソウジ「昼間に転がっていた瓶と一緒にものなら、さっき、台所で見たぞ？」

海東「ええっ！？」

オーズ兄弟「「ぎゃあああああー！？」「」

プトティラ「きゅーう！」

ブラカワニ「：マイ息子達イイイ！？マイペットオオオオオー！」

ユウスケ「どうしたんですか！？」

シンジ「一体何が」

ブラカワニ「じ、実は……」

タジャドル「——なんっじゃこりゃああああー！？」

ガタキリバ「え、ちょ、……ええ！？」

ラトラーター「すげえ！俺達まで小さくなった！！」

サゴーズ「何がどうなってんのおお！？」

タトバ「ちょっ、誰か、説明してえええ！？」

プトティラ「皆ちっちゃくなった！」

ブラカワニ「——皆小さくなっちゃって……」

ワタル「よく無事でしたね！？」

ブラカワニ「だってコーヒー牛乳好きじゃないし…」

映司「あ…、……チツ…ブラカワニさん逃した…」

全「「お前かあああ！？」」「」

アंक「映司お前黒すぎるわあああああ！？」

エイジ「だが…G」、火野！ちっちゃいプティラをありがとう！
！」

エイジ「おい！…いや可愛いからいいんだけど…！」

映司「だって…こうなったら他の皆も小さくしたい、って思うのが
普通じゃないか…！」

ヒナ「トリプルエイジちよつと黙ってなさい！」

シャウタ「…皆…」

タジャドル「くっそ…映司マジ覚えてろ…！」

ラトラーター「ひのっち、何でその発想もうちよい早めにしないの
…？」

ガタサゴタト「「そこかい！」」「」

プティラ「皆ちっちゃいからシャウタと一緒にだね！」

シャウタ「…そうだな、皆、ちっちゃいな」

映司「で、…小さくなったタトバ達と寝れば完璧だと思うんだ！」

エイジ「ちょ、シャウタとタジャドル俺が貰っても…」

エイジ「俺はプティラとサゴゾー！」

映司「じゃあ俺は…タトバとガタキリバとラトラーターで！」

全「「こいつら…」「」」

アंक「変な所で欲見せるな！？」

ブラカワニ「待って、せめて一人パパンにちょうだい!？」
ヒナ「なんで!？」

映司「じゃ、タトバで」

ブラカワニ「Yes！」

ヒナタト「おい!」

海東「じゃあ…士も今日は僕の布団で」

士「嫌だああああ!？」↑結局着せられた

ユウスケ「…皆ー、今日の部屋割りには…ワタルと俺とアスム君、シ
ンジさんとカズマとタクミ君、ショウイチさんとソウジさんとブラ
カワニさん、トリプルエイジ、ヒナちゃんと夏海ちゃんで」

士「おい待て!」

ユウスケ「海東、…Fight」↑そそくさと撤退

海東「今日の小野寺君は眩しいよ!」

士「…今日のユウスケ最悪だああ!？」

全員、次回には元に戻りました

Fileタコ：シャウタの一日10cm（後書き）

次回予告

夏海「あることに気付いてしまいました…」

ユウスケ「どうしたの？」

夏海「…ライダータウンのシンジさんと、コア大戦のシンジさん。

どちらが強いのか…！」

シンジ「なんでええええ！？」

鳴滝「ふふふ…デイケイド、今日が貴様の終わり……ぼぐらっぱあ
ああ！？」

Ｌ龍騎「うわああああ、ごめんなさい！？誰か知らないけど！」

ソウジ「Lostシンジ、ナルタンポを間違えて焼いたー！」

シヨウイチ「もはや混沌としているな！」

Ｄ龍騎「……ムツコロー♪」

Ｒ龍騎「ふふふ…真っ赤な血が燃え滾るー♪」

龍騎「…お前らそろそろ自重せんかあああ！？」

Ｌ龍騎「うわああああん、どっちの世界の俺も嫌あああ！？」

Fileサイ：四つ巴？龍騎大戦TATHUMI

B 龍騎「——お前らな……」

クアトロ 龍騎「「「!?」「」」」

B 龍騎「出番の殆どを城戸さんに取られた……俺の身にもなってみやがれえええ!!!?」

ソウジ「…分岐シンジキター!」

Fileサイ：四つ巴？龍騎大戦TATHUMI

夏海「……」

映司「あれ、夏海ちゃん何してるんだろう」

ユウスケ「これまでの小説を読破してるんだって…」

エイジス「は！？それって、完結したものだけ…だよな！？」

ユウスケ「残念ながら、……全部」

映司「えええ…ちょっと待って、小説って作者の書いてる小説全部読むとしたら…未完結品も含めて、えーっと？」

ソウジ「作品ごとに文字数を言うのは面倒だが、代表例で【ディケイド&スマブラ】もう一つのコア大戦】はトップクラスの61万9668文字…予期せぬピタリ賞は【平成VSDCDドッジボール大会！】の5万7000文字だな」

エイジ「ちなみに俺の出ている【仮面ライダーディケイド 000の世界】は12万文字だ」

ショウイチ「つまり？」

ソウジ「全作品、7月28日現在の文字数は269万2675文字…読了目安時間に換算すると」

映司「——約5385分！？」（小数点切り捨てです）

エイジス「一日は24時間、一時間は60分で…分に直すと24×60＝1440分…三日と375分読んでいる計算になるぞッ！

？」

夏海「…よ、読み終わりました…！」

映司「べ、別に【記者と誕生と仮面ライダー】は読まなくてもよかつたのに…」

エイジス「おい主人公！」

夏海「うう…でも、よく分かりました…：自分がいかに空気が」
エイジ「それだけが収穫って悲しくないか…？」

夏海「ですが、あることに気付いてしまいました…」

ユウスケ「どうしたの？」

夏海「…ライダータウンのシンジさんと、コア大戦のシンジさん。どちらが強いのか…！」

シンジ「なんでええええ…！」

ユウスケ「確かに、結論として何故そうなったのか知りたい…」

夏海「いいでしょう…：どうせなら、【Lost memory of the RYUKI】や【平成VSDCDドッジボール大会！】でのシンジさんも含めて話をしますと…」

シンジ「含めるなあああ！」

*ライダータウンの辰巳シンジ

・妖怪

・毎回出番がある

・タツミドラグシンジレッダー

- ・いつも何かしらのトラブルに首を突っ込む
- ・トライドベンダーすら制する

*ディケブラシリーズの辰巳シンジ

- ・初期までは一般人と言い切れたが、回を追うことに一般人離れしていく

- ・ミュウツー単独撃破
- ・終末サゴーズ
- ・ヤマタノドラグレッダー
- ・龍騎SV激情態
- ・全人類のファイナルベント
- ・お母さん

*Lostの辰巳シンジ

- ・まだ一般人
- ・オーデインを倒す
- ・戦闘慣れしている蛇腹タケシこと王蛇を圧倒
- ・ヤンデレの濃い回があった
- ・オルタナティブ・ゼロ経験あり
- ・そもそも、正体ばれるまでは単独でミラーモンスターと戦っていた

*ドッジボールの辰巳シンジ

- ・凶悪的混沌神
- ・カズマが彼に喧嘩売れる&貴重なツッコミ
- ・驚異的回避率の城戸真司を討ち取った
- ・スカルの股間にボールを当てる暴挙
- ・一人だけぬけぬけと弁当を食べた
- ・ボール状態のクウガ（五代）とアギト（芦河）を両手に持って投げた

夏海「これだけの凄まじい個性、そして、戦闘能力…彼らがぶつかり合えばどうなると思います！？」

士「普通に世界が終わるな…」

海東「デイケイド要らないよね、ってぐらいにね」

???「ふっふっふ…」

タクミ「誰ですか！？」

鳴滝「話は聞いたよ夏海くん…ならばこの預言者・鳴滝が、その願いを叶えてやろうじゃないか」

夏海「えっ！？」

シヨウイチ「待て！……そんなこと言って、各世界の辰巳シンジの戦いに士を巻き込ませてあわよくば殺す算段だろう！？」

カズマ「シンジ使うの禁止！」

ソウジ「…【分岐されし未来】のように、自分で戦ってみたらどうだ…？」

鳴滝「それが出来たら苦労せんわ！」

シンジ「しろよ！俺を巻き込むな、ややこしくするな、どうせやるならソウジさん対決させる！！」

全「…それも駄目えええ！！？」

一人だけ“フリーズ”を使えるヘラクレスワームになったソウジがいるので、却下されました

鳴滝「それでは…異世界の辰巳シンジよ、我が元を集え…そしてデイケイドを倒すのだ！」

全「…やっぱり！」「」

——ギューイイイーン…

鳴滝「ん、何だ、このバイクお」↑トライドに轢かれた
映司「Σトライドベンダーッ!？」

Rシンジ「呼ばれて飛び出てジャジャジャーン」
士「トライドベンダーに乗ってやって来たああ!？」

海東「あつ、そうか…アレは【おいでよライダータウン!】の辰巳
シンジだ!！」

夏海「知ってます!確か、『35話:バース・トラブル!』でカウ
ボーイごっこしたという…」

ショウイチ「つか、あのネタ、…懐かしい…」

ソウジ「くしゃみをしたら戻るんだろうか」

カズマ「あくびじゃね?」

シンジ「ぐああああ!いきなり最強最悪の奴がああ!？」

鳴滝「ま、まあいい、いで…ゴブハアアア!？」↑ドラグレッダー
に突進された

Dシンジ「ぱっぱー(クラクシヨン音)」

夏海「アレはドッジボールのシンジさんですね!」

シンジ「史上最低の奴までえええ!」

鳴滝「ぐ、ぐふつ、だが…これ以上は…ナイトメーアーツ!？」

↑上から落ちてきた人物に踏み潰された

Lシンジ「うわっ!？」

カズマ「いらつしやい、Lostシンジ!」

Lシンジ「え?いや、…あつれえええっ!?!ここ何処!?!？」

ショウイチ(こいつ一番まともだな)

ソウジ(ただしヤンデレ発症時を除く)

Lシンジ「しかも、何で同じ顔がたくさん!?!…いつの間にストレ

ンジ「トリックベントしたっけ…!？」

カズマ「むしろアドベントだよ」

ショウイチ「ただし犯人は、あの納豆巻きだ」

ソウジ「頑張れよ」

Lシンジ「何を!？」

Dシンジ「お前キャラ被る嫌い」↑Rシンジと取っ組み合い

Rシンジ「うつせコート of 悪魔」↑Dシンジと取っ組み合い

シンジ「やめんかああ!？」

Dシンジ「ところで、レンさんは？」

Rシンジ「レンさん、レーンさん」

Lシンジ「あ、そうだ、そういえばレンさんと仕事…」

シンジ「……………」

士「おい破壊神…じゃなかった、終末サゴゾ。羽黒レンのことだぞ」

シンジ「…あつ、……そうだった!」

全「「忘れてたの!？」」

シンジ「ごめん…何故か普通にそのこと考える余裕がなかった……」

Dシンジ「ねーレンさんどこ？」↑鳴滝の首絞めつつ

Rシンジ「レンさんはー？」↑鳴滝のイチモツ握りつつ

鳴滝「ボギヤアアアアア…」

ショウイチ「痛い!見ただけで痛い!？」

ソウジ「おお」

Lシンジ「…レンさんと取材だったのに…何てことを……」

カズマ「Lostシンジ!怒りに任せちゃ駄目だよ!」

Lシンジ「いやそんな物騒な真似しませんよ!？」

カズマ「OO」

「シンジ」Σ何で呆けてるんですか!？」

カズマ「シンジガケイゴオレニケイゴツカッタ○○」

ユウスケ「シンジさんに敬語使われてカズマが放心状態になってる
ー!？」

タクミ「あー、そうか、Lostのシンジさんって他と比べてカズ
マさんとの新密度が低いんだ…」

士「高すぎて一瞬レンを忘れるのも、考え物だけだな」

D 龍騎「レンさんは何処おお!」↑鳴滝にローキック

R 龍騎「レンさん何処だああ!」↑鳴滝に追撃キック

鳴滝「↑虚ろな目

海東「うわっ!？既に变身してる!」

夏海「はっ…待ってください!ここは写真館ですよ!？」

D・R 龍騎「…んなの知るかああ!」

夏海「えええええー!？」

映司「…そりやそうか…!」

アंक「おいつ、逃げるぞ!？」

エイジ「くっそ…こういう時、【エクシスク】バイト組とオーズ兄
弟が羨ましいいいい!」

エイジス「文句言っな、後あいつらは世界のため頑張ってるんだ!」

本日、オーズ兄弟は災害の起きた場所の復興作業を手伝っています
ちなみにプティラとパパンは散歩です

——ドガアアアン!!↑写真館大破

夏海「…写真かあああん!？」

シヨウイチ「おい…俺対策に改造しておいて、いとも簡単に壊れたぞ…?」

タクミ「相手は辰巳シンジですよ…?」

シンジ「それどういう意味だ!」

D 龍騎「レーンさあああーん!」

R 龍騎「ぐあああー!」

ソウジ「もはや世界の終焉の始まりだな」

シヨウイチ「おい、これ、マジでHeaven'sのお前連れてきた方がいいんじゃない…」

ソウジ「……あ?」↑冷たい目

シヨウイチ「すいませんでしたッ!?!」

カズマ「ソウジさんがマジギレした!?!」

シンジ「…怒りたいのはこっちだ…、……人と同じ顔で好き勝手しやがって、シスと大差ねえ…」↑Vバックル装備

シンジ「え、ちょ、あの、」

龍騎「——お前ら…地面に這い蹲れえええ!?!」

シンジ「うえええええええー!?!?」

R 龍騎「おらお前もこっちこーい」

D 龍騎「カモン!」

シンジ「えええええええええ!?!?」

カズマ「とりあえず、自分の身を守る意味でも変身した方がいいよ…?」

シンジ「何ですか!?!」

カズマ「ヤッパリコノシンジチガウオレノシッテルシンジジャンイ
…○○」

Ｌシンジ「また放心した！？」
ショウイチ「他はともかく、ライダータウンのシンジはやばいぞ！
？何故ならあいつは…」

R龍騎「俺と城戸さん以外の龍騎はいりません」
『STRIKE VENT』

R龍騎「燃えろー！」
龍騎「おっと！」↑回避

Ｌシンジ「うわあああああ！？なんでー！！？」
ソウジ「…前に一度、オリジナルであるはずの秋山蓮に向かって『
ニセナイト』と発言したほどの排他主義（ただし龍騎とナイト限定）
なんだ」

ショウイチ「しかし、その妖怪タツミシンジに存在を認められて
いる城戸って…とことんおかしいよな」
士「自分の身を守る意味でも、変身しろよ」
Ｌシンジ「…なんでこんなことにッ！？」↑でも変身する

鳴滝「ふふふ…ディケイド、今日が貴様の終わり……ぼぐらっぱあ
ああ！？」

Ｌ龍騎「うわああああ、ごめんなさい！？誰か知らないけど！」
ソウジ「Lostシンジ、ナルタンポを間違えて焼いたー！」↑実況
ショウイチ「もはや混沌としているな！」↑実況
カズマ「その一方で、D龍騎とR龍騎の戦いは激しさを増しており
ます！」↑実況
ユウスケ「いやあ…これは誰が勝つか分かりませんね」↑解説

D龍騎「もーえろーよ、もーえろー」↑ドラゲクロー装着

龍騎「こつの…」

『GUARD VENT』

龍騎「…バカチンがあああ！？」↑ドラグシールド投擲

D 龍騎「ガードベント！」↑近くにいた鳴滝ガード

鳴滝「ぎゃーッ！？」

シヨウイチ「おおっと、D 龍騎版…『近くにいたお前が悪い』！これは有効だ…！」

ユウスケ「何処でどうカードや見物人、鳴滝さんを使うかが鍵ですからね」

L 龍騎「Σ見物人も使うの！？」

士「待てよ、ってことは…」

D 龍騎「いえーい！」

R 龍騎「…ストライクベント！」↑土足蹴

士「ぎゃああああ！？やっぱり俺達も武器にされるんじゃないかああああ！？」

D 龍騎「おっと」↑避けた

士「ぐあああああああ！？」

龍騎「邪魔！」↑回し蹴り

士「ごふっ！？」

D 龍騎「……ムッコロ」

R 龍騎「ふふふ…真っ赤な血が燃え滾るー」

龍騎「…お前らそろそろ自重せんかあああ！？」

L 龍騎「うわあああああん、どっちの世界の俺も嫌あああ！？」

ソウジ「気持ちは分からもない」

シヨウイチ「まあ、真に一番集まって欲しくないのは、……まだいるから」

龍騎「本気でぶつ倒す！その後にシスに差し出す！！」

『STRIKE VENT』

Ｌ龍騎「シスって誰！？」

龍騎「…その前に灰になれええええッ！！」

Ｌ龍騎「灰にして差し出すんですかああッ！？」

ユウスケ「ナイスツツコミ！」

『STRANGE VENT』

『CONFINE VENT』

龍騎「…あ、あれ？」

ショウイチ「どういうことだ？ドラグクローが消えたぞ…」

カズマ「……あれ、そういえば、夏海ちゃん…よく考えればあのシンジ忘れてない？」

夏海「写真館…写真館が……消し炭に…orz」

映司「…灰になるよりいいと思うよ？」

エイジ「で、“どの”辰巳シンジなんだ？」

カズマ「——総てのリイマジが消滅した中、ユウスケ同様、消えずに残っていた…しかしその出番の殆どは、管理者・城戸真司として扱われた……」

B龍騎SV「——お前らな…」

クアトロ龍騎「「！」「！」「！」「！」

B龍騎SV「出番の殆どを城戸さんに取られた…俺の身にもなってみやがれえええー！！？」

ソウジ「…分岐シンジキター！」

シヨウイチ「しかも何気にサバイブだああッ!？」

分岐のシンジは一人称が「僕」ですが、今回はヤンデレに加えマジギレしているので「俺」扱いです

B 龍騎SV「お前らはいいいなあ…? 【辰巳シンジ】という個体で個性を得られて!だが…だが俺は…どう足掻いても【城戸真司の代用品】なんだよおおおお!？」

L 龍騎「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい…!」↑土下座

D 龍騎「で?」

R 龍騎「また龍騎増えたーこんなに要らないー」

龍騎「アホ言ってる場合かああッ!?...ああ、もう、マシな俺存在しないの!?!？」

L 龍騎「Σ俺ノーカン!？」

B 龍騎SV「——うつせええええ!滅びる個性のある辰巳シンジ
イイイイイ!！」

『FINAL VENT』

シヨウイチ「おい!あれ、もう危ないぞ!?!巻き込まれる!！」
ソウジ「確かに…」

カズマ「うえーい!うえーい!？」

ユウスケ「み、皆、逃げろおおッ!？」

士「いや、まだまだ…俺達には、最強の生存フラグがいる!」

エイジス「は?」

士「神器・レーヴァテインガードッツ!！」

エイジス「おいコラアアッ!？」

B 龍騎SV「うおおおおお…!!」

——ズドガアアアアン!!

B 龍騎SV「なっ…!?!」

E Sブラカワニ「……あッぶな…おいもやしイイイ!ブラカワニなかつたらどうする気だああああッ!?!」↑DFS直撃したけど生きてる

全「「「すっげえええええドラゴンファイヤーストーム耐えたああああ!!?!」」」

士「冗談だったが、しかし、これで確定した…エイジス。……お前死ぬの無理だな」

E Sブラカワニ「ぐあああああ…!orz」

ソウジ「で、アレはどうやって止める?」

クアトロ龍騎「「ギヤースギヤースギヤース!」」」

映司「はいカズマ」↑ドライバー渡す

アंक「任せたぞ!」↑メダル渡す

カズマ「うえい!」

…ドドドドドド…

D 龍騎「ん?」

R 龍騎「何これ?」

L 龍騎「物凄い地響きが…」

龍騎「まさか…」

Kガタキリバ「…シンジ喧嘩やめてー！！！！」×500

D・R・L龍騎「…ぎゃあああああ！！？」

B龍騎SV「何あの軍団超怖い！？」

龍騎「やっぱりカズマかああッ！？」

——うえーい！

——うえー！

——うえええーい！

D・R・L龍騎「…チーン」↑数の暴力に負けた

B龍騎SV「何あのチート」↑上に同じく

龍騎「…うちの子なんて子」↑例に漏れず

士「…500バカキリバの突進凄すぎだろ」

ソウジ「そうだなあ…」

シヨウイチ「よく考えれば、カズマガタキリバって相当のチートじゃないか…？」

映司「それは正直思いました、けど…」

エイジ「……レヴァのブラカワニに比べたら、なあ…」

エイジス「…なんで…なんで俺は死ねないんだああああ…！！！！
orz」↑まだ立ち直ってない

Fileサイ：四つ巴？龍騎大戦TATHUMI（後書き）

次回予告

ピット「えー、3DSでは近々【神・光神話パルテナの鏡】が発売されます」

タジャドル「いいことじゃないか」

ピット「です、が、」

サゴーズ「…が？」

ピット「——神器の中に【豪腕】と呼ばれるものがあるのはどういうことだ」

エイジス「俺は“狙杖”だな」

リンク「俺は“撃剣”」

ピット「性格出てますね」

エイジ「“破掌”だな！」

ピット「いや、あなたがそれ使ったら普通の打撃で敵がヤラレちゃツタじゃないですか!？」

タジャドル「——総てを打ち抜く！虹の軌跡…受けてみる!！」

ラトラーター「…厨二臭ああああ!？」

ピット「こらーッ！破掌で遊ぶな、破掌でえええ!！」

Fileゴリラ…公式豪腕ピット君

リンク「ピット、むしろ、豪腕をゴリバゴーンのように飛ばしてみたら!？」

ピット「本気でムッコロしますよあんたは!？」

Fileコリラ：公式豪腕ピット君

ピット「えー、3DSでは近々【神・光神話パルテナの鏡】が発売されます」

タジャドル「いいことじゃないか」

ピット「です、が、」

サゴーズ「…が？」

ピット「——神器の中に【豪腕】と呼ばれるものがあるのはどういうことだ」

士「……ブッ!？」

海東「ぶふっ!？」

ユウスケ「…つぶ」

ワタル「……」

アスム「…ぶ」

ピット「おいそこ5人、全員尻出せ尻」↑豪腕装備

リンク「やめてピット、それで殴ったら尾てい骨粉碎するから!」

エイジ「いや、それで殴らなくても粉碎するんじゃない?」

ピット「あんたに言われたくないですよ!？」

某5人「」「」「」↑ヤラレチャッタ

エイジ「懐かしい……」

映司「そうなんですか？」

エイジ「10年以上ぐらい昔のゲームだからな。黒画面に『ヤラレチャッタ』はシユールの極みだった」

ピット「まあそれはさておき。本日のスピノフの題材は、3DSに備えて【神器】の学習をしましょう」

エイジ「…作者が買うかどうかすら分らないのに?」

ピット「それを言うな」

リンク「でも、体験版とはいえ、……スターフォックス64がどへタな作者だからなあ……」

パルテナ『というわけで、今回は特別に神器を貸し与えましょう』

全「『ありがとうございます』」

映司「……?」

ユウスケ「どうしたんですか?」

映司「あ、いや、……どこかで聞いたことのある声だなんて」

パルテナ『マーキュリーパワー、メイク、アープ!』

全「『それだあああっ!!?』」

リンク「…汝のあるべき姿に戻れ!クロウカード!!」

パルテナ『よっしゃ!ようやったなあ、さくら!!』

全「『それもだー!!』」

ピット「パルテナ様が関西弁!!?」

映司「あ、思い出した!」

アंक「何をだ……」

映司「——まず、パルテナ様とピット君にはそれぞれこのタクトを

…」

パルテナ『？』

映司「で、……………」

ピット「…後で覚えていてくださいね♪」

映司「…はいどうぞ！」

パルテナ『プリ。ユア、フローラルパワー… フォルティッシモ！』

ピット「プリ。ユア！ダークフォルティッシモ！！」

全「…それもだったああああ！！？」

ガタキリバ「…すいません、サインください！！」↑アニメ好き

ピット「おいコラ」

プトティラ「…おねむしていい？」

ブラカワニ「プトティラ、もうちよつと頑張つて起きてな、多分ここから面白くなるから」

リンク「あーっと、プトティラがつまらなくなって寝ようとしてる」

ピット「よし、寝る前にさつさと神器について説明するか」

シャウタ「説明も気をつけないと、プトティラ、寝るぞ…？」

ピット「大丈夫です、リンクさんを使って実験して見せるので」

リンク「Σえええー！？」

ガタキリバ「いやったー！」↑パルテナからサイン貰った
ラトラーター「いいなー」

パルテナ『それでは、まずは【撃剣】からです』

ピット「撃剣は、射撃・打撃の両方に優れバランスのいい武器です。汎用性重視の神器で、いかなる局面でも役に立つオーソドックスなものですな」

エイジス「ほう……」↑撃剣ぶん回し
エイジ「危ない、危ない!？」

パルテナ『続いて、【射爪】』

ピット「フットワークの軽さが魅力的で、急接近してからの連続打撃が可能。射程は短いですが、随一の機動性でフォローします」

ラトラーター「なんかこれ、トラクローみたいだな」

ピット「トラと一緒にすんな」

パルテナ『今度は【神弓】。形状がスマブラとは違いますが、そこは気にしないでください』

ピット「弧を描きながら飛ぶ光の矢を放ち、射程も長く、長距離戦に向いてます」

プトティラ「ぷきゅー……」

シャウタ「ああ、プトティラがあくびをし始めた……」

ピット「寝るな」↑もはやメデューサ以上の悪オーラ

プトティラ「!?!？」↑飛び起きた

パルテナ『次に紹介するのは、【破掌】……虹色ですが決してピットの中にタブーがいるとか、某波導の勇者から得た能力ではありませんよ?』

ピット「ま、ぶつちやけて、右腕に変な紋章が付きます。決して厨二武器ではないです、邪気眼でもないです」

ガタキリバ「……」

ラトラーター「……」

サゴーズ「……」

シャウタ「……はあ」

タジャドル「おい!何で俺を見て溜息をつく!？」

タトバ「だって……」

プトティラ「きゅー。タジャドルくしゃい」

ブラカワニ「否定0」

リンク「——解説に戻りますと、手の平から波動弾を放つ神器で、その誘導性はまるでルナトリガー……」

士「一番分かりやすい例えだ、ありがとう」

パルテナ「今度は【爆筒】です」

全「……」

エイジス「何故一斉に俺を見る!？」

ピット「この神器は、ターゲットや地形に着弾すると爆発を起こし、周囲の敵を巻き込みます。爆発のタイプも様々ですが……まあ、その差異はプレイしてお確かめください」

パルテナ「続けては【衛星】……ちゃんとした神器ですよ?」

ピット「両肩に浮かび上がる2つの玉のような物で、高射程の弾を発射します。こんな風に」↑発射

鳴滝「——ぎゃあああー!？」↑300m先にいたのに被弾

ピット「ちなみに、遠距離であればあるほど高威力です」

パルテナ「本題の【豪腕】は、接近戦特化の神器です」

ピット「本題って何ですか、本題って。……射程はかなり短いものの、追い詰めたターゲットは逃しません」

海東「射撃に期待できないのがちよつとねえ……」

リンク「ピット、むしろ、豪腕をゴリバゴーンのように飛ばしてみたら!？」

ピット「本気でムッコロしますよあんたは!？」

スクリーンショットを見る限り、ガチでバゴーンプレッシャーも
ときができるようです

パルテナ「最後は【狙杖】……見た目は杖と言うより、マスケットで

す」

全「『マスケット…！？』」

エイジス「俺を見るな―ッ！―」

ピット「ズバ抜けて高い射撃姓を持ち、超遠距離のターゲットを狙い打つことができますが…その反面弾に誘導性はなく、接近されると脆い弱点があります」

士「大丈夫だ、何処かの銃火器は…凍らされても生きていた！」

エイジス「撃つぞ！」

パルテナ『さて皆さん、神器については分かりましたね？』

プトティラ「もう寝ていい！？」

パルテナ『まだです』

プトティラ「きゅーん…」

パルテナ『神器にはそれぞれ、【飛距離】【脚力】【軌道】【誘導性】と呼ばれる要素があります…まあ、確かに説明を聞くだけでは退屈なので、実際に使ってみましょう。先着8名様ですよ』

全「『先着！？』」

エイジス「俺は“狙杖”だな」

リンク「俺は“撃剣”」

ピット「性格出てますね」

エイジ「“破掌”だな！」

ピット「いや、あなたがそれ使ったら普通の打撃で敵がヤラレちゃツタじゃないですか！？」

ソウジ「“射爪”だな…」

シヨウイチ「じゃ、俺“爆筒”」

ラトラーター「はい、俺“衛星”がいい！」

士「“神弓”だ！」

映司「ちょ、何で誰も“豪腕”取らないの!？」

パルテナ『——決まりましたね』それでは、早速やって行きましよう』

映司「ええええええええ!？何で俺!！?」

アंक「神器の名前を宣言したからだろ、馬鹿が」

パルテナ『まずは飛距離。とりあえず…火野映司さんと、ラトラーターさん。適当に打っちゃってください』

映司「Σ適当!？」

ラトラーター「同時の方がいい?」

ピット「なるべく同時に」

映司「うー、重いこれ…」

エイジ「鉄拳天使の武器だぞ、当たり前だ」

(ただいま天罰中…)

エイジ「……」↑ヤラレチャッタ

全「」「馬鹿だろお前……」

ピット「はい、“破掌”に空白出ましたー。誰かやりたい人ー」

タジャドル「…はい」

シャウタ「えー…」

タジャドル「なんだその反応!？」

パルテナ『はい、シュート!』

映ラト「「セイヤーッ!」」

鳴滝「ごくつぱ!？」

ワリオ「…ぎゃひー!？」

映司「——あれっ、ラトラーターの衛星凄く遠くにいるワリオに当

たつた!？」

パルテナ『同じタイミングで撃ったとしても、射程距離に差が出るものです』

映司「……豪腕って二つつけたら、本当にバコーンプレッシャーで
きそうだな……」
ピット「……」

(天罰中……)

映司「↑ヤラレチャッタ

士「短い間に、ヒオウティンコンボが壊滅状態……」

エイジス「おい!」

パルテナ『さて、次は脚力! 天堂ソウジさんと芦河ショウイチさん、
スタートラインについてください』

ショウイチ「何故だああ!？」

パルテナ『スクリーンショットでの実証が射爪と爆筒だったので』

ショウイチ「orz」

夏海「メタいですね……」

ユウスケ「ショウイチさん……悪縁凄すぎる」

リンク「位置について、よい……ドン!」

ソウジ「……」

ショウイチ「くっそ……これ重すぎるだろおお!？」

パルテナ『このように、神器によつては重くて機動性に欠けるが高火力なものと…軽くて素早く動ける者に分かれます』
士（というより、元々ソウジってかなり足速そうな気が…）

パルテナ『続いて軌道…本来なら射爪・爆筒組にもう一回…となるところですが、今回はあえて狙杖と破掌で行いましょう』
エイジス「言うことは、俺とタジャドルか」
タジャドル「で、…この…間にある壁のようなものは？」
パルテナ『実証に必須なものです』

パルテナ『では、エイジスさん。その状態のままで打ってみてください』

エイジス「何？…だが、この状態だと相手に当たらないだろ」
パルテナ『そう。——狙杖は直線的に弾が飛ぶため、障害物に遮られると脆いですが…逆に破掌はほぼオートで弾が飛ぶので、障害物に遮られません』
士「そりゃそうだ」

パルテナ『では、…実際に撃ってみましょう』
エイジス「はああああ！？マジか！」
タジャドル「ちょ、それは流石に…」

プトティラ「ぷつきゅい」↑爆筒でタジャドル狙撃
タジャドル「ぎゃーっ！？」

シャウタ「タジャドルーッ！？」
プトティラ「おもしろいね！これ…！」

シャウタ「こら、プトティラ！エイジスに当たったらどうするの！

「！」
タジャドル「……いや、それも待てえええ！？」

パルテナ『最後は誘導性：軌道と少し同じ解説になりますが、まずはリンクさん…撃ってみてください』

リンク「よつと！」

ワリオ「ブゲゴブガフ」

パルテナ『撃剣は照準どおりに弾が飛ぶ、一点集中型になっています。それでは、もやしさん…次はあなたです。あ、できるだけ照準は変な方向で』

士「門矢士だ、覚えとけ！？」

ワリオ「ゴブ」

鳴滝「げふ」

ウルフ「ピチューン」

海東「なっぱッ！？」 ↑ 巻き添え

タクミ「ぎゃーっ！？」 ↑ 上に同じく

リンク「タクミいいい！？」

アスム「ししょおお！？」

パルテナ『神弓は多少、照準から外れていても…その周辺にいる敵に飛んでいきます』

士「ほう、確かにこれは便利…」

リンク「他はともかく、タクミと海東さんは普通に駄目だろおお！！」 ↑ 豪腕発射

アスム「うわああああああん！」 ↑ 衛星追撃

エイジス「…シュート！」↑狙杖で更なる追撃
士「ゴフッ!？」
ピット「見事なコンボですねえ」

〃
〃
〃

パルテナ「さて、新・光神話パルテナの鏡では…マルチプレイも可能なんですよ」
ピット「簡単に言うと、敵チームの天使をムッコロせば勝ちの、単純明快なルールです」
パルテナ「それでは…実際に3VS3+大将1人ずつでやっていただきましよう」

Aチーム

大将：ブラカワニ（衛星）

・海東大樹（撃剣）

・ワタル（射爪）

・アスム（豪腕）

海東「ちよっ、接近戦ばかり!?!そして直線系ばかり!?!?」

ワタル「だって、爆筒重いじゃないですか」
アスム「すみません、これが手に馴染んで…！」
ブラカワニ「皆、パパンが倒れたら負けって分かってる？」

Bチーム

大将：エイジス・レーヴァティン（狙杖）

・タジャドル（破掌）

・プトティラ（爆筒）

・シャウタ（神弓）

エイジス「勝ちに行くぞー」

プトティラ「おー！」

シャウタ「ふふふふ…親父イ……覚悟しろよ…」

タジャドル「俺達の苦労の日々によって溜まった恨み、まだ残っているんだぜ…？」

プトティラ「…あまりパパン泣かせないでね？」

タジャシャウ「…」

エイジス「本気で殺るのは諦める。プトティラ、かなりブラカワニに懐いているっぽいから」

パルテナ『それでは、レディ…ファイッ！』

ピット「楽しそうですね！？」

アスム「障害物は壊せばよし！はああー…！」
ーがつきーん

アスム「…この壁硬いッ！？」

ワタル「なんですかこれ、カズマですか!？」
海東「うわっ、相手の攻撃来た!」

タジャドル「——総てを打ち抜く!虹の軌跡…受けてみる!」
ラトラーター「…厨二臭ああああ!？」

ピット「こらーッ!破掌で遊ぶな、破掌でえええ!」
タジャドル「……レインボー・アーチ虹の架け橋ッ!」

ガタサゴタト「…メチャクチャ厨二病だああああ!？」
海アスワタ「…わーっ!？」
シャウタ「ホントすいません、こんな兄で!？」

ブトティラ「きゅーい!ぷきゅーい!」↑爆筒乱射
アスム「わああああ!？」

ワタル「なんで誰も、誘導性のある武器を選ばないんですか!？」
海東「しかし、障害物さえなければこっちが有」

エイジス「ファイア!」↑狙撃
海東「利」↑撃たれた
アスム「ししょおおおお!？」

ワタル「うわーっ、まだ来る!」
シャウタ「それっ!」
アスワタ「ぎゃー!ぎゃーっ!？」

——ピリリリリリ!

ピット「……ストップ!何か一方的なので、武器の交換を要求します!」
タジャシャウプト「…ええー!」

海アスワタ「「やった!」」
パルテナ「それでは…」

・エイジスの狙杖 プトティラの爆筒

・シャウタの神弓 海東の撃剣

・ブラカワニの衛星 タジャドルの破掌

・アスムとワタル 士とタクミ

パルテナ「——ファイツ!」

リンク「いやいや、駄目ですって!?!」

ピット「リンクさん煩いですよ」

リンク「そりゃ煩く言っよ!?!」

海東「やはり、こういうトリッキーな武器の方がいいね!」↑神弓
乱射

シャウタ「うわわ!?!」

プトティラ「ぷうう… シャウタ虐めるのだめー!」

タジャドル「しかし、こっちが逆に一直線武器多くなったからな…
!」

プトティラ「Σあきゆ」↑飛ぼうとしたら落ちた

タジャシャウ「プトティラアア!?!」

海東「チャンス!」

エイジス「王環と映司が怖いので」↑爆筒発射
海東「あふん!？」

士「ぎゃあああ!？」↑巻き添え
タジャシャウ「だった、天性の狙撃手がいた!」

ブラカワニ「レインボーアーチツ!」↑波動弾発射
シャウタ「やめんか恥ずかしい!」
プトティラ「パパンカッコいい!」
タジャドル「……なんだその扱いの差はああ!？」

タクミ「くっ…重すぎる…!？」

リンク「やつぱ、ピットとアスム君が異常なんだ」

ピット「あんたも死にたいんですね、リンクさん？」

リンク「あまり早くに死にたくはないかなー、せめてエイジスより
10年早く死ぬ程度には生きたい」

エイジス「——おいそこの16歳!21よりも早死にすると
言うか!？」

ピット「当主の希望享年によりますね」

エイジス「とりあえず…60歳」

ピット「……リンクさん、最低でも90歳まで生きられますよ!」

リンク「うーん、やつぱそのぐらいが打倒かな」

エイジス「……100以上生きるような見積もりするなああつ!
?」↑爆筒発射

ピット「回避!」↑スライドパット弾き

リンク「その場緊急回避！」↑Z＋下

鳴滝「——オウノーツ!?」↑直撃

リンク「あ、何か当たった」

ピット「別にいいんじゃないですか？」

パルテナ「それでは、皆さん、【神・光神話パルテナの鏡】をお楽しみ」

Fileゴリラ：公式素腕ピット君（後書き）

次回予告

士「なんでもいいから始まるぞ！ほら、入れ！！」

サゴーズ「うへえええ…まさかのタジャドルパターンとか…！」

サゴーズ「むしろ、活動報告生活時代でのキャラをそのまま保って
いられるシャウタやタジャドルのほうが異常なんです」

相談者A「やはり、この先生き残るにはキャラ付けなんですね…」

サゴーズ「ぶっちゃけちゃうとそうです」

士「…なんか大変なことになってきてるな」

ヒナ「でも確かに、救いは欲しい…」

アंक「だが、脚本家はタイムレンジャーの奴だぞ…？」

後藤「それでも信じるんだ！きっと、奇跡（『MOVIE大戦』は
起こると、信じて…！！」

Fileゾウ：サゴーズの一日シスター

Fileソウ・サゴソの一日シスター

——ここは、ある町に建てられた小さな協会…

士「本日はこの協会に懺悔しに来る奴らの悩みを聞く…シスターのお仕事をお前に任せよう！」

サゴソ「なんでえええええー!?」↑シスターキャップ被りながら士「白いから」

サゴソ「せめて無色か、銀と言ってえええ!?」

士「なんでもいいから始まるぞ!ほら、入れ!」

サゴソ「うへえええ…まさかのタジャドルパターンとか…!」↑でも入る

サゴソ「シスターの仕事って、教会の掃除とかお祈りぐらいだと思ってたけど…」

サゴソ「ああ、せめて、時代劇は無理でも演技とかそっいうのしってみたかったかも…」

相談者A「…シスター、私の話を聞いてください」

サゴーズ「（うわっ、来た！）………どうかしましたか？」

相談者A「実は僕、最近、悩みがあるんです」

サゴーズ「どうぞ……」

相談者A「………出番がないんです」

サゴーズ「へ？」

相談者A「…出番がないんですよおお！どの作品においても、僕はいつもフェードアウトされるか基本的に適当な扱いで………ディケブラなんて、…一番…合流が一番最後おお！！」

サゴーズ「ちよつと落ち着いてえええ！？」

相談者A「酷いと思いません！？ワタ…いえ某W氏はそれなりに出番があつたのに！僕だけ…僕だけ！！」

サゴーズ「落ち着いてー！」

サゴーズ「ぜえぜえ……。………確かに、存在感を放つ人間の方が話にしやすいですよ……」

相談者A「やつぱりそうなのでしょうか……」

サゴーズ「まあ、俺も」

相談者A「……シスターなのに『俺』なんですか？」

サゴーズ「…すいません、私も…キャラの濃い兄弟に挟まれ………末っ子共々肩身の狭い思いをしているんです」

相談者A「はあ……」

サゴーズ「後、メタイこと言わせてもらいますが、キャラ付けなんて後付けと同類なんです。プティラだって…初期は今のようによい愛げがあつたわけじゃないんですよ」

相談者A「あー……」

サゴーズ「むしろ、活動報告生活時代でのキャラをそのまま保って
いられるシャウタやタジヤドルのほうが異常なんです」

相談者A「やはり、この先生に残るにはキャラ付けなんですね……」

サゴーズ「ぶっちゃけちゃうとそうです」

相談者A「……だったら、僕はどうなれと言っんですか？鬼畜王子に
ヤンデレ妖怪、おバカGVに弄られ狼……絶叫アギト一年生にフリー
ダム教祖、拳句の果てにカレー軍曹……この強烈なキャラの中でど
う生き残れと!？」

サゴーズ「……それだけ個性が混沌としているなら、逆に、そのま
まのほうが強烈だと思います」

相談者A「え？」

サゴーズ「タトバを見ていると、思っんです。……『無個性も個性』
なんだって」

相談者A「無個性も個性……分かりました。とりあえずそのま
まの道をつっ切って、無理だったら、ツッコミで人の腹にパンチ叩
き込むキャラにしていきたいと思います」

サゴーズ「ああ……疲れた」

相談者B「——シスター、俺の話を聞いてくれ」

サゴーズ「（もう!？）……なんでしょうか」

相談者B「……俺、死にたいんです」

サゴーズ「ええっ!？」

相談者B「いや、流石に今すぐとかじゃなくて……普通に歳を取って、
天寿を全うして死にたいなあ……って」

サゴーズ「いや、人間であるなら大丈夫ですよ?……アンデッドは
別として」

相談者B「……アン、デッド」

サゴーズ「はい？」

相談者B「……あまりにも死亡フラグを回避しすぎて、アンデッド扱いすらされてきているんだああああ！」

サゴーズ「はいっ!？」

相談者B「俺はただ、普通に生きているだけなのに！これといってグリードというわけでもなければ……改造人間でも、オルフェノクでも、アギトでも、アンデッドでもドーパントでもない……普通の人間なのがいいいいいい!？」

サゴーズ「落ち着いて!」

相談者B「拳句の果てには……ブラカワニ適合が発覚・攻撃力を代償に守備力と回復力が強化！このお陰で一層死なくなり、『死なないキャラ』という扱いが加速……」

サゴーズ（ある意味凄い!？）

相談者B「更には！最近では死亡不可ブラカワニというあだ名をつけられてしまう始末……それ以前では、銃火器シャウタとか……!」

サゴーズ（あ、この人……分かつちゃった……）

相談者B「なあ、どうやってたら死ねるんだ！教えてくれシスター!」

サゴーズ「……えーっと、上手くは言えないんですけど、きっと神様は……『あなたはここで死ぬべきではない』と言っているのではないのでしょうか？」

相談者B「……随分と非科学的だな……」

サゴーズ「実際、あなたには夢や目標があるはずですよ。それを叶えるためにも、簡単に死ぬわけにはいかないでしょう?」

相談者B「……ああ」

サゴーズ「だったら、何があっても生きて、それを達成すればいいじゃないですか。……それに……死なないってある意味凄い個性だと思います」

います」

相談者B「そうか…分かった、すまないシスター。……とりあえず、享年60歳を目標に生きてみる」

サゴーズ（——ごめん、100以上は生きそうな気がする）

相談者C「…シスター、俺の懺悔を聞いてください」

サゴーズ「あ、やっとお悩み相談室にならなくて良さそう…」

相談者C「ん？」

サゴーズ「あ、いえいえ、続けてください」

相談者C「……俺は…とんでもない過ちを犯してしまいました」

サゴーズ「（なんだか重そうだなあ…）何をしたんですか？」

相談者C「…俺のせいで、……知り合いのスラブファイターの出番が極端に少ないことです」

サゴーズ「へ？」

相談者C「俺、自分で言うのもなんですけど、……一人だけ出番総数凄いいことになってるんです」

サゴーズ「あ、はあ…」

相談者C「同じぐらいの時期に、レギュラー的な出番をしていたファイターが二人いたんですが…そのうちの一人は、……話の展開に放置されて空気になっていき…」

サゴーズ「…はあ」

相談者C「もう一人は、…一旦フェードアウトしたかと思いきや鉄拳キャラで持ち直し、またちよつと空気なるかと思いきや電王になつて危機を回避……」

サゴーズ（鉄拳で誰なのか分かつちゃいましたよ!?)

相談者C「でも、他の皆は…俺が殆どのライダーを担える後付け設定がなされたばかりに、他のファイターが仮面ライダーになる機会はなくなり…続編ではライダー批判派のせいで全体の印象が悪くなる一方。それでも俺は、…安定した位置にいました」

サゴーズ「いや、——あの『スマブラファイター何あれ最悪』の状況で好印象持たれたままって言うのはいいほうかと…」

相談者C「いえ、ファイターにはもつといい子はたくさんいるんです！ネスとか、リユカとか、ピカチュウとか、プリンとか、ポケットレ君とか、アイスクライマーとか、ロボとか…」

サゴーズ「子供ばかりですね！？ロボットは知りませんけど！」

相談者C「でも…俺にはかり出番が割り振られているせいで、彼らにスポットが当たることではなくて…！」

サゴーズ「あー、つまり、自分のせいで皆空気なんじゃないかと」
相談者C「はい…」

サゴーズ「いや、それ、——ぶっちゃけ作者の力不足です」

相談者C「えええ…！？」

サゴーズ「一作目はむしろあなた中心じゃないとやばかった感じがする上に、殆ど石になってたじゃないですか…そして復活しても、強烈なインパクトを残せたのって、ゲームウオッチぐらいじゃ…」

相談者C「あー、ゲームウオッチは凄いですよ」

サゴーズ「続編に関しては、…キャラが多すぎて纏めきれない上にキャラ付けも殆ど面倒だった部分があったんじゃないでしょうか…」
相談者C「すっごい身も蓋もないですよ！？」

サゴーズ「つまり、……自分を責めないでください。責めるなら、作者です」

相談者C「——ええええええ…」

サゴーズ「ああもう、結局お悩み相談所だよ……」

相談者D「……シスター、いいでしょうか」

サゴーズ「なんですか……？」

相談者D「……俺、夢を持てないんです」

サゴーズ「夢を……？」

相談者D「はい。……夢とか、考えたことがなくて、……でも……俺には上に4人、下に1人兄弟がいるんですけど……皆、夢を持っていて」
サゴーズ「夢って言うのは、すぐ見つかることじゃないですよ。ゆつくりと考えていけば……」

相談者D「でも、ゆつくり考えすぎると、……独りになった時……何を生きがいにしていけばいいのか分からないんじゃないかって」
サゴーズ「へ？」

相談者D「俺、家族に少し……っていうかかなり依存していて。家族の世話を焼くことで、自分のことから逃げてきていたんです」

サゴーズ「……」

相談者D「自分の進路とか真剣に考えてなくて、どうしたらいいのか」

サゴーズ「……夢って言うのは、簡単に見つけられることはないんです。それに至るまでの積み重ねもあるけど、たった一瞬のきつかけもありえる」

相談者D「……シスター？」

サゴーズ「お……私の夢は、……実は……ある人に喜んでもらいたいから目指しているものなんです」

相談者D「ある人？」

サゴーズ「いつも家族のことを大事に思ってくれていて、家のことをやってくれる人。その人には凄く感謝しているけど、同時に、そ

の人に任せっきりの自分が嫌で」

相談者D「シスター……」

サゴーズ「だから、もしも私の夢……いつか柔道で金メダルを取れたら、その人にこれまでの感謝の気持ちも込めて……金メダルをかけてあげたいんです」

相談者D「（し、シスターが柔道？）……そ、そうなんですか」

サゴーズ「夢って……自分のためになるものも含まれるんですけど、私は、誰かのために叶えたいって夢でもいいと思うんです。あなたは……家族が大好きなんですよね？」

相談者D「……はい」

サゴーズ「だったら、その家族を喜ばせたい夢を持ったりするのもいいと思います」

相談者D「……もし、ですけど、『お前の幸せが俺達の幸せ』なんて言われたら、……どうすればいいんでしょうか」

サゴーズ「その時は、自分が本当にやりたいと思うこと。これさえできれば幸せなんだ、って夢を考えればいいと思います」

相談者D「分かりました……」

サゴーズ「ところで、趣味とか得意なことはあるんですか？」

相談者D「強いて言うなら料理とか……」

サゴーズ「だったら、料理で家族や皆を幸せにしてみる、って夢もいいかもしれませんよ」

相談者D「……ありがとうございます」

サゴーズ「うーん、さっきの相談者、誰かつぱかったんだけど……誰だろ？BさんとCさんしかまともに分からないや」

相談者E「……失礼します」

サゴーズ「は、はい。…それで、あなたのお悩みは？」

相談者E「え？懺悔じゃなくて…？？」

サゴーズ「すいません！手前まで、お悩み相談室だったもので…！」

相談者E「…まあ、したいのは相談だったんですけど」

サゴーズ（あ、やっぱり）

相談者E「あの、——人間からグリードになるって何なんでしょう…」

サゴーズ「はい！？」

相談者E「…俺、ガセだって信じたい。でも、でも、…グリード化するってバレが流れていて…しかもそれは、夏映画がマツケンと共演であることを明らかにした児童誌からので……！」

サゴーズ「えっ、そんな早くからバレ出たんですか！？ってかその児童誌欲しかった…！」

相談者E「……しかも、何か、真木さん……あ、いや、…Mさんのほうがカツコよくて…でも俺のってなんか無色で…ゴツイって言うかゴツイ飛び越してあれ王環さんグリードでおかしくないよなっ感じがの奴で、あと、……あとアंक……違う！Aさんと戦うみたいな……しかも自分の意思で人間に戻れないって完全な詰みゲー状態で……！！」

サゴーズ「Σそこから先黙ってもらえませんか！？火野さん！」

サゴーズ「で？」

相談者E「…人間からグリードになるって、何なんでしょう…」

サゴーズ「うーん…でもまあ、グリードになったとしても…困っている人がいたら手を伸ばしていけばいいのでは？」

相談者E「でも、バレ見る限りだと…自我残ってないっばいんですよ…」

サゴーズ「奇跡を信じましょう！それに、世の中には、……未だに shout out が本編で流れることを期待している人達がたくさんいるんですから！短冊に書きちゃった人も、最低二人いるんですから！！」

相談者 E「……そう、ですかね」

サゴーズ「絶望しなくても、どこかに希望はある……そうじゃないと悲しすぎるじゃないですか！」

士「……なんか大変なことになってきてるな」

ヒナ「でも確かに、救いは欲しい……」

アंक「だが、脚本家はタイムレンジャーの奴だぞ……？」

後藤「それでも信じるんだ！きつと、奇跡（MOVIE 大戦）は起こると、信じて……！！」

サゴーズ「ふう……」

相談者 F「シスター……」

サゴーズ「はい、どうしました？」

相談者 F「——近々、仲間ができそうなんです」

サゴーズ「よかったですね。どんなお仲間なんですか？」

相談者 F「グリード」

サゴーズ「……は？」

相談者 F「人間からグリードになった仲間なんだ！同じ恐竜グリードなんだ！……待ちに待った同類なんだああ……！！」

サゴーズ「あんたもグリードネタか！まさかとは思うけど、火野さんか火野さんのことなのかああ……！」

相談者 F「で、相談と言うのは……」

サゴーズ「何なんですかもう！」

相談者F「…俺達、トリプルエイジorヒオウティンコンボという総括名がつけられているんですが…」

サゴーズ「で？」

相談者F「ヒオウティンのティンに当たる奴、人間なんですよね」

サゴーズ「あー…エイジスかぁ」

相談者F「——どうやったらあいつ、グリードにできると思います？」

サゴーズ「は！？」

相談者F「だってそうだろう！？俺と火野がグリードでレヴアだけ人間って…可哀想だろ！」

サゴーズ「いやいや、可哀想じゃないです！むしろ、グリードにしたら彼の望みは永遠に断たれる気がして恐ろしいんですが！！」

相談者F「…あいつの場合、グリードにするなら水棲系か！？」

サゴーズ「なんでそうなる！？」

相談者F「いや、あいつならいけると思うんだ、シャウタベースで水棲系！無理なら、爬虫類でもいいんだ！！」

サゴーズ「仲間欲しいんですかあんたは！？」

相談者F「……うん」

サゴーズ「すっげえ正直に言いましたね！？もし火野さんのグリード化が回避されたらどうするんですか！？」

相談者F「——もう一回グリードに」

サゴーズ「するなああ！！」

相談者F「…だってもう寂しい思いしたくないんだ…一人で自己嫌悪したくないんだ、分かち合える友達が欲しいんだ……同じ人間からグリードになった存在が欲しいんだ…！orz」

サゴーゾ「正直、あんたはまず自分の馬鹿力について話し合うべき
だって思っんですが」

相談者F「無理」

サゴーゾ「そっちの自己解決は早いな!？」

アスム「…無個性も個性!」

エイジス「とりあえず王環、後で脳天撃つ…!」

リンク「…ううん」

シャウタ「…なあ、シスターって何か俺の知っている人っぽいんだ
けど……」

映司「…ふふふ…希望、か……王環さんいる限りちよつと無理っぱ
い…なあ…! orz」

彼らはサゴーゾがシスターだと知りません

Fileソウ・サゴソの一日シスター（後書き）

次回予告

海東「実は裏ルートでお宝を探している時に、こんなチラシ見つけてね」

ユウスケ「なにになに…【エイジス・レーヴァティンを殺した者に賞金1億】…？」

士「いや、無理だろ」

シャウタ「護身用にプトティラいる？」

プトティラ「ぷ」

エイジス「いや、オオタチいるし…」

エイジ「むしろ俺がプトティラを所望する！」

映司「いや、王環さんはエイジスの次に死にそうにないですよ!？」

ユウスケ「」

夏海「ユウスケエエエ!？」

エイジス「やっぱりな…大体、毒の入ってそうなものは分かるんだよ…」

オオタチ「たーち、たーち」

映司「あれ、これ、俺達いらなかったフラグ？」

F i l e コブラ：エイジスは暁に死ねるのか

エイジス「いや、タイトル待てよ」
リンク「どんまい」

Fileコブラ：エイジスは暁に死ねるのか

映司「いやー、最近歌詞騒動で大変みたいだね」

エイジ「よかったな。ぶっちゃけ、タコで【一日アイドル】みたいなことやるって話だったぞ」（マジです）

シャウタ「嫌な意味でギリギリセーフだったんだな……」

ヒナ「それもこれも、火野さんとシャウタに夢がないお陰だよね」

映シャウ「orz」↑クリーンヒット

海東「ふんふふーん」

シヨウイチ「おい、どうした海東。いつにも増して気色悪いぞ」

ユウスケ「ルナメモリと適合するんじゃないか？」

海東「せめてトリガーかインビジブルにしてほしいね。……それよりも、こんなお宝を発見したんだ！」

士「ん……おいつ、これ、あの超有名な……」

海東「あまりにも珍しいから、つい手に入れちゃたよ。——ソウルジェム！」

シヨウイチ「おおい！？誰のだ、誰の魂だああ！！？」

海東「……型の宝石って言おうとしたのに、酷いよ」↑首が90度曲がっている

ユウスケ「こつち見るな！」

カズマ「怖ッ!？」

シンジ「この妖怪め！」

タクミ「…え？」

シンジ「——タクミくん？」↑真もビックリの恐怖顔
タクミ「ごめんなさいごめんなさいごめんなさい…！」

海東「あ、そうそう」

士「キモイその状態で話しかけるな」

カズマ「お母さん治してあげて怖い」

シンジ「誰が母だ」

…ボゴギャツ！

海東「ありがとう龍騎君」

ユウスケ「それで？話の続きは？」

海東「実は裏ルートでお宝を探している時に、こんなチラシ見つけてね」

ユウスケ「なにに…」【エイジス・レーヴァティンを殺した者に賞金1億】…？」

士「いや、無理だろ」

ヒナ「あの人を殺すって…度胸がある以前に、ヘタしたら自分の命がないって思わないのかな」

アスム「ですよねえ」

カズマ「撃たれる覚悟があって初めて、エイジスを殺せる権利を得られるんだよね」

シンジ「あー、何か、それに近いことをスカルが言っていたような」

リンク「——皆好き勝手に言ってる所悪いけど、エイジスは内部器官が（毒のせいで）強いだけであって、外部損傷は一般人レベルだよ」

士「嘘つけ、この間龍騎SVのFV耐えたたる!？」

リンク「それはブラカワニのコーラシルデュオ使ったからだろ!？」

ピット「使って…ました、……っけ？」

カズマ「さあ」

ソウジ「相当早く変身したのは確かだが」

シヨウイチ「…カメの能力発揮してたっけ…」

シンジ「うーん、リンク君、どの道エイジスって死なないし大丈夫じゃない？」

映司「それでも、殺されたら一大事なわけだし…（国とか貿易とかに大打撃だし）」

エイジ「そうだな。——あのレヴァが死ぬとなったら、大騒ぎだぞ（死なない男が死ぬんだから）」

ヒナ「そうだよね…（スマブラの世界完全に終わるんじゃない?）」

士「よし!今回は一応エイジスの護衛にでも行くか（そしてあわよくば死なない秘訣を教えてもらおう）」

海東「僕もそれに賛成だね（お宝ももらえて、小野寺君に殺られても生きていられる方法が分かるかもしれないんだから）」

ユウスケ「…ああ!（でもエイジスだし要らないんじゃない?）」

夏海「そうですね!（もし暗殺阻止できたら何かもらえるでしょうか!）」

タクミ「うん（でもなあ…エイジスはコア大戦ノードダメージリアだから…）」

シンジ「まあ、しょうがないか（それより寝たい）」

カズマ「うえい!（そういえば総務からの書類終わってないな…）」

アंक「チツ、しょうがない（アイス食いてえ）」

ソウジ「——皆の心の言葉を、文書にしてエイジスに送ろうか？」
全「「やめて！！？」」「」

ショウイチ「…心の声を聞くなよ…後、送っていいのは火野ぐらいだ」

映司「Σショウイチさんも聞こえたんですか！？」

ショウイチ「いや、物凄く何となく。ソウジの奴、王環の辺りから書いてるし…」

全「「明らかに俺達が撃たれるよう仕向けてませんか教祖」「」
ソウジ「ん？」

〃
〃
〃

エイジス「成程なあ…つか、裏でこんな非常識極まりない大会が行われてるのか…」

エイジ「やつぱり、死なない男を殺すのはかなりの栄誉なんじゃ…」

エイジス「お前相当絞められたいのか王環？」

タジャドル「しかし、それでも心配だな」

ラトラーター「これって、開催日今日じゃん。だったら、もう既に

何かあってもおかしくないって」

ガタキリバ「ラトラーターの勘は、変な時には当たるぞ」

サゴーズ「山勘は当たらないのにね…」

タトバ「本当に」

シャウタ「護身用にプトティラいる？」

プトティラ「ぷ」

エイジス「いや、オオタチいるし…」

エイジ「むしろ俺がプトティラを所望する！」

映司「いや、王環さんはエイジスの次に死にそつにないですよ!？」

ブラカワニ「オオタチってこいつか？」

オオタチ「たちえー」

プトティラ「どこで捕まえたの？」

ブラカワニ「ソファで昼寝してた」

全「「大丈夫かよコイツで!？」」「」

エイジス「ヘタなSPより役立つぞ？」

夏海「あ、荷物が届いてますよ!」

エイジス「あー、それな、開けないほうがいいぞ」

士「なんだ、お前宛じゃないのか？」

エイジス「俺宛なんだがな…」

士「どれどれ？」

ソウジ「おい士、それは念のためにショウイチに」

士「……」↑手のひらから血ダバダバ

夏海「キヤーツ!？」

ソウジ「…遅かったか」

シヨウイチ「あー、箱のふちに剃刀ついてるな…しかもかなり研いでいる」

エイジス「だから言っただのに」

オオタチ「たちー」↑鼻スンスン

プトティラ「くんくん！」

タクミ「僕もオルフェノクになってやるべきか…いや、でも…うあああああ」

リンク「タクミ、悩むなら座ってようか…」

ピット「近所迷惑ですしね」

オオタチ「ち？…ちーちー」

エイジス「何かあったのか」

プトティラ「ぷきゅしゅん！」

シャウタ「あ、プトティラくしゃみした」

プトティラ「なんか変なにおいするー」

シンジ「ベッドの下？」

シヨウイチ「どれどれ…」↑ストームハルバード取り出し

ユウスケ「Σどうやって出したんですか！？」

爆弾『ピッ、ピッ、ピ…ピ』

全「「ぎゃあああああああー！！？」」「」

エイジス「これは想定外」

プトティラ「くしゃいのこれ！」

タジャドル「お前爆薬分かるのか！？」

ガタキリバ「あ、プトティラ、案外警察犬向いてるんじゃない？」

タトバ「……そうじゃないでしょおおー！？」

映司「爆弾！誰か解除しないと…」

オオタチ「ちっ」↑ニツパーで赤コードバチン
全「「「のわああああ！？」」」

ーしーん…

ソウジ「……止まったな」

シヨウイチ「ああ……」

映司「なんで！？何で爆発物処理できるの、オオタチ！！？」

カズマ「レイラが教え込んだってワケじゃなさそう……」

ミレイ「皆さん、紅茶が入りましたよ」

夏海「本当ですか！？」

ミレイ「クッキーも用意してあります」

シャウタ「手伝わずにごめんなさい……orz」

ミレイ「いいのよ。それより、この間のチェリーパイ美味しかったわ」

エイジス「ああ、アレは美味かったな」

ミレイ「あ、それから、冷蔵庫の中にシフォンケーキがあっただけです……」

エイジス「……シフォンケーキ？誰のだ」

ミレイ「さあ……あ、でも、手紙が置いてあって『エイジス様のご友人にお出してください』って」

エイジス「……あー、俺はクッキー食べる……って言うか、クッキーの方がいいぞ」

オオタチ「ち」

ユウスケ「じゃあ、いただきまーす！」

ソウジ「……」↑疑わしそうな目

ユウスケ「↑泡噴いた

夏海「ユウスケエエエ!？」

エイジス「やっぱりな…大体、毒の入ってそうなものは分かるんだよ…」

オオタチ「たーち、たーち」

映司「あれ、これ、俺達いらなかったフラグ？」

ショウイチ「いや、それより、…ユウスケエエエエエ!！」

ユウスケ「……解毒完了!」↑アークル効果

ショウイチ「アークル便利だな」

ユウスケ「って言うか、アマダムが…それにしても、誰だよこのシフォンケーキ作ったの…!？」

エイジス「俺を殺そうとしてる奴らだろ？」

映司「いや、そうなんだけどね？」

士「しつつかし、ご友人にお出しく下さいとか…俺達まで殺す気か!」
エイジス「その辺、頭の悪い奴が考えたんだろうな」

カズマ「でもこれ、ユウスケが食べてよかったよね!」

ユウスケ「どういう意味だああ!？」

プトティラ「ZZZZ」

オオタチ「ZZZZ…」

サゴーズ「仲良く丸まって寝ちゃったよ…」

タジャドル「動物同士(?)通じるものがあるんだろ」

ラトラーター「俺も寝ていい？」

ガタキリバ「アホか！」

エイジス「どうでもいいけど、これから仕事だから暫く話しかけるなよ？」

全「「はい」」

オオタチ「ち！（がばっ」

シンジ「あ、起きた」

オオタチ「ちーちーちー！」

エイジス「…」↑そそくさと移動

——バリエイイン！

士「なああああッ！？」

プトティラ「きゃーん！？」↑起きた

海東「窓から鉄球が飛んできたッ！？」

ピット「なんと言う古典的な…」

オオタチ「ちーちー！」

エイジ「おい、何なんだ！？」

——ズドオオオン！

全「「…」」↑黒こげ

エイジ「……鉄球が飛んできた後に、爆弾投げ込まれるって…」

エイジス「鉄球と爆弾は別の人間がやったんだな」↑事前に逃げていたので無傷

オオタチ「ち」↑同じく

士「…なあ、エイジスにSPってそもそも要らないんじゃない？」

ユウスケ「当たり前だろ…」

タクミ「そもそも、ブラカワニになれるのに…」

エイジス「…」↑書類黙読中

士「って言うか、むしろ、俺達暗殺する側に回ったほうが面白かったんじゃない？」

シヨウイチ「コラコラ！警察の前で何を言うか！！」

ソウジ「ヒーローの言葉じゃないぞ？」

ヒナ「それにしても、多方面から恨み買われてるんだね…」

エイジス「…まあ、少なからずな。実験は元より…俺が元々住んでいた町を牛耳っていた領主と、それに関わっていた貴族にも恨まれている。貴族の奴らには確実に嫌われているだろうな、好かれる気もないが」

シャウタ「…エイジス」↑書類整頓中

エイジス「それに、エレンバートン死後…俺が指揮を握っていることに気に食わない人間はごまんという。その上、マスターハンドの声も聞こえないのにスマッシュシティの王になろうとしているんだからな」

全「…」

エイジス「だから、本当に心を許せる人間は少ない。最近少し増えたぐらいだ」

プトティラ「きゅーん」↑ボール持ってくる

エイジス「ん？」

プトティラ「あそぼ！」

エイジス「…4時までには終わらせるから、あと15分待ってる」
プトティラ「あい！」

エイジ「俺も（プトティラと）遊ぶ！」
エイジス「はっはっは。プトティラ、王環がいるなら…的当てゲームでもするか」

プトティラ「楽しい？」

エイジス「…王環に向かってボールを思いっきりぶつけ、散らしたセルメダルの多いほうが勝ちだ」

プトティラ「やる！」

エイジ「ごめん、レヴァが何を怒っているのか分からない！」

ソウジ「王環君…棺桶で寝てくれ」

映司「王環さん…たまにKYって言われませんか…？」

（外）

プトティラ「エイジ、覚悟！ぷー！！」

ギル「うわーっ、ちょ、待てって！？」

エイジス「…」↑爆筒装備

ギル「待てーい！レヴァ、それは反則だああ！？」

エイジス「威嚇射撃だ」

プトティラ「ぷー！」

ギル「ぎゃああああああ！？」

映司「楽しそうだなあ…」

士「混じればいいだろ」

映司「無理、怖い」

E s プラカワニ「こうするから」↑マスキットの弾発射

暗殺者「ぎゃっ!？」↑右足貫通

全「「「すげええええこいつのがよっぽど暗殺者あああああ!

!？」」」

E s プラカワニ「最近じゃ、オニゴーリでも飼って暗殺者マミらせ
ようと思うんだが」

ユウスケ「それやだよ!？」

E s プラカワニ「さてと、暗殺者誰か縛ってくれ」

シャウタ「何プレイがいい？」

E s プラカワニ「亀甲縛り」

シャウタ「よし分かった」

ユウスケ「いやいやいや、何か普通に流した?何か普通に言った!
?」

暗殺者「殺してくれ!俺を殺してくれえええ」

夏海（暗殺者の方が死を望むって…）

E s プラカワニ「その前に回復」

カズマ「殺そうとしたのに!？」

E s プラカワニ「殺そうとしたからってそのまま死なせたら、人殺
しと大差ないだろ。……まあ、場所も場所だし死ぬってことはない
だろうが」

エイジ「証拠隠滅？」

E s プラカワニ「Yes」

映司「駄目だこの二人!!!」

アंक「お前もな!」

映司「…アंक?」↑映司さん目エ怖!モード+リユウガデッキ

アंक「すいませんでした!!」
全「」「久し振りに見たな、映司さんがリュウガデッキ持つところ」「

」
」
」

海東「大会の制限時間は夕方6時まで、ということは…」

夏海「3…2…1、……6時です!」

プトティラ「おうちに帰る時間だね!」

シャウタ「…帰れないけどな（スピノフでもNOVEL大戦でも）

」

プトティラ「ふう…≡ ≡」

士「しかし、これで証明されたな」

エイジス「何がだ?」

映司「聞かないほうが…」

士「——何をどうしたとしても、お前が死なないと言う事実が…
な」

エイジス「…やめろおおおお!それは嫌だ、死なせてくれ!!」

映司「Σ今日一日を全否定!？」

カズマ「だったら、言い方はあれだけど、暗殺者に殺してもらったんじゃ…?」

エイジス「他者による殺害は嫌だ!…天寿を全うして死にたいんだよ俺はああ!」

エイジ「わがまま言うな!世の中にはな…不慮の事故で命を落とす魂だって、余命いくつかの命しかない人間だって、途中でグリードにされてしまう人間いるんだ」

ヒナ「最後お兄ちゃんじゃん」

エイジ「…いや、最初以外全部俺だぞ?」

エイジス「だからって【死なないキャラ】が定着していくのは銃火器以上に嫌だ…orz」

映司「そういえば、何でエイジスってそのキャラ定着しちゃったんだっけ…?」

エイジ「さあ?」

シヨウイチ（お前らと比べたことが原因、とは到底言えない…!）

タジャドル「後、オオタチ「プトティラ」俺達」

ガタキリバ「あ、それぜんぜん間違ってない」

ラトラーター「コイツ、マジで警察犬いけるんじゃない?」

サゴーズ「無理だったら、お年寄りや障害者を慰めるハートケアペツトとか」

プトティラ「ぷ?それより、シャウタのご飯食べたい!」

シャウタ「はいはい…サバ味噌でいい?」

ピット「…いいとも!」↑和食好き

全「「お前でオチるのかよ!」「」

Fileコブラ：エイジスは暁に死ねるのか（後書き）

次回予告

カズマ「リンクの変身できるライダー数に限界ってないの!？」

リンク「分かんない」

シンジ「おぉーいつ!？」

「エターナル」でも流石に、グレーリーは無理なんじゃない…この世界産のライダーだから」

カズマ「確かに。そこまでトライフォースで補完できたら、レイラ涙目すぎる」

シンジ「そもそも、何で、あの天才ニゴリなんだろう…」

カズマ「今更!？」

「フォーゼ」…「チェンジ」

全「…「おぉーいッ!？」」「」

ピット「ツールは面白そうですね!あんな好みじゃないですか!」「」
「フォーゼ」いや、アストロスイッチはいいんだけど…おにぎりア
ウト」

ユウスケ「…リンクにも見た目を選ぶ権利はあるよな、そうだよな」

F i l e カメ : シャツフルトライフオー
ス

File カメ：シャッフルライフオーズ

カズマ「ねーねーねーねー」

シヨウイチ「おい、どうしたんだ？」

ソウジ「腹でも減ったのか？」

カズマ「プロティラじゃないから大丈夫。前々から、すごく気になっただんだ」

ユウスケ「何がだ？」

カズマ「まずはこれを見てください」

- ・ファイズ
- ・カプト
- ・ブレイド
- ・龍騎
- ・ディケイド
- ・オーズ（タトバ、タカキリバ、タカキリーター、タジャドル、シヤウタ）
- ・電王（ソード、ロッド、ウイング）
- ・オーガ
- ・カリス
- ・ダブルCJGX
- ・エターナル
- ・アクセル

シンジ「これが？」

カズマ「これは、とある人の変身履歴です」

エイジ「こんなになつてゐるのか!？」

カズマ「注目して欲しいのは、オーズ以降…もつと言えばオーズの
タトバ・タカキリバ・タカトラーターとそれ以降」

全「「…?」」

カズマ「その人は、実はタジャドルはチーズのコンプリパワーで…
シャウタはアंकからのドライバー&メダル貸し出しでなりました。
しかし、それ以外は総て自力です」

ヒナ「自力!？」

ラトラーター「ん、もしかして…」

ガタキリバ「だよな…」

リンク「誰？」

ユウスケ「えっ」

カズマ「その人は、スピノフではダークキバやゾルダなどにもな
りました…」

ピット「もうお分かりですよね!オンドウル二世の言いたいことが
!!!」

リンク「さあ」

士「おい、…お前のことだぞ」

リンク「へ？」

カズマ「——リンクの変身できるライダー数に限界ってないの!
？」

リンク「分かんない」

シンジ「おおーいつ！？」

リンク「だって相手によって変わるところか、同じガイアメモリライダーでもダブルとスカルにはなり辛くて、アクセルとエターナルにはなりやすいんだよ…？」

エイジス「それもどうかと…」

カズマ「絶対限界見てやる！絶対限界到達させてやる…！」

シンジ「ソウジさん、翻訳」

ソウジ「『こうなったら、リンクがどこまで変身できるのか見てやる！』」

リンク「えええ…そんな企画立てないでよ」

エイジス「でも、リンクの場合はまず、相手がいないと駄目だろ…」
リンク「うん。ライダーとか敵とかがいないと無反応」↑右腕振り
回しながら

ヒナ「ならばここは、【彼】の協力が必要ね」

全「…彼…？」「…」

}}}

ヒナ「というわけで！」

カービィ「はぁーい！」

全「...何で!?!」

ヒナ「カービィはスマブラファイターにして、前に仮面ライダーを吸い込んだことのある生物...デイクライド並みの無限の力の持ち主ならば、トライフォースもコロコロ変わってくれるはず...!」

リンク「疲れるの俺なんですけど!?!」

エイジ「じゃあまずは、カービィ・ステイツで」

ピット「意味分かってますか？」

リンク「せめてノーマルフォームと名付けた方が...まあいいや。変身」

『Kamen Ride DECADE!』

『デイクライド...やっぱりピンクの変身能力だから...』

士「おおい!一緒にするな、そんな一頭身と!」

リンク「さてと...」

ユウスケ「あれ、何で変身解除？」

リンク「他のライダーになるには、その都度変身解かないといけないんで...」

ピット「ま、そうですよね」

リンク「変身！」

『カポーン』

『バース...ホント統一性ないなあ』

リンク「変身！」

『Kamen Ride DI-END!』

海東「今度はディエンドか」

シャウタ「なあ、これ、本当に完全に長丁場になってきちゃうんじ

や……」

タジャドル「そうだな」

プトティラ「どこまで時間かかるの？……きゅー」

ブラカワニ「あ。欠伸した」

ラトラーター「そんな時は…必殺！【箇条書き纏め】…！」
全「……おい！」「」

採用しました

・龍騎
・ブレイド
・ナイト
・キバ
・クウガ
・羽撃鬼
・西鬼
・ザビー
・煌鬼
・シャドームーン
・BLACK-RX
・G3-X
・V1
・リュウガ
・ファム
・クウガ

・ゾルダ
・イクサ
・電王AF
・歌舞鬼
・1号
・2号
・V3
・スカイライダー
・真
・アマゾン
・ギルス
・アナザーアギト
・カブト
・レイ
・ZO
・カリス
・レンゲル
・ギャレン
・響鬼
・王蛇
・電王GF
・ガオウ
・オーデイン
・ファイズ
・グレイブ
・ライダーマン
・アギト
・ダークカブト
・スカル
・ダークキバ

- ・電王RF
- ・オーズ（ガタキリバ）
- ・電王WF
- ・ドレイク
- ・サソード
- ・インペラー
- ・ガイ
- ・G3
- ・G4
- ・凍鬼
- ・威吹鬼
- ・朱鬼
- ・キバーラ
- ・電王SF
- ・ダブルCJ
- ・ゼロノス（アルタイル）
- ・NEW電王
- ・ゼロノス（ベガ）
- ・轟鬼
- ・斬鬼
- ・ライア
- ・オーズ（タジャドル）
- ・ストロンガー
- ・オーガ
- ・スーパー1
- ・オーズ（ラトラーター）
- ・オーズ（シャウタ）
- ・オーズ（サゴーズ）
- ・オーズ（恋愛コンボ）
- ・オーズ（ブラカワニ）

- ・ランス
- ・シザース
- ・ラルク
- ・オーズ（プトティラ）
- ・ガタツク
- ・アクセルブースター
- ・ダブルFJ
- ・タイガ
- ・サガ
- ・アビス
- ・キックホッパー
- ・パンチホッパー
- ・カイザ
- ・ディケイド激状態
- ・クウガライジングアルティメット
- ・サイガ
- ・ライジングイクサ
- ・アギトシャイニング
- ・カブトハイパーフォーム
- ・オーズ（タトバ）
- ・バース・デイ
- ・コーカサス

その他15種類のライダー、割愛

リンク「……疲れたorz」
 ユウスケ「トライフォースも空気を読んで、色んなライダーにして
 るなあ……」

ピット「もう、全ライダーコンプリートしちゃえばいいんじゃない？」
リンク「やだぁ…orz」
カズマ「ガンバ！」

夏海「いや、カズマさんのせいですよ？」

ギャレンキングフォームやら、王蛇サバイブやら、リュウガサバ
イブなどが出ましたがその他25種類を含め割愛

士「…なんであいつ、一人で強化変身できるんだ？」

ピット「知りませんよ」

リンク「変身」↑もう疲れてる

ピット「ところで、リンクさんってグレーリーになれたりとかする
んでしょうか」

士「あー、後、ブライトとかシュナイドもな」

<エターナル！>

リエターナル「でも流石に、グレーリーは無理なんじゃない…この
世界産のライダーだから」

カズマ「確かに。そこまでトライフォースで補完できたら、レイラ
涙目すぎる」

シンジ「そもそも、何で、あの人才ニゴリなんだろう…」

カズマ「今更！？」

ユウスケ「確か、引き合ったメモリが【G】だったからじゃない…
？」

カズマ「だつたっけ？」

タクミ「僕達に言われても……」

シヨウイチ「俺もその時いなかったしな」

ユウスケ「あー、そうか、ワタル今日は【エクシスク】でバイトかあ……！」

士「言っちゃ悪いが、他にも同じイニシャルGで使えるポケモンいそうたる」

海東「本当に、何でALL80のオニゴーリなんだか……」

オニゴーリ「——ゴオオオオー！！」 ↑ アクセルクリムゾンスマツシュ頭突き

士海「「ぎゃあああああああ！？」」

ユウスケ「……マサラタウンからご苦労様です！！」

タクミ（ホンツト、頭突きの熟練度上がりすぎてアイアンヘッドになりつつあるんじゃない……）

プトティラ「シャキリーター！」

エイジ「ガトラゾ」

シャウタ「ラゴリゾ」

タジャドル「サゴリタ」

ヒナ「サウバ」

映司「シャキリドル」

ブラカワニ「ガタジャーター」

エイジス「……暇になって亜種ゲームし始めてるし！」

ラトラーター「マジカルバナナ、バナナといったら黄色！」

ガタキリバ「黄色といったらカザリ！」

サゴゾ「カザリといったらグリード」

タトバ「グリードといったらコアメダル！」

エイジス「…こっちはこっちで、マジカルバナナなんて懐かしいものを…。……」

士「うう…何故だ、何故あいつは怒っている…」

海東「何故（Aポケの世界の）マサラタウンから遠路はるばる来てまで、ACSHBを…！」

ユウスケ「お前らのせいだろ！」

エイジス「…オニゴーリ、もういつそ、あいつらマミったらどうだ」
オニゴーリ「オニツ…!!」

ソウジ「『あ、その発想最高』」

シヨウイチ「やめんかああああ!？」

LガタツクHF「ねえ…俺、もうやめていい…?」

カズマ「ファイト!」

シンジ「もうここまで来たら、全部（フォーム含め）やっちゃおうよ」

LガタツクHF「泣いていいですか」

この後、デルタやらZXなどのライダーになりました

リンク「……もう疲れた」

カービー「僕も立っただけじゃ退屈…」

タクミ「あ、でも、さっきの電王超クライマックスフォームで全種類・全フォームやったんじゃない…」

リンク「やつと終わるの!？」

士「…いいや、まだだ!」↑オニゴーリに頭食われながら
ユウスケ「本当にやったよあの無敗!？」

ソウジ「甘噛みらしい。まあ、いつでも噛み千切れる位置にはいるな」

ユウスケ「それだけはやめてくれよ…首なしライダーなんて、冗談じゃない」

士「それよりも、リンク…ライダーは日に日に増え続けているんだ。財団Bが更なる富を得るためにな!」

夏海「メタいです土君!」

シヨウイチ「オニゴーリ、もうそいつ噛み千切れ!首がもげてもヘルメットを被せればれない!!」

シンジ「どこかで見たぞ、そんなキャラ!？」

エイジス「——そろそろ誰か、マサラタウンに住む永遠の10歳か…オーキド博士を呼んで引き取ってもらえー!!」

ブトティラ「ガタキリバ!」

エイジ「ガタキリタ」

シャウタ「ガタウバ」

全「…いつまでやってんの!？」

士「ふう…危うく、放送事故になるところだったぜ」

海東「まったくだよ」

映司「二人がそもそも馬鹿なこと言わなければ…」

シンジ「あ、状況の変化は分かってたんですね」

士「それよりも、リンク!とにかく、ライダーはまだ後一人いるん

だ…その力を今…！解放しろ…！」
リンク「えええ…」

（ 変身中 ）

「フォーゼ…」

カズマ「え、何このライダー…」

ソウジ「…遂に座薬のライダーが…」

シヨウイチ「座薬じゃねえよ…？」

カズマ「じゃあ、三角定規？」

シンジ「それも違う！」

シヨウイチ「これは…あ、そうだ、トライフォースだ！」

ソウジ「それは一番ない」

シンジ「えーっと…イカ？」

カズマ「頭しかイカっぽくないね」

士「どれも違う！ロケットだ、R・O・C・K・E・T…！」

ブトティラ「イカさんだったらシャウタの仲間？」

シャウタ「自分で言うのもなんだけど、…タコに続いてイカってか
なりの冒険じゃ…」

ソウジ「龍騎もある意味冒険だけどな」

シンジ「ヨイ」

士「…人の話を聞いているのか？おいリンク、お前から何とか…」

「フォーゼ…」
「チェンジ」

全「……おおいッ!?」

ピット「ツールは面白そうですよ! あんた好みじゃないですか!」
「フォーゼ」いや、アストロスイッチはいいんだけど……おにぎりア
ウト」

ユウスケ「……リンクにも見た目を選ぶ権利はあるよな、そうだよな」
士「ってか、おにぎりでもねえよ!」

映司「どうしよう、これと共演するんだけど」

エイジ「あー、どんまい……」

士「そこ! いきなり諦めムード入るな……ひよつとしたら面白いかも
だろ!？」

タクミ「……とりあえず、フォーゼの面々は2話しかないけれど学
園ドラマを描いたファイズの世界に土下座するべきですよ?」

シヨウイチ「……あー、お前も学生ライダーか」

タジャドル「そういえば、今度出るメダルセット……アストロスイッ
チがついてくるらしいな」

ブラカワニ「あー、パパンのね」

ラトラーター「親父のは貰うけど、アストロは売る?」

士「何故!? むしろ逆だろ、オーメダル廃止確定なんだぞ!？」

エイジ「命ある限り、多々買い続ける……それが、仮面ライダーだ!」
夏海「何故、結城さんのセリフを若干改変して力説するんですか!
?」

プトティラ「むしろパパンのカードほしい……〇〇」

シャウタ「枚数限定の、入場者サービスがあるぞ……?」

プトティラ「初日にいけないもん……」

シャウタ「それは正直、ごめん」

ガタキリバ「でも、フォーゼとのタッグキックだぞ」

プトティラ「頭の中でパパンだけにする…」

サゴーズ「俺は…頭の中でマツケンにする」

タトバ「嫌だよそれ！？マツケンとガンバライドで共演って、凄く拷問じゃない！？？」

タジャドル（つか、その妄想力ある意味スゲエ…！）

エイジス「しかし、シスにばれたら新たな実験の対象になるな…」

リンク「まあね…」

士「その時は…フォーゼの主人公に、こう言ってやろう。『どんまい』」

ユウスケ「今すぐにでも使えそうだけどね」

カズマ「それにしても、…本当にどうなってんのトライフォース…？」

映司「恋愛コンボにも何気になってるし…」

士「しかも、省かれちゃったがダブルのCAXにもなってたぞ」

リンク「ホント、どうなってるんだろうねえ…」

アイク「…凄まじく羨ましい…！」↑壁の後ろからナズエミテルンデイス

ピット「リンクさん、今すぐにでも、あの人にトライフォースあげたらどうですか」

リンク「あげたいのは山々だけど…無理。手の甲に既に痣ついてるし」

士「ってか、それって、トライフォースの痣のある人間にしか使え

ないのか？他人には渡せないのか？？」

リンク「さあ。とりあえず、トライフォースが人を選ぶパターンもあるし…ゼルダの例を見ると、そういう血族の可能性もあるかもだし、」

ピット「一言で纏めると？」

リンク「分ッかんない！」↑本当に知らない

ピット「…でっすよねー！」↑知っていそうだけど面倒くさい

士「最悪だ、あの勇者と天使！」

海東「よくもまあ、レギュラーとして頑張ってこれたよね…ディケブラシリーズで」

士「でも、ゼルダやガノンなんかも同じことはできないのか？」

ピット「理論上はできるんじゃないですか？何の理論かは知りませんが」

リンク「だけど…俺のは制限を無視して変身出来る（ただし、ライダーメダルによる変身は除外）体質だから何でもなれるかもしれないけど、ねえ…」

エイジス「そもそもリンクはライダーの力にかなり触れていたし、主役補正があるだろうし、後はアレだ…ゼルダとガノンに割く時間すらなかったか、そもそもする予定もなかった」

全「…ごめん、最初以外全部言ったら駄目な意見だ当主！」「」

エイジス「ところで、リンク。基本的にはどのライダーになることが多いんだ？」

リンク「うーん、最近はシュナイメモリ関係で戦うことが多いからなあ…アクセルがエターナルが大半。そもそも、それ以外だと滅多

なことじゃトライフォースの力は借りないよ」

ピット「ですよね」

ソウジ「じゃあ、ワリオを締め上げる時は？」

リンク「…タージヤードル」

シヨウイチ「火葬かよ」

リンク「個人的にはシャウタとかシャウタとかシャウタとかカリスとかシャウタとかRXとかブレイドとかディケイドとかシャウタとかオーズとかオーズとかスパー1とかファイズとかファイズとかV3とかシャウタになりたいのに…！」

士「お前ただけバイオライダー好きなんだよ！」

夏海「正確に言っと、どれだけシャウタ好きなんですか!？」

海東「いや、違う、…君どれだけドSプレイ好きなんだい！」

コウスケ「全部違う!……リンクホント、タコみたいな異質部位好きだよな!？」

余談ですが、リンクの好きな亜種はクワガタ・ウナギ・タコ
好きなコンボは言わずもがな

File カメ：シャッフルライフオース（後書き）

次回予告

ユウスケ「遊園地のペアチケット券を買ってきたんだ！しかも、4枚も！！」

ソウジ「4枚ということは…8人で行くんだな」

ショウイチ「あー、くそ、こんな時に限ってワタルとアスムはいるし」

ワタアス「「いちゃ駄目なんですか！？」」

ブラカワニ「パパンと一緒に、ジェットコースター乗りたい人ー！」
プトティラ「ぷー！」

シャウタ「あ、頑張つてね。俺タジャドルとコーヒーカップ乗るから」

ラトラーター「ガタキリバとメリーゴーランド行くから」

タトバ「サゴーゾと観覧車乗るから」

プトティラ「楽しいね！」

ブラカワニ「パパンの気持ちはジェットコースターの下り坂並みだぜい…」

プトティラ「パパン！次ね、次ね、えーとえーと」

ブラカワニ「はっはっは。パパンを引き摺らなくても遊園地は逃げていかないよマイペット」

Fileワニ：ブラカワニの一日遊園地

シャウタ「……うえっぶ……」

タジャドル「うおっ……うええ……」

ガタキリバ「お前らはコースター回しすぎるから、そうなるんだよ
！」

ラトラーター「しかも、最初から最後まで全力回転だもんなあ……そ
りゃあ気分悪くなるって」

Fileワニ：ブラカワニの一日遊園地

ユウスケ「皆！皆ー！！」

士「どうしたユウスケ、ナツミカンのパックしている姿でも見たのか？」

海東「なるほど…流行のレモンパックか」

夏海「何ですか！？」

ユウスケ「んなわけないだろ！これこれ！」↑封筒取り出しながら

ソウジ「…退部届けか…」

シヨウイチ「…退学届け、か」

カズマ「退職願…ユウスケ…」

ユウスケ「ちがーう！」

シンジ「まさか、……果たし状！？」

ユウスケ「それでもなーい！」

タクミ「だったら…」

ユウスケ「全然ちがーうつー！！」

タクミ「Σまだ何も言っていないのにボケ封殺された！？」

ユウスケ「遊園地のペアチケット券を貰ってきたんだ！しかも、4枚もー！！」

ソウジ「4枚ということは…8人で行くんだな」

シヨウイチ「あー、くそ、こんな時に限ってワタルとアスムはいる

し」

ワタアス「いちや駄目なんですか!?!」

士「しかし、誰から貰ってきたんだ?」

ユウスケ「ライダータウンにいる俺。一緒にいく相手もないし、あねさん誘おうにも仕事があるし…ってことで」

ワタル「なんか切ないですね…」

アスム「でも、8人って…僕、ワタル、シンジさん、カズマさん、ショウイチさん、ソウジさん、タクミさん、ユウスケさん…あつ! 丁度ですね!」

海東「僕達は!?!」

夏海「私達も行きたいです!」

ワタル「自腹で行ってくださいよ」

モモタロス「……待て待て! 電王ハブるんじゃないやねえええ!?!」

リイマジ8人「……お前どうせ出番ないだろ!」

モモタロス「ふぁーいず…orz」

士「だったら…俺と夏海、海東とユウスケ…」

アंक「おい待て! オースチームを忘れるとは、どういつ了見だ!?!」

映司「いや、俺は別に…」

エイジ「遊園地に行きたいか!」

ヒナ「おー!」

エイジス「…お前らは機会があるんじゃないのか? ライ街とクロスだし」

翔太郎「ダブルも忘れるな!」

フィリップ「まったくだよ」

全「「ぎゃいぎゃいぎゃい…」」

プトティラ「ゆーえんちつて、何？」

タトバ「うーん。色々な乗り物のあるところ」

タジャドル「それにしても、遊園地か…11年前に行ったきりだな」

ラトラーター「遠足とか、修学旅行で行ったことなかったんだっけ？俺もだけど」

サゴーズ「あー、俺、修学旅行が北海道だ…」

ガタキリバ「俺とラトラーターは、四国に行ったなあ…タジャドルも確か、北海道じゃなかったっけ？」

シャウタ「沖縄行きたいなあ…」

タトバ「あー、それはある…」

オーズ兄弟「…遊園地行きてえ…」

プトティラ「俺も…」

ブラカワニ「そんな時はパパンにお任せ」

ラトラーター「何すんの!？」

ブラカワニ「こうするのです」↑ブラーニングー装備

タジャドル「シャウタ、目を塞げ！」

ガタキリバ「スプーン！スプーンを2本!!」

シャウタ「お前それ自分のスピンオフの話だろ！」 本家21の主役のことです

ブラカワニ「ピーヒョロロロ」↑頭のヘビがチケット強奪

ユウスケ「…あつ、チケットが!？」

全「…ええ!？」

ブラカワニ「これで行けるぞマイ息子達！」

士「こらあああ！勝手に何やってんだああああ!！」

映司「仕方ないって…行かせてあげようよ。あの一家、丁度8人だし…」

海東「でも…」

夏海「納得いきません！」

映司「——行かせてあげようか？」↑映司さん目エ怖！モード全「「「ごめんなさい」」」

アंक「…本編の俺、先走りすぎたかも…？orz」

〃
〃
〃

（ライ街遊園地）

オーズ兄弟「「「きゃっほー！」」」

ブラカワニ「すんませーん、8人分フリーパスください」

受付「はいは…あの、あの紫のはペット…ですか？」

プトティラ「ぷ？」

受付「すみませんが、ペットの入場は固くお断りして…」

映司「？」↑背後から超いい笑顔で映司さん目エ怖！モード発動中

受付「ぎゃああああああああ！すみません、全員分のパスポートです！！」

ラトラーター（ヘタなホラーよりも怖いな…）

ガタキリバ（つか、映司、どうやって来たんだ…？）

じゃんけんの結果、金を出してくれたエイジスに加え、映司とヒナとソウジが尾行となりました

妹にもダブルえいじにも置いていかれ、エイジは現在リマジウヴアと自棄酒中です

ブラカワニ「パパンと一緒に、ジェットコースター乗りたい人ー！
プトティラ「ぷー！」

シャウタ「あ、頑張ってね。俺タジャドルとコーヒーカップ乗るから」

ラトラーター「ガタキリバとメリーゴーランド行くから」

タトバ「サゴーゾと観覧車乗るから」

ブラカワニ「パパンショークォーズ」

プトティラ「俺がいるよパパン」

ブラカワニ「ありがとうマイペット」

ブラカワニ「あー、待ち時間長いな」

プトティラ「きゅうっ」

ブラカワニ「じゃ、先にゴーカート乗るか！」

プトティラ「でも、並ばないと乗れないよ？」

ブラカワニ「大丈夫、フリーパスを使って予約とってくれる機械が

あるから。…お、12時から15時までだ」
プトティラ「便利だね！」

ヒナ「…何、あの、夢の国仕様」

映司「あー、そういえば、人気のあるアトラクションにはああいう奴あつたっけ…」

ソウジ「何処の世界にも、夢の国はあるんだな」

エイジス（……夢の国…カービィの世界にあるのは、夢の泉だから……ああくそ、何を言ってるのかさっぱりだ）

シャウタ「……うえっぶ…」

タジャドル「うおっ…うええ…」

ガタキリバ「お前らはコースター回しすぎるから、そうなるんだよ！」

ラトラーター「しかも、最初から最後まで全力回転だもんなあ……そりゃあ気分悪くなるって」

タジャドル「…限界まで回してみたいと思わないか!？」

シャウタ「そうだそうだ…！」

双子「…思うか!」

ブラカワニ「いやっほー！」

プトティラ「ぶきゅ! シャーウター!」

シャウタ「ああ、プトティラ、楽しそうだね…」

タジャドル「気持ち、悪い…」

ガタキリバ「お前ら、もう、横になつとけよ…」

ラトラーター「いいなー、ゴーカート」

ブラカワニ「楽しかったかー？」

プトティラ「うん！」

ラトラーター「俺、ゴーカート乗る！」

ガタキリバ「あ、じゃあ、俺も」

ブラカワニ「お。この“ハードスプラッシュ”ってアトラクシヨン…行ってみるか？」

タジャドル「…暫く揺れるのには乗りたくない…」

シャウタ「同じく…変な意味でReverse/Re:birthしそう」

タトバ「いやー…野郎二人で乗る観覧車が、こんなにもつまらないとは…」

サゴーズ「一人で乗っても、むなしさ倍増だよ…」

ブラカワニ「お…タトバ！サゴーズ！パパンと一緒に」

タトバ「次、俺メリーゴーランドね！」

サゴーズ「じゃあ俺はコーヒーカップ！」

ブラカワニ「orz」

——バシャーン！

プトティラ「ぷきゅーん！」

ブラカワニ「ははははははー…」

ソウジ「なんだかブラカワニ殿の背が、小さく見えるな…」

ヒナ「それよりも、仮面ライダーが遊園地ってシユールじゃない？」

映司「むしろ、遊園地で仮面ライダーって言ったら…ヒーローシヨ
ーぐらいしか…」

プトティラ「楽しいね！」

ブラカワニ「パパンの気持ちはジェットコースターの下り坂並みだぜい……」

プトティラ「パパン！次ね、次ね、えーとえーと」

ブラカワニ「はっはっは。パパンを引き摺らなくても遊園地は逃げていかないよマイペット」

プトティラ「あ」

タトバ「あれっ、今終わったんだ」

サゴーズ「結構早かったんだね」

ラトラーター「あー、楽しかったー！」

ガタキリバ「…お前の運転センス何なんだよ…あんなスピードで走っておいで、よく事故起こさないな…！？」

プトティラ「みんな！一緒にこの、“昇天ZECTタワー”つてのに乗ろうー！」

タトバ「って、…うわ…これ高い場所まで上がったり下がったりするやつじゃん！」

サゴーズ「いわゆる昇降機な…俺ちよつと苦手」

ブラカワニ「息子達と遊びたいのに…orz」

プトティラ「このままじゃブラカワニ、灰になっちゃう！そんなのやだー！」

ガタキリバ「親父だから灰になってもきつと生き返るんじゃない？」

プトティラ「だめー！」

ラトラーター「親父だったたまには親孝行したいんだし、アトラクション1回ぐらい付き合ってもいいんじゃない？俺もこれ乗りたいしー！」

ブラカワニ「マイ息子…ラトラーターアアアー！！」↑感涙

プトティラ「ラトラーター、1回だけならガブリュー使っの許して

あげる」

ガタキリバ「マジかよ……」

プトティラ「みんなは!?」↑威嚇

タトガタサゴ「」（凍らされたくないの）乗ります」

プトティラ「う！」

ラトラーターちゃっかりしてるなあ……

映司

ヒナ（今回ばかりは、空気を読んだんじゃないですか?）

エイジス（まあ、元々ブラカワニを3で割ったような性格なんだし、むしろ今まであいつが懐かなかったのが奇跡だろ）

プトティラ「——ぷつきゅうつうつうつうー!……!」

ブラカワニ「うおおおおおー!」

タトバ「ぎゃあああああああああああああ」

サゴーズ「ぢあえqwん0232-0f-594g4081298

tん957@んf9q:@rsw0えpwfんまqqw」↑もう悲

鳴ですらない

ガタキリバ「ひぎゃあああああああああ!」

ラトラーター「いやっほおおおおおおおおお!」

シャウタ「…楽しそうだな、あいつら…うつぷ」

タジャドル「ああ、まだ頭がくらくらする……」

プトティラ「あにゅー」

ラトラーター「あー、楽しかった!」

ブラカワニ「ほんとほんと」

サゴーズ「↑燃え尽きてる

タトバ「さ、サゴーズ…」

ガタキリバ「生きてるか…？」

プトティラ「次ねー、次ねー！」

ブラカワニ「待ったマイペット。その前に…ジェットコースターのお時間です！」

プトティラ「う！」

タトバ「あー、チケット取ってたんだ…」

ガタキリバ「サゴーズ、お前はちよつと休んでろ…」

サゴーズ「↑もはや灰

ラトラーター「俺がついてようか？喉渴いたし」

…ガタンゴトン…

プトティラ「わくわく」

ブラカワニ「もうそろそろ…」

——ズガアアア！！

プトティラ「…きゃーう！きゃーう！！」

ブラカワニ「いやっほおおお！」

客「…キヤーッッッ！」「」「」

映司「パアアアーンツ！」

ソウジ「おでええええーん！！」

ヒナ「…クガムツコロオオオオ！！」

エイジス「なんだその絶叫はあああああ！！？」

プトティラ「楽しかった！」

ブラカワニ「おー、そうかそうか！」

サゴーズ「うう…やっと魂を自分の体に戻せた」

タジャドル「やっと気分が悪くなくなってきた…」

シャウタ「頭痛薬と酔い止めの薬を持ってきたよ…」

ブラカワニ「家族揃った所で、何か乗ろう！」

シャウタ「えええ」

タジャドル「冗談はインドマスクだけにしてくれ…」

ブラカワニ「orz」

プトティラ「パパン虐めちゃだめ！」

タジャドル「すつげえ懐かれてるな親父!？」

ラトラーター「あ、じゃあ、これやる？」

シャウタ「なんだそれ」

ラトラーター「“クライス・クライシス”。最強の絶叫マシンなんだって！」

サゴーズ「ちょ、俺を完全に殺す気!？」

でも結局乗りました

プトティラ「わくわく」

タトバ「うう…前の列って何この虐め…」

ラトラーター「それにしても、何だろうな？この触手みたいな安全装置」

ガタキリバ「触腕、の方が当たっていきそうな気がするな」

サゴーズ「ひいいい…」

ブラカワニ「一体どうなるんだろうな？」

シャウタ「ところで、ジェットコースターにあるようなレールがないんだが…」

ヒナ「流石ライ街…人の発想を軽く越える物を出してくるなんて…！」

ソウジ「ただいまー」

映司「平気なんですか、ソウジさん！？」

ソウジ「楽しかった♪」

エイジス「…本物のスピード狂だ…」

プトティラ「もう夕暮れだねー…」

ブラカワニ「うん、そうだね…」

タジャドル「パレードもあるみたいだが、そんな時間までいるわけにも行かないだろ。ホテルもないし」

ブラカワニ「そうだ！せめてもの思い出作りに…ちょっと待つてな！」

オーズ兄弟「…何する気だよ…」

ブラカワニ「じゃじゃーん！この遊園地のマスコットキャラ、“ふうとくん”です…！」

ふうとくん「やあ！僕、ふうとくん…！」

タトバ「あー、そういえば、観覧車の名前って“ふうと大車輪”だったっけ？」

ブラカワニ「皆でふうとくんの写真を撮りましょう！」

サゴーゾ「やだよ恥ずかしい…！」

ブラカワニ「一生ものの記念だぞー？」

ガタキリバ「それに、そのマスコットとの記念写真って、確か対象のグッズを買わないといけないんじゃない…」

ブラカワニ「ママン用に買いましたが何か？」↑ふうとくん人形抱きながら

シャウタ「親父イイイイ！そんっ、もふっ……ぬいぐるみ…ぐあ

ああああああー!!」

タジャドル「シャウタ!ぬいぐるみ好きなの分かったから、ちょっと落ち着け!」

ブラカワニ「ママンのよりは小さいけど、シャウタやプトティラ用にもあるよ!」

シャウプト「わーい!」

タトバ「お金何処から出したとか、追求はしないんだ…」

エイジスから4500円借りました(エクシスクでバイトして返す約束で)

ラトラーター「あーでも、皆で撮るにはちょっと無理が…」

ガタキリバ「何言ってたんだ。…おい、映司、撮ってくれ」

映司「何でばれたの!?!」↑タトバキヤップ装備

ガタキリバ「そんな楽しそうに満喫してれば、誰だって分かるわ!いいから撮れ!」

映司「はーい」

映司「じゃ、1+1は?」

オーズ一家「「2」!」「」

~~~~~

ブラカワニ「あー、楽しかった!」

プトティラ「今度はママンと一緒にいきたいね!」

シャウタ「もふもふもふ」↑ふうとくん人形に顔押し付けながら

タジャドル「大丈夫か、シャウタ…色々と」

シャウタ「もふ!?!」

タジャドル「人間語喋れ!」

## Fileワニ：ブラカワニの一日遊園地（後書き）

### 次回予告

士「【ドキドキ！クイズ大戦CORE！】…このコーナーでは、皆に問題を出題…更に！正解数の少なかった人に強烈な罰ゲームを行うぞー！！」

プトティラ「…シャウタは鰹節使うよ！」

士「シャウタ理論は聞いてない！」

ラトラーター「待てよ…シャウタは煮物に、煮干を使うぞ！」

士「だから…」

ブラカワニ「〜」

伊達「あつ、芦…ぎゃー！？」

アंक「あs…ぎゃあああつ！？」

タトバ「何やってんの親父！？」

番外編：ドキドキ！クイズ大戦CORE

## 番外編：ドキドキ！クイズ大戦CORE

士「【ドキドキ！クイズ大戦CORE！】…このコーナーでは、皆に問題を出題…更に！正解数の少なかった人に強烈な罰ゲームを行うぞー！」

海東「今回の参加者は、こちら！」

プトティラ「がんばる！」

エイジ「…何とか」

ヒナ「ビリだけは避けたい…！」

エイジ「せめてビリだけは…」

後藤「おい、何で俺まで？」

伊達「俺もだよ後藤ちゃん」

アंक「…なぜ俺まで」

シャウタ「俺達兄弟は一問ごとに回答者変更って…何この虐め」

ブラカワニ「ペットにも兄弟にも混じれないパパンシヨックorz」

シンジ「えー、こちらの方々は…【コア大戦以降の連載】或いは【コア大戦不参加】or【コア大戦初出キャラ】です」

エイジ「最後俺だけだろ！」

アंक「尚更俺が混じっていることに納得がいかない！」

カズマ「ルールは簡単！」

アंक「聞けよ！」

ワタル「今から出すコアな問題に、見事正解してください！」

アスム「しかし…最大点数100ptから、間違えることに10pt減少…」

海東「10ptを切ると、その後は2ptずつ減少」

ショウイチ「最終的に、最低点数2ptとなる！」

ソウジ「回答数が多くても、得点が低ければ意味はないと言っただ」

伊達「つまり、でかく稼げってことだな！」

タクミ「間違っではないです」

夏海「それでは、さっさと行きますよ！」

〃  
〃  
〃

士「第一問、オース兄弟の回答者はタトバ！」

ソウジ「問題は…【仮面ライダーディケイド】スマブラの世界】の、  
87話【風隠】からだ」

ユウスケ「さて、この回でシンジさんが本当に食べたかったものは？」

エイジス「…何だそれええええ!?!」

伊達「ほいっと!」

アスム「はい、伊達さん!」

伊達「…おでん!」

ソウジ「——どうしよう、正解にしないといけない気が…」  
シヨウイチ「すんな!おでんに惑わされるな!」

後藤「えつと…竜田揚げ!?!」

シンジ「辰巳だけに、と言いたいのかお前は」

ヒナ「…えつと…ヘビの丸焼き!」

カズマ「どこの王蛇」

タトバ「あー…はい!カレー!」

士「違うな」

エイジス「——ヒント!ヒントプリーズ!」

夏海「それでは、エイジスさんのお手つきでヒントを…ワタル君、  
どうぞ!」

エイジス「Σ何だそのルールは!?!」

ワタル「…この回で出てきたドーパントに関係します!」

エイジ「分かったぞ…アジの開き!」

士「なんでだ!」

プトティラ「うー…たい焼き!」

ユウスケ「鯛は出てない!」

アンク「…アイス!」

シヨウイチ「お前の食いたいものだろうがああ!?!」

タトバ「あつ、…刺身イイ!」

海東「違うね!」

士「さーで、もう一人ヒントを出したい奴はー？」

ブラカワニ「はい」

士「じゃあ、ブラカワニをお手つきにする代わりにヒントだ。…シヤウタの足」

シヤウタ「!!??」

エイジ「分かったッ!…たこ焼きイイイ!!」

カズマ「ぶつぶー」

プトティラ「たこ…たこ…お好み焼き!」

ソウジ「違うな」

伊達「おでん!」

シンジ「またか!」

エイジス「…タコって何に使えたっけ…スパゲッティ…?」

アスム「ブー」

ユウスケ「さーで、もうこの時点で4ptしか貰えないよ」

エイジ「うわ、やる気なくす」

タトバ「シヤウタ…シヤウタだから、…酔の物オオオ!」

士「……正解!」

回答者「「答えられるかああ!?!」」

士「そういうクイズだ」

シヤウタ「…で、タトバ、…俺だから酔の物とはどういう?」

タトバ「待ってシヤウタ、怒るなら、ヒントを出した人に!」

ユウスケ「続いて、兄弟の回答者はガタキリバ!」

シンジ「問題は…【仮面ライダーディケイド 000の世界】第5話Bパートより抜粋!」

王環兄妹「「うわああああああああ!」」

後藤「あの二人、答えられなかったら切ないぞ…」

カズマ「“王環エイジに深手を負わせたグリードは”」

エイジ「——アンツクううう!!」

アンク「Σ映司みたいな発音すんな!ビビる!!」

エイジス(そういえば、映司いないな…)

カズマ「…“ですが”!」

回答者「「えっ」」

カズマ「“恐竜グリード・ギル” …」

ガタキリバ「尾張キョト!」

ブラカワニ「クガ王!」

カズマ「……“が正気を取り戻した” …」

ヒナ「クジャク・コア!」

アンク「シャチ・コア!」

カズマ「——“その前にオーズが変身していた亜種は” …」

エイジス「なんだっけ…」

後藤「シャジャタ!」

伊達「ガタゴリター!」

ガタキリバ「いや、…ガタゴリタ!」

カズマ「…“ですが!”」

回答者「「いい加減にせんかああッ!?’」」

ソウジ「とりあえず、落ち着いて聞いてくれ…」

カズマ「“王環エイジの所持していたメダルで出来るコンボは”」

エイジ「タトバアアア!」

カズマ「“だけど、それ以外に所持していたコアメダルは?”」

エイジ「…おおおい！！！」

エイジス「……………ウナギ？」

士「大正解！」

夏海「エイジスさんに20ptです！」

エイジ「…レヴァアアアアア！美味しい所搔つ攫いやがつてええええええ！？」

エイジス「適当だったんだが！？」

ソウジ「第三問、兄弟の回答者はラトラーター」  
タクミ「Heaven's road of the KABU  
TO】の三速目から！！」

夏海「“高宮ユリさんが最初にソウジさんに” ……」

伊達「おでん！」

ラトラーター「なんで！？」

伊達「いや、何となく…」

夏海「（ある意味間違ってもいいです）…“食べさせたものは大根の煮物ですが、”」

プトティラ「おいしい！？」

全「“何故味を聞く！？”」

夏海「…………えーっと、“隠し味に使った調味料は？”」

プトティラ「…シャウタは鰹節使うよ！」

士「シャウタ理論は聞いてない！」

ラトラーター「待てよ…シャウタは煮物に、煮干を使うぞ！」

士「だから…」

ブラカワニ「だったら、ママンがよく作るカレーの隠し味…醤油だ！」

ユウスケ「自分達の家での味付けの話をするなー！！」

エイジス「ヒント！」

ソウジ「…醤油も鰹節も当たってはいるんだが、隠し味じゃないな…」

ラトラーター「うーん、シャウタ何入れるっけ…！」

プトティラ「ぷうう…」

海東「君達、ホント五男君の料理好きだよな」

プトティラ「シャウタのご飯、おいしいもん」

ラトラーター「うん。城の料理もいいけど、シャウタのほうが…」

シャウタ「…今日、オムライス作ってあげようか…？」

タジャドル「デレるなそこ！」

後藤「あっちはともかく…砂糖！」

伊達「ソース！」

ヒナ「…胡椒…？」

アंक「あー…アイス！」

全「…なんで！？」「」

ラトラーター「あ、思い出した、…味酛だ！」

夏海「正解です！」

士「…で、決め手は？」

ラトラーター「シャウタの生姜焼き、味酛も入ってたな…って」

ワタル「あんたらに料理の問題したら、五男思考に偏るのもう料理問題しません」

カズマ「続く四問は、兄弟はサゴーズの回答！」

サゴーズ「四男だけに……？」

ラトラーター「それ言ったら、タトバ以外皆順番どおりじゃね？」

シンジ「ただし、以降は崩れるがな」

アスム「問題は、【K a m e n   R i d e r   D E C A D E } 分岐  
されし未来】から！」

ショウイチ「“ 鳴滝の名前の由来は” ……」

回答者「……」

ショウイチ「引つかかれよ！……“ 由来は使用人の名前からですが、

木野桜子の中にいた子供の名前の由来は”」

サゴーズ「ライダーの力を司るから【司】」

ショウイチ「……ですが！」↑引つかかってくれて楽しそう

回答者（（（やっぱり、一回は引つかかってあげないとテンション  
悪いんだな……）））

ショウイチ「“ リイマジネーション集合の際”」

伊達「おでん！」

アंक「アイス！」

ショウイチ「何でやねん！？……“ 一人だけやけに浮いていたモモタ  
ロス。あいつが浮いていた理由は？”」

後藤「……イマジンだったから？」

ブラカワニ「人間じゃないから」

サゴーズ「一人だけ怪物だから」

プトティラ「プリン食べてた！」

シヨウイチ「orz」

エイジス「モモ、タロス…??」

ヒナ「ごめん、会ったことない」

エイジ「同じく」

士「モモタロスの奴、浮かばれないな…おい！この時点で答えれば30pt貰える…相手にチャンスをやってもヒントがほしいか、それでも2pt覚悟でノーヒントでいくか選べ…！」

エイジス「…少なくとも、現在ドンケツは0ptが7人…よし、ヒントだ！」

士「自分がビリになることはないと計算したレーヴァティン当主。お前ら、後で感謝しとけよ」

伊達「いや、以降の奴らが30pt以上取ればあっちがビリだよね？」

士「それでも感謝はしとけ。あー、シヨウイチだからソウジがヒント出せ」

シヨウイチ「なんでだああッ!？」

ソウジ「……そうだな…例え話をしよう、リマジオーズで解説するが、皆ライダーに変身しているのに…王環君一人がギルだととてもなく浮くだろう?」

ヒナ「分かった、……一人だけライダーになれなかった！」

士「あ…」

エイジス「むしろ一人だけ仮面ライダーだった、とか」

士「正解だ！」

回答者「「嘘おおおおッ!？」」

エイジス「当てずっぽうだったのに…」

シンジ「あえて説明するなら、皆変身してもいないのに、モモタロ

スだけ電王になっていたんだよ」

カズマ「ちなみに、【改変された世界でモモタロスどうなったの？】  
【天道だけ別れの言葉言ってないよね？】って疑問は記憶の海に流  
してね！」

タクミ「第五問、兄弟の回答者はタジャドル！」

ユウスケ「問題は…【ディケ雪姫！】から」

アスム「“小人の家に住む四男・シンジさんが、モモタロスとディ  
ケ雪姫の戦いを止めた一言とは？”」

ブラカワニ「…『死ねクソ共』？」

プトティラ「『地面に這い蹲れ』？」

タジャドル「『泣いて喚いて許しを請え』…？』」

カズマ「やだよそんなの！？」

シヨウイチ「まあ、方向性としてはあまり間違っていないけどな！？」

シンジ「ヲイ」

エイジ「『跪け愚民』」

ヒナ「『頭が高い這え』」

後藤「『舌で靴を磨け愚民めが』…？』」

士「発想の病気が多すぎるな」

エイジス「…『犬が俺より高い位置に頭を置くな』」

アंक「『屑が消え去れ』」

タジャドル「ヒント！」

シンジ「…『座れ○○』」

プトティラ「『座れ愚民<sup>タジャドル</sup>』！」

タジャドル「おおいッ！変なルビ振るな！？」

ブラカワニ「『座れ…雑魚』？」

エイジ「…『座れ下衆』」

海東「——正解——！」

回答者「「分かるかあああ！？」」「」

夏海「続く第六問、兄弟の回答者はシャウタです！」

ワタル「問題は『仮面ライダーディケイド&スマブラーもう一つの

コア大戦』、82話『液状とマスケットと狙撃手シャウタ』から！」

エイジ「なんつだとおおおお！？」

士「尚、この問題…アंकは30pt、エイジスは10pt切るまで回答権がないぞ！」

ユウスケ「“聖都パレスを襲ったバクペンギンヤミー。その特性は…”」

プトティラ「…眠い…」

後藤「起きろ！折檻が待ってるぞ——！」

シヨウイチ「折檻確定かよ！」

ユウスケ「…“煙を吸った相手を眠らせることですが、エイジスが寝なかった理由は？”」

伊達「いや、それ、普通に疲れていなかったとか？」

エイジス「いや、自分で言うのもなんだが、オーバーワークだぞ！？」

ヒナ「うーん…鈍かった」

後藤「主役補正…？」

ブラカワニ「運」

エイジ「——レヴァだから」

エイジ「おい！？」

シャウタ「…ヒントッ！」

士「流石、自己犠牲の強い五男…お前ら感謝しとけよ！」

カズマ「エイジスが変身したライダーは？」

五男以外の回答者「「シャウタ」」

シャウタ「そりゃそうなんだけどな！？」

プトティラ「ぷう…？」

ブラカワニ「液化化していたから？」

ソウジ「それは関係ないな…」

後藤「待て、そもそもシャウタは…」

伊達「銃火器だから！」

エイジス「おい！」

エイジ「ノーダメージクリア保持者だから！」

エイジス「怒るぞ！？」

士「ここからはアंकもOKだ」

アंक「…馬鹿が。そもそも、あいつは煙を吸ってない！つまり…

コアメダルを取り返す時以外は、接近戦をしていないんだよ…！」

士「80点」

アंक「は！？」

シャウタ「…あ、マスキットや弓矢で遠距離攻撃をして、煙を浴びないようにしていたから…？」

夏海「正解です！10pt…！」

ユウスケ「いや、だってタイトルに“狙撃手シャウタ”って入ってるだろ。模範解答は、【マスケットなどで離れて攻撃して、煙の射程圏外にいたから】！」  
アंक「納得いくかあああ!?!」

——カランコローン♪

士「さあ、次が最後の問題！」

回答者「嘘おおお!?!」

ワタル「マジです」

アスム「オーズ兄弟は、全員で回答してください!」

海東「問題は…【おいでよライダータウン!】の39話：トンでも小学校!?!からだよ」

ワタル「“この回で、終始テンションのおかしかった人は?”」

エイジス「待て、ライ街って全員テンションおかしいだろ!?!」

士「さあ、答えろ!」

タトバ「えーっと…辰巳シンジ!」

ガタキリバ「それはいつもおかしいだろ!剣立カズマ!」

ラトラーター「あー…もやし!」

サゴーズ「天道総司!」

タジャドル「…デビキ!?!」

シャウタ「えっと、火野映司!」

士「…兄弟で一斉攻撃するな!?!」

タトバ「…海東大樹!?!」

後藤「あああ…もう既に、ポイントが30pt分しか…」

ヒナ「いや、でも、これ最終問題だから1ptでも多いほうが…」  
エイジ「城戸真司だ!」

伊達「えーと、アンコ!」

アंक「アंकだ!……小野寺ユウスケだろ!」

ヒナ「…五代さん!」

士「…もう、面白いしこのままヒントなしでいくか…?」

プトティラ「ぶきゅ…うにゆうう…」

ブラカワニ「…芦河ショウイチ(ボソ)」↑プトティラに耳打ち

プトティラ「……あっしー?」

海東「ん?」

ソウジ「プトティラ、もう一回言ってみようか」

プトティラ「えーと、あちかわ…あしかか…」

後藤「分かった、芦か…ぶほっ!」↑どこからともなくコブラ突進

ブラカワニ「く」↑ブラーニングー装備

伊達「あつ、芦…ぎゃー!」↑コブラ突撃

アंक「あ…ぎゃあああっ!」↑例に漏れず

タトバ「何やってんの親父!」

シャウタ「ぎゃあああ!へび…へびイイ!!」

プトティラ「…あちかわしよいち?」

ショウイチ「なんで舌足らず共は、揃いも揃って『しよいち』と呼ぶ…!」

士「正確には芦河ショウイチだが…正解だ!」

ブラカワニ「やったなマイペット!」

プトティラ「え?でもさっき…」

士「さて、結果発表！……トップは銃火器シャウタの40pt、続いてオーズ兄弟の34pt、エイジの8ptに…」  
プトティラの6pt。よって…」

リュウガSV激情態「…残りは、強化クロちゃんに焼かれてもらいましょう」

ブラックドラグランザー『グオオン！』

全「…ぎゃーっ！？」

エイジス「あ、…だからいなかったのか！？」

プトティラ「ま、待つて、えーじ、あのね…ぶりゃかわに…」

リュウガSV激情態「ところでアंक…二問目でのあの発言、覚えてるよなあ…？」  
↑銃口向ける

アंक「ちょッ待て…ぎゃあああ！？バラバラにされてたまるかー！」

ブラカワニ「ちょ、俺盾にするの禁止ーッ！？」

ブラックドラグランザー『グオオオンッ！』

プトティラ「ぶきゅーん！」  
↑炎直撃

タトシャウ「…プトティラアアア！？」

タジャガタラトサゴ「…親父を庇ったあああ！？」

ブラカワニ「マイペットオオオ！！」

リュウガSV激情態「えっ、どうしたのプトティラ！？」

プトティラ「えーじお願い…パパン虐めないでえええ」

リュウガSV激情態「…どういうこと？」

プトティラ「あのね、最後の問題、ブラカワニが答え教えてくれたの……だからブラカワニ悪くない！撃つなら俺撃つてえええええ」↑  
暗黒破壊神に泣きつく

海東「え、不正……？」

プトティラ「ぷきゅうつうつうつ」

士「しかし結果は結果だ。これは勝負の世界……ブラカワニは勝負に負けたんだ、罰ゲームは当然」

エイジス「やめんか馬鹿大人」↑ロケットランチャー発射

士「ぐほっ……！」

海東「なんで僕も……！」

映司「……ま、これじゃ怒れないし撃てるはずもないよなあ」↑プ

トティラなでなで

プトティラ「ぐっす……」

ヒナ「撃っちゃったら可哀想だもんね」

ギル「まあ……あれだ、うん」↑メダガブ装備

Esシャウタ「むしろ、これは問題を出した奴らに撃つということ  
で」↑爆筒装備

リイマジ達「……企画は士（さん）が立てました」「」

士「おあい……？」

ギル「プトティラの涙、無駄にはしない……」

Esシャウタ「というわけで、」

Hタジャドル「士さん……覚悟！」

映司グリード「……そもそも、何で俺は罰ゲーム担当なのかな？」

ソウジ「【21の主役とコアメダル】はこれで終わるが…」

シンジ「【NOVEL大戦SUMMER】はまだまだ続くよ！」

カズマ「皆、よろしくね」

士「ちよつと待て、綺麗に終わらせようとする…ぎゃああああああ！

？」↑被弾

シヨウイチ「——よし、閉幕！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8299u/>

---

ギャグNOVEL大戦SUMMER 21の主役とコアメダル

2011年8月16日15時45分発行